

文部科学省委託事業

平成 22 年度

**「社会教育による地域の
教育力強化プロジェクト」
における実証的共同研究報告書**

文部科学省委託事業

平成 22 年度

**「社会教育による地域の
教育力強化プロジェクト」
における実証的共同研究報告書**

目 次

はじめに	1
「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」 における実証的共同研究事業について	2
資料：高校生 生活・意識調査 アンケート報告	
資料1 アンケート用紙(生徒用)	6
資料2 アンケート用紙(保護者用)	7
資料3 アンケート質問項目(生徒用)	8
資料4 アンケート質問項目(保護者用)	15
資料5 アンケート集計結果(生徒)	18
資料6 アンケート集計結果(保護者)	45
アンケート調査分析	58
調査結果をふまえた研修会(シンポジウム)	
主催者挨拶	70
基調講演	72
研修会開催地区報告 九州地区(鹿児島県)	83
研修会開催地区報告 北信越地区(新潟県)	93
研修会開催地区報告 関東地区(埼玉県)	104
研修会開催地区報告 近畿地区(京都府)	112
平成22年度 研修会(シンポジウム)参加者アンケート	121
モデルケースとしてのリーダー報告	
岐阜県高等学校PTA連合会第26回「PTフォーラム大会」	126
京都府立高等学校PTA連合会理事研修会	128
埼玉県熊谷女子高等学校PTA研修会	131
石川県金沢伏見高等学校PTA研修会	132
福井県高P連会報	134
あとがき	139

はじめに

社会教育による地域の教育力強化プロジェクト事業の取り組み

社団法人全国高等学校 PTA 連合会
会長 高 間 専 逸



今日、高校生をめぐる社会情勢は、かつてないほどのめまぐるしい変化と変動の時代が続いております。全高P連では平成18年度より3年次計画で進め

てまいりました「子供を取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実」事業のまとめを昨年度末に行いましたが、ここでは社会環境がもたらすもろもろの影響から、多くの高校生のメンタルヘルスが極めて危険な状態にあることがわかってまいりました。急速な通信技術の進化に伴って携帯電話の多機能化が進んで、インターネットなどに接続できることから、社会に氾濫する健全育成に有害な情報を適切に判断するのに必要な基本的な人間形成の遅れや、社会性の未発達などに起因する問題が多発しています。健康でさわやかな、はつらつとした高校生がたくさん存在する一方で、理解しがたい青少年の犯罪も増え続けています。このような輻湊化する社会環境においては、ややもすると、親自身も子育てに自信を失いがちです。しかしながら、私たちは孤立して悩むのではなく、共に悩みや苦しみを語り合い、解決策をさぐるために、PTAが存在していることを忘れてはいけないと思うのです。

本年度、全高P連は京都大学、全国高等学校長

協会との共同研究として、文部科学省の委託事業であります「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」に取り組みました。過去5年間にわたる高校生の生活・意識調査を踏まえ、高校生のメンタルヘルスと学習意欲を調査し、その結果を分析した上で高校生を支援する手だてを地域ごとに考えていただくため、県レベルで行う研修会の成果を単位PTAまで伝達するリーダーを育成するというプログラムを提案致しました。

本報告書には、調査の実際と、関東地区・北信越地区・近畿地区・九州地区において実施した研修会報告と共に、本連合会の健全育成委員が関係機関と連携し地域のリーダーとして県レベル、単位PTAレベルでの研修会を開催しました。モデルケースとして上記4地区で行われた研修会の成果を県レベル・単位PTAレベルに伝達した様子が報告されております。

なお、2月に単位PTAで開催予定の研修会が多数を占め、残念ですが本報告書に掲載できませんでした。

また、基調講演及び本連合会役員挨拶の内容は重複していることから、別に項目を立てて示しました。

最後に、本事業を遂行するために高校生の生活・意識調査にご協力頂いた全国45校の高校生とその保護者の皆さまに厚く御礼申し上げますと共に、調査の結果を共有し、且つそれを活かした取り組みが多く単位PTAレベルで実践していただけることを願っております。

「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」 における実証的共同研究事業について

1 趣 旨

事業の必要性

「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実」のテーマで本全高P連は、19年度より4カ年にわたり、調査研究事業を実施してきた。平成20・21年度は文部科学省の【保護者を中心とした学校・家庭・地域連携強化及び活性化推進事業】委託を受けていた（それまでは、福祉医療機構の助成を受けていた）。

この調査結果の一つに、近年の高校生のメンタルヘルスの現状が極めて危機的な状況にあること

が明確となった。また、児童生徒（小学生～高校生）においては、昨今、学力低下、各種問題行動（ケータイ依存、いじめ、性行動の早期化、学級崩壊、不登校、自傷行為、引きこもり、薬物乱用等）の増加、及び社会性や規範意識の欠落が指摘されている。これらの現状に鑑み、子どもたちのメンタルヘルスの向上支援は必須のそして喫緊の課題であり、メンタルヘルス向上のために支援できる人材の育成が必要である。

2 具体的実践の概要

計画内容

テーマ

「子どもたちのメンタルヘルスと学習意欲」

子どもたちのメンタルヘルスと諸問題がどのように関連しているか、さらにその背景が保護者との関係や地域との関わり等のさまざまな要因がどのように影響しているかを調査し、今後の家庭・学校・地域における支援活動に資する情報を収集し、その情報を広く社会に周知すること、そして子どもたちのメンタルヘルスの重要性を鑑み、その支援向上をすることができる人材を育成するプログラムを開発することを目的とする。

現在、学校関係者、保護者の最も大きな関心事のひとつに生徒の学力低下がある。そこでまず、子どもたちのメンタルヘルスが、学習意欲をはじめとする各種活動意欲の低下とどのように関連しているのか、及びその背景に保護者との関係を含む家庭や地域社会がどのように影響を及ぼしてい

るかについて共同研究組織の協力を得てアンケート調査を行う。これによって子どもたちのメンタルヘルスの実際を把握するとともに、調査結果を分析し、その結果を踏まえて共同研究組織である各都道府県市高等学校PTA連合会が地域の校長会、社会教育団体および警察関係部署などと連携しながら研修会を実施する。研修会では有識者によるメンタルヘルスに関する講演や保護者を含む参加者相互の情報交換、及び討議をとおしてメンタルヘルス向上のための実践に向けた支援策を練る。さらに県レベル健全育成委員もしくは単位PTA健全育成担当役員が支援のためのリーダーとなり、県レベルの研修会における成果を単位PTAに持ち帰り、学習会をもって周知する。

また、本事業が学校や限られた地域に留まらないように、文部科学省とともにプレスリリース等を行ったり、本連合会ホームページに報告書を掲載したりする。

3 高校生 生活・意識調査

調査目的

現在、学校関係者、保護者の最も大きな関心事の一つに生徒の学力低下がある。本件の調査によって子どもたちのメンタルヘルスが、学習意欲をはじめとする各種活動意欲の低下とどのように関連しているのか、及び、その背景に保護者との関係を含む家庭環境がどのように影響を及ぼしているのかについて共同研究組織の協力を得て子どもたちのメンタルヘルスの実際を把握し、現代の社会環境に必要な親子関係のあり方、大人の役割探究に資する情報を得ることを目的とする。

- 協力（共同研究）者委員会設置
この事業の推進は、全高P連健全育成委員会活

動に位置づけるが、専門的に運営する必要がある
ので、協力者委員会を設置する。

- 協力者委員会構成

委員長

木原 雅子（京都大学大学院医学研究科准教授）

委員

田川 章夫（全国高等学校長協会生徒指導委員長）

加藤 秀子（京都大学大学院医学研究科研究員）

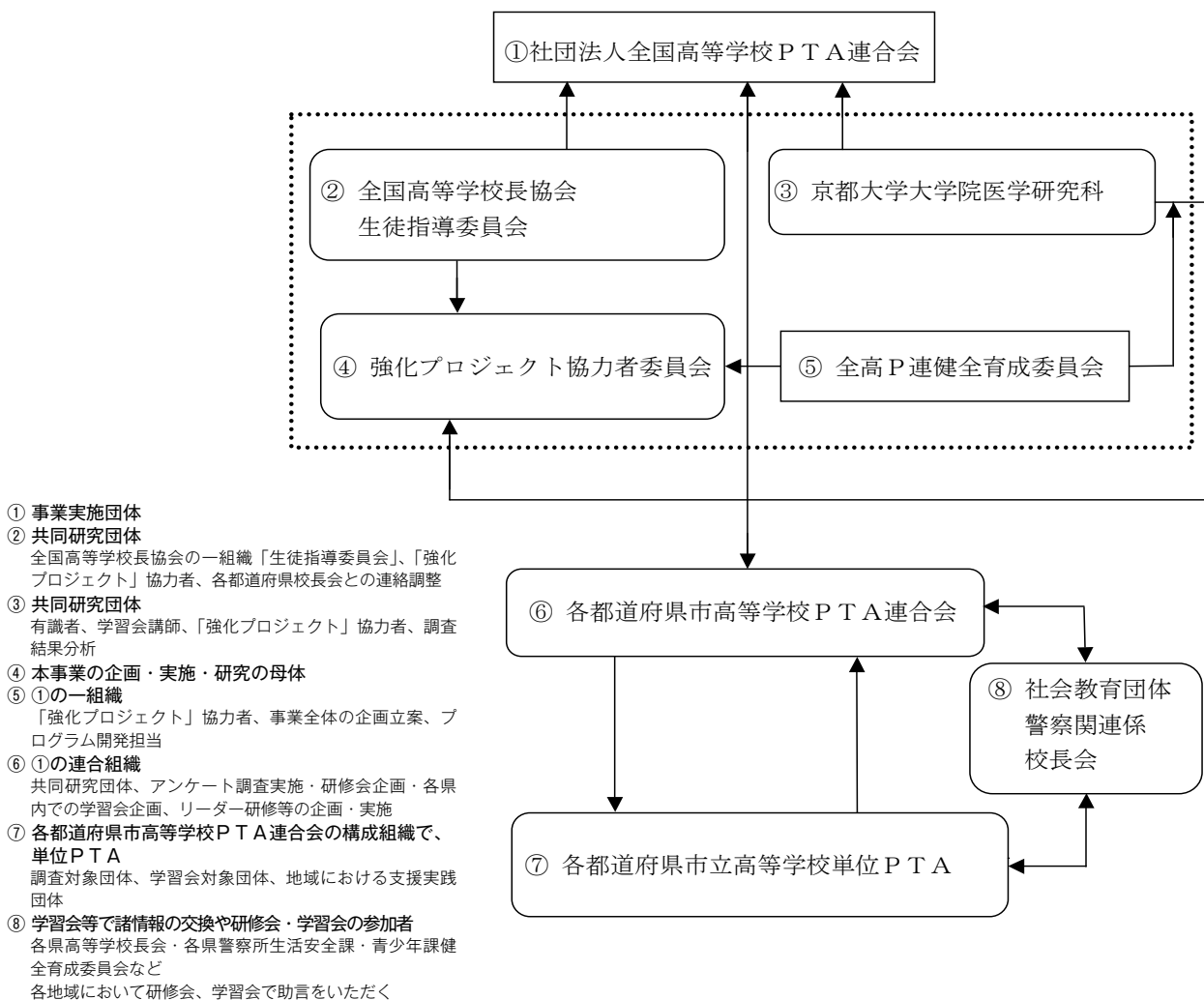
相川 順子（全高P連副会長・健全育成委員会
担当役員）

揚原 安麿（全高P連健全育成委員会委員長）

孫竹 昌幸（全高P連健全育成委員会副委員長）

北沢 好一（全高P連事務局長）

4 研究組織及び体系図



5 アンケート調査の実施

- ・調査対象：全国の高校生とその保護者
- ・調査対象校：全国9地区 各地区5校（計45校）
内訳 各地区 ①普通科 高校 3校
②専門または総合学科高校 2校
- ・対象及び対象学年：第2学年生徒3クラス（1学級40名）。及びその保護者（計／約120名×2）。全国で生徒5,400名とその保護者5,400名を調査予定とする。
- ・調査方法：アンケート冊子を選定校に郵送（生徒は学校記入 保護者は家庭記入）
- ・調査期間：平成22年8月25日～平成22年9月10日
- ・入力・集計：業者委託
- ・調査結果分析・研究：平成22年10月末まで。
調査研究結果については調査報告書を作成し周知する。

6 調査後の研修会／学習会等の実施

子どもたちのメンタルヘルスの実際についてアンケートを活用して把握・分析し、その資料をもとに、保護者の学校・家庭・地域へのかかわりについての課題を最新情報や、社会教育関係機関及び青少年育成関係機関などの先進的な取組について共有する。そのためにメンタルヘルスの向上支援について研究協議するための研修会を各都道府県市高等学校PTA連合会が実施する。研修会には全国の保護者及び連携する地域の青少年育成団体等の関係者が参加できる学習の場とし、参加者個人の見識を高めることはもとより、その内容を単位PTAを核として地域に伝達し、学習していくことを目的の一つとして開催することとする。また、研修会を効果的に開催するために、その前後に内容や方法について準備会をとおして学習し検討していくものとする。

学校・家庭・地域をつなぐ地域人材として、メンタルヘルス向上のために保護者が学校や子ども

も、地域とどのように関わっていくべきか、その手法や具体的なプログラム等について理解を深めるための学習会（リーダー研修など）を実施する。学習会は、都道府県（政令市）や市町村、地区や学区などにおいて、地域の目的に応じて実施する。

学習会で学んだ、PTAが核となって地域をつなぐための役割や活動について、また具体的な課題に基づく支援活動に関する取組方法を研究する。

メンタルヘルス向上支援のための最新情報や先進事例など、本事業に係る成果物を報告書に纏める。

事業終了後は、メンタルヘルス向上のための地域での取組の成果を全国へ周知し、モデル校のPTA活動を紹介し、モデルとなる具体的手法の普及を図っていくため、HPや団体広報紙等を活用してPRしていく。その成果を社会教育機関・社会教育関係機関及び警察関係機関などに様々な機会を通して広報普及を図ることで、全国的に支援の裾野を拡大する。

7 事業推進団体

本事業は下記の(社)全国高等学校PTA連合会の健全育成委員会が推進する。

平成22年度健全育成委員会の構成員

委員長

揚原 安麿（福井県高等学校PTA連合会）

副委員長

孫竹 昌幸（北海道高等学校PTA連合会）

担当役員

相川 順子（青森県高等学校PTA連合会）

委員

松本 裕史（埼玉県高等学校PTA連合会）

本間 正樹（東京都公立高等学校PTA連合会）

木村 まゆみ（石川県高等学校PTA連合会）

日比野 淳治（岐阜県高等学校PTA連合会）

卯瀧 俊明（京都府公立高等学校PTA連合会）

尾田 安広（高知県高等学校PTA連合会）

遠矢 仁司（鹿児島県高等学校PTA連合会）

資料

高校生 生活・意識調査 アンケート報告

資料①および②はアンケート調査用紙の体裁を示す写真。

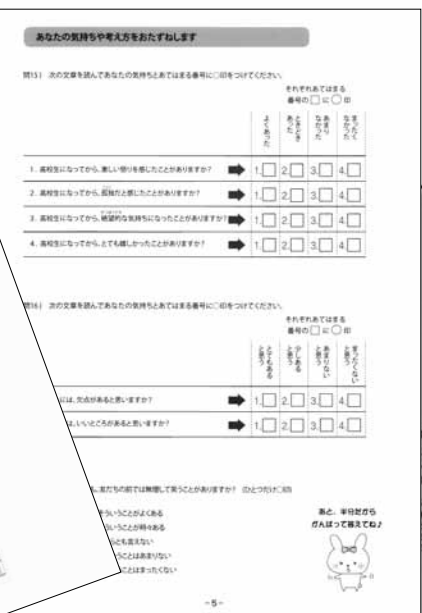
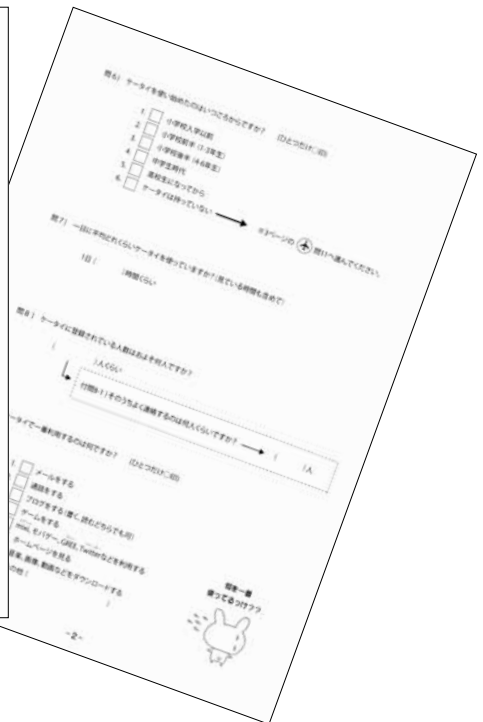
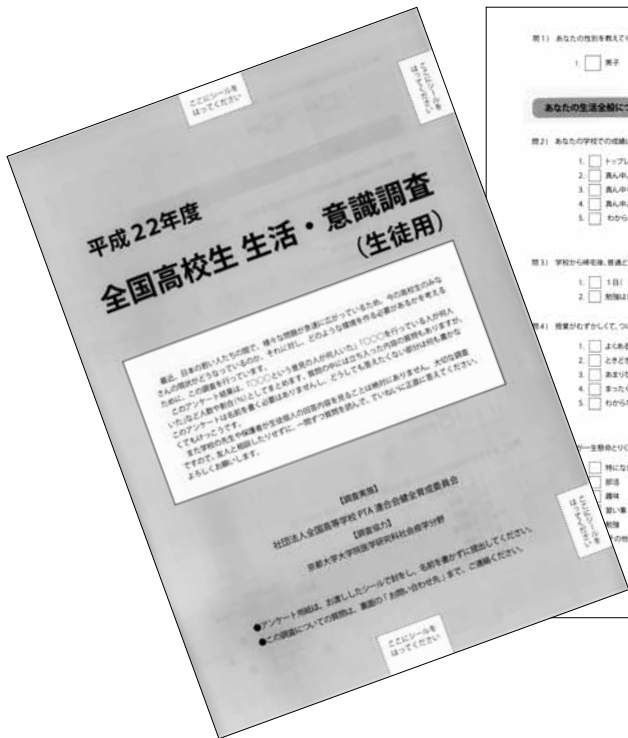
アンケート用紙は記入後の秘密を保護するために、4箇所シールで封をする形態。

資料③および④は生徒および保護者を対象としたアンケート項目である。

資料⑤および⑥にはアンケート項目別の集計数値を示した。

アンケート調査分析は、上記資料および昨年を含む過去の調査等との比較によって分析されたものである。







全国高校生生活・意識調査内容

問1 あなたの性別を教えてください。(どちらかに○)

- 1 男子
- 2 女子

あなたの生活全般についておたずねします

問2 あなたの学校での成績はどれくらいだと思いますか？(ひとつだけ○)

- 1 トップレベル
- 2 真ん中より上
- 3 真ん中くらい
- 4 真ん中より下
- 5 わからない

問3 学校から帰宅後、普通どれくらい勉強をしますか？(塾の勉強時間も含めて)(どちらかに○)

- 1 1日()分くらい
- 2 勉強はしない

問4 授業がむずかしくて、ついていけないことはありますか？(ひとつだけ○)

- 1 よくある
- 2 時々ある
- 3 あまりない
- 4 まったくない
- 5 わからない

問5 あなたが一生懸命とりくんでいることがありますか？(ひとつだけ○)

- 1 特にない
- 2 部活
- 3 趣味
- 4 習い事
- 5 勉強
- 6 その他()

問6 ケータイを使い始めたのはいつごろからですか？(ひとつだけ○)

- 1 小学校入学以前
- 2 小学校前半(1-3年生)
- 3 小学校後半(4-6年生)
- 4 中学生時代
- 5 高校生になってから
- 6 ケータイは持っていない → * 問11へ進んでください。

問7 一日に平均どれくらいケータイを使っていますか？（見ている時間も含めて）
一日（ ）時間くらい

問8 ケータイに登録している人数はおよそ何人ですか？
およそ（ ）人くらい↓

付問8 そのうちよく連絡するのは何人くらいですか？→（ ）人

問9 ケータイで一番利用するのは何ですか？（ひとつだけ○）

- 1 メールする
- 2 通話する
- 3 ブログをする（書く、読むどちらでも可）
- 4 ゲームをする
- 5 mixi、モバゲー、GREE、Twitter などを利用する
- 6 ホームページを見る
- 7 音楽、画像、動画などをダウンロードする
- 8 その他（ ）

問10 特別な用事などが無い普通の日、ケータイを家に置き忘れて外出してしまいました。
あなたはどのようなきもちになると思いますか？（家に取りに帰ることはできないとします）
もっとも近いものにひとつだけ○印をつけてください。（ひとつだけ○）

- 1 とても不安な気持ちになると思う
- 2 少し落ち着かない気持ちになると思う
- 3 腹が立ってくると思う
- 4 パニックになると思う
- 5 孤独な気持ちになると思う
- 6 自由な気持ちがすると思う
- 7 のんびりとした気持ちがすると思う
- 8 不便だと思う
- 9 何ともないと思う
- 10 その他（ ）

問11 mixi、モバゲー、GREE、Twitterなどをりようしますか？（ひとつだけ○）

- 1 ケータイもパソコンも持っていない
- 2 ケータイやパソコンを持っているが、そのようなサイトは利用しない
- 3 利用している↓

付問11-3-1 一日平均（ ）時間くらい

付問11-3-2 一番多く利用しているものは？（ひとつだけ○）

- ① mixi ② モバゲー ③ GREE ④ Twitter

付問11-3-3 それらのサイトで合計何人くらいと交流していますか？↓

（ ）人

問12 パソコンを持っていますか？（ひとつだけ○）

- 1 自分のパソコンを持っている
- 2 自分専用ではないが家族共用のパソコンを持っている
- 3 パソコンは持っていない → * 問14へ進んでください。

問13 パソコンで一番利用するのは何ですか？（ひとつだけ○）

- 1 メールをする
- 2 ブログをする（書く、読むどちらでも可）
- 3 ゲームをする
- 4 mixi、Twitter などを利用する
- 5 ホームページを見る
- 6 音楽、画像、動画などをダウンロードする
- 7 その他（ ）

問14 あなたは次のような経験がありますか？

それぞれ当てはまる番号に○印

- | | | |
|--------------------|-----|------|
| 1 喫煙 | ①はい | ②いいえ |
| 2 飲酒 | ①はい | ②いいえ |
| 3 アルバイト | ①はい | ②いいえ |
| 4 保護者や教員等が同伴しない外泊 | ①はい | ②いいえ |
| 5 睡眠薬、精神安定剤などの服用 | ①はい | ②いいえ |
| 6 大麻（マリファナ）などの薬物使用 | ①はい | ②いいえ |
| 7 性関係 | ①はい | ②いいえ |
| 8 暴力（ふるわれた） | ①はい | ②いいえ |
| 9 暴力（ふるった） | ①はい | ②いいえ |
| 10 万引き | ①はい | ②いいえ |
| 11 いじめ（された） | ①はい | ②いいえ |
| 12 いじめ（した） | ①はい | ②いいえ |
| 13 自傷行為（リストカットなど） | ①はい | ②いいえ |

あなたの気持ちや考え方をお尋ねします

問15 次の文章を読んであなたの気持ちと当てはまる番号に○印を付けて下さい。

それぞれ当てはまる番号に○印

- 1 高校生になってから、激しい怒りを感じたことがありますか？
①よくあった ②時々あった ③あまりなかった ④全くなかった
- 2 高校生になってから、孤独だと感じたことがありますか？
①よくあった ②時々あった ③あまりなかった ④全くなかった
- 3 高校生になってから、絶望的な気持ちになったことがありますか？
①よくあった ②時々あった ③あまりなかった ④全くなかった
- 4 高校生になってから、とても嬉しかったことがありますか？
①よくあった ②時々あった ③あまりなかった ④全くなかった

問16 次の文章を読んであなたの気持ちと当てはまる番号に○印をつけてください。

それぞれ当てはまる番号に○印

- 1 あなたには、欠点があると思いますか？
①とてもあると思う ②少しあると思う ③あまりないと思う ④まったくないと思う
- 2 あなたには、いいところがあると思いますか？
①とてもあると思う ②少しあると思う ③あまりないと思う ④まったくないと思う

問17 おかしくなくても、友だちの前では無理をして笑うことがありますか？（ひとつだけ○）

- ①そういうことがよくある ②そういうことが時々ある ③そういうことはあまりない
- ④そういうことは全くない

問18 あなたのことを本気で心配してくれる大人がいますか？

- ①いない ②いない気がする ③どちらとも言えない ④いる気がする ⑤いる

問19 あなたが一番自分らしく過ごせるのはいつですか？（ひとつだけ○）

- ①保健室にいるとき ②趣味に没頭しているとき
- ③ mixi、モバゲー、GREE、Twitter など利用しているとき ④部活をしているとき
- ⑤ブログをしているとき ⑥家の中でひとりであるとき ⑦友だちといるとき
- ⑧家族と一緒にいるとき ⑨その他（ ） ⑩自分らしく過ごせることはまったくない

問20 次のことはあなたにどのくらいあてはまりますか？ 教えてください。

それぞれ当てはまる番号に○印

- 1 一度失敗しても、次はうまくいくようにしようと工夫する
①とても当てはまる ②だいたいあてはまる ③どちらともいえない ④あまりあてはまらない
- ⑤まったくあてはまらない
- 2 困ったときは、自分ができることをまずやる
①とても当てはまる ②だいたいあてはまる ③どちらともいえない ④あまりあてはまらない
- ⑤まったくあてはまらない
- 3 失敗したとき、自分のどこが悪かったかを考える
①とても当てはまる ②だいたいあてはまる ③どちらともいえない ④あまりあてはまらない
- ⑤まったくあてはまらない

問21 自分の間違いを注意されると、どのような気持ちになりますか？（ひとつだけ○）

- ①腹が立つ ②恥ずかしくなる ③納得する ④落ち込む ⑤運が悪かったと思う
- ⑥自分が否定されたような気がする ⑦何とも思わない ⑧反省する ⑨その他（ ）

問22 次のことはあなたにどのくらいあてはまりますか？ 教えてください。

それぞれ当てはまる番号に○印

- 1 親しくない人でも、なっていたらとても気になる
①自分によくあてはまる ②自分にまあまああてはまる ③どちらともいえない
- ④自分にあまりあてはまらない ⑤自分にまったくあてはまらない

- 2 身の回りの整理整頓はきちんとする
 - ①自分によくあてはまる ②自分にまあまああてはまる ③どちらともいえない
 - ④自分にあまりあてはまらない ⑤自分にまったくあてはまらない
- 3 しつこくからかわれている人を見ると、からかっている人に対して腹が立つ
 - ①自分によくあてはまる ②自分にまあまああてはまる ③どちらともいえない
 - ④自分にあまりあてはまらない ⑤自分にまったくあてはまらない
- 4 学校の規則は守る
 - ①自分によくあてはまる ②自分にまあまああてはまる ③どちらともいえない
 - ④自分にあまりあてはまらない ⑤自分にまったくあてはまらない
- 5 仲間はずれにされている人を見ると、かわいそうになる
 - ①自分によくあてはまる ②自分にまあまああてはまる ③どちらともいえない
 - ④自分にあまりあてはまらない ⑤自分にまったくあてはまらない

小学校低学年のときのことについてのしつもんです

問23 次の行動をすることについてどう思いますか？

それぞれ当てはまる番号に○印

- 1 買い物などの列に並ぶとき、途中から割り込むこと
 - ①まったくかまわないと思う ②まあまあかまわないと思う ③どちらともいえない
 - ④あまりよくないと思う ⑤とてもよくないと思う ⑥どうでもいいと思う
- 2 電車内などでお化粧すること
 - ①まったくかまわないと思う ②まあまあかまわないと思う ③どちらともいえない
 - ④あまりよくないと思う ⑤とてもよくないと思う ⑥どうでもいいと思う
- 3 誰かが話しかけている時に、他の人にケータイでメールをうつこと
 - ①まったくかまわないと思う ②まあまあかまわないと思う ③どちらともいえない
 - ④あまりよくないと思う ⑤とてもよくないと思う ⑥どうでもいいと思う
- 4 コンビニの前などで地面に座り込んでしゃべったり、ものを食べたりすること
 - ①まったくかまわないと思う ②まあまあかまわないと思う ③どちらともいえない
 - ④あまりよくないと思う ⑤とてもよくないと思う ⑥どうでもいいと思う
- 5 遅刻や宿題忘れのとき、嘘をついて言い訳をすること
 - ①まったくかまわないと思う ②まあまあかまわないと思う ③どちらともいえない
 - ④あまりよくないと思う ⑤とてもよくないと思う ⑥どうでもいいと思う

問24 小学校低学年のころ、あなたは叱られることやほめられること、どちらが多かったですか？

- 1 保護者から（ひとつだけ○）
 - ①叱られることが多かった
 - ②叱られたり、ほめられたり同じくらいだった
 - ③ほめられることが多かった
 - ④叱られることもほめられることもなかった
 - ⑤覚えていない

- 2 学校の先生から（ひとつだけ○）
- ①叱られることが多かった
 - ②叱られたり、ほめられたり同じくらいだった
 - ③ほめられることが多かった
 - ④叱られることもほめられることもなかった
 - ⑤覚えていない

ここから先は高校2年生の現在についての質問です

問25 高校生になってから、あなたは叱られることやほめられること、どちらが多いですか？

- 1 保護者から（ひとつだけ○）
- ①叱られることが多かった
 - ②叱られたり、ほめられたり同じくらいだった
 - ③ほめられることが多かった
 - ④叱られることもほめられることもなかった
 - ⑤覚えていない
- 2 学校の先生から（ひとつだけ○）
- ①叱られることが多かった
 - ②叱られたり、ほめられたり同じくらいだった
 - ③ほめられることが多かった
 - ④叱られることもほめられることもなかった
 - ⑤覚えていない

周りの人との関係についてお聞きします

問26 友だちのなかで『一番親しい友だち』についてお聞きします。

それぞれ当てはまる番号に○印

- 1 その友だちを心から信じられますか？
- ①とてもそう思う ②まあまあそう思う ③どちらかわからない ④あまりそう思わない
 - ⑤まったくそう思わない ⑥そのような人はいない
- 2 困ったときその友だちに一緒にいてほしいと思いますか？
- ①とてもそう思う ②まあまあそう思う ③どちらかわからない ④あまりそう思わない
 - ⑤まったくそう思わない ⑥そのような人はいない
- 3 その友だちに話を聞いてほしいと思いますか？
- ①とてもそう思う ②まあまあそう思う ③どちらかわからない ④あまりそう思わない
 - ⑤まったくそう思わない ⑥そのような人はいない

問27 学校や塾の先生の中で『一番好きな先生』についてお聞きします。

それぞれ当てはまる番号に○印

- 1 その先生を心から信じられますか？
- ①とてもそう思う ②まあまあそう思う ③どちらかわからない ④あまりそう思わない
 - ⑤まったくそう思わない ⑥そのような人はいない
- 2 困ったときその先生と一緒にいてほしいと思いますか？
- ①とてもそう思う ②まあまあそう思う ③どちらかわからない ④あまりそう思わない
 - ⑤まったくそう思わない ⑥そのような人はいない

3 その先生に話を聞いてほしいと思いますか？

- ①とてもそう思う ②まあまあそう思う ③どちらかわからない ④あまりそう思わない
⑤まったくそう思わない ⑥そのような人はいない

問28 女性保護者（例：母親など）についてお聞きします。

それぞれ当てはまる番号に○印

1 その人を心から信じられますか？

- ①とてもそう思う ②まあまあそう思う ③どちらかわからない ④あまりそう思わない
⑤まったくそう思わない ⑥そのような人はいない

2 困ったときその人と一緒にいてほしいと思いますか？

- ①とてもそう思う ②まあまあそう思う ③どちらかわからない ④あまりそう思わない
⑤まったくそう思わない ⑥そのような人はいない

3 その人に話を聞いてほしいと思いますか？

- ①とてもそう思う ②まあまあそう思う ③どちらかわからない ④あまりそう思わない
⑤まったくそう思わない ⑥そのような人はいない

問29 男性保護者（例：父親など）についてお聞きします。

1 その人を心から信じられますか？

- ①とてもそう思う ②まあまあそう思う ③どちらかわからない ④あまりそう思わない
⑤まったくそう思わない ⑥そのような人はいない

2 困ったときその人と一緒にいてほしいと思いますか？

- ①とてもそう思う ②まあまあそう思う ③どちらかわからない ④あまりそう思わない
⑤まったくそう思わない ⑥そのような人はいない

3 その人に話を聞いてほしいと思いますか？

- ①とてもそう思う ②まあまあそう思う ③どちらかわからない ④あまりそう思わない
⑤まったくそう思わない ⑥そのような人はいない

最後にお聞きします

問30 今、あなたにとって一番つらいことは何ですか？

問31 今、あなたにとって一番うれしいことは何ですか？

問1 あなたの性別をおしえてください。（どちらかに○）

- 1 男性
- 2 女性

問2 あなたの年齢をお答えください。（ひとつだけ○）

- 1 30代
- 2 40代
- 3 50代
- 4 それ以外

問3 あなたの高校2年生のお子さんの性別をおしえてください。（あてはまるものに○）

- 1 男子
- 2 女子
- 3 双子（男子／女子／男子と女子）→いずれかあてはまるものに○印をつけてください。

最初に、あなたご自身についての質問です

問4 あなたが、一番一生懸命取り組んでいることがありますか？（ひとつだけ○）

- 1 趣味
- 2 家事
- 3 仕事
- 4 子育て
- 5 その他（ ）
- 6 特にない

問5 次の文章を読んであなたの気持ちとあてはまる番号に○印をつけてください。

それぞれあてはまる番号に○印

1 あなたには、欠点があると思いますか？

- ①とてもあると思う ②少しあると思う ③あまりないと思う ④まったくないと思う

2 あなたには、いいところがあると思いますか？

- ①とてもあると思う ②少しあると思う ③あまりないと思う ④まったくないと思う

問6 おかしくなくても、人の前では無理して笑うことがありますか？（ひとつだけ○）

- ①よくある ②時々ある ③どちらとも言えない ④あまりない ⑤まったくない

問7 あなたのことを本気で心配してくれる人がいますか？（ひとつだけ○）

- ①いない ②いない気がする ③どちらとも言えない ④いる気がする ⑤いる

問8 次のことはあなたにどのくらいあてはまりますか？こたえてください。

それぞれあてはまる番号に○印

- 1 親しくない人でも、泣いていたらとても気になる
①自分によくあてはまる ②自分にまあまああてはまる ③どちらともいえない
④自分にはあまりあてはまらない ⑤自分にはまったくあてはまらない
- 2 身の回りの整理整頓はきちんとする
①自分によくあてはまる ②自分にまあまああてはまる ③どちらともいえない
④自分にはあまりあてはまらない ⑤自分にはまったくあてはまらない
- 3 約束の時間は必ず守る
①自分によくあてはまる ②自分にまあまああてはまる ③どちらともいえない
④自分にはあまりあてはまらない ⑤自分にはまったくあてはまらない
- 4 仲間はずれにされている人を見ると、かわいそうになる
①自分によくあてはまる ②自分にまあまああてはまる ③どちらともいえない
④自分にはあまりあてはまらない ⑤自分にはまったくあてはまらない

問9 次の行動をすることについてどうおもいますか？

それぞれあてはまる番号に○印

- 1 買い物などの列に並ぶとき、途中から割り込むこと
①まったくかまわないと思う ②まあまあかまわないと思う ③どちらともいえない
④あまりよくないと思う ⑤とてもよくないと思う ⑥どうでもいいと思う
- 2 電車内でお化粧をすること
①まったくかまわないと思う ②まあまあかまわないと思う ③どちらともいえない
④あまりよくないと思う ⑤とてもよくないと思う ⑥どうでもいいと思う
- 3 誰かが話しかけているときに、他の人にケータイでメールを打つこと
①まったくかまわないと思う ②まあまあかまわないと思う ③どちらともいえない
④あまりよくないと思う ⑤とてもよくないと思う ⑥どうでもいいと思う
- 4 コンビニの前などで地面に座り込んでしゃべったり、物を食べたりすること
①まったくかまわないと思う ②まあまあかまわないと思う ③どちらともいえない
④あまりよくないと思う ⑤とてもよくないと思う ⑥どうでもいいと思う
- 5 遅刻や提出物忘れのとき、嘘をついて言い訳をすること
①まったくかまわないと思う ②まあまあかまわないと思う ③どちらともいえない
④あまりよくないと思う ⑤とてもよくないと思う ⑥どうでもいいと思う

次に、あなたのお子さん（高校2年生）についてお聞きします

問10 お子さんが小学校低学年のころについての質問です。（ひとつに○）

- ①叱ることが多かった ②叱ったり、ほめたり同じくらいだった ③褒めることが多かった
④叱ることもほめることもなかった ⑤覚えていない

問11 高校生になってからの質問です。（ひとつに○）

- ①叱ることが多かった ②叱ったり、ほめたり同じくらいだった ③褒めることが多かった
④叱ることもほめることもなかった ⑤覚えていない

問12 お子さんの成績はどれくらいだと思いますか？（ひとつに○）

- ①トップレベル ②真ん中より上 ③真ん中くらい ④真ん中より下 ⑤わからない

問13 お子さんが一生懸命取り組んでいることがありますか？（ひとつに○）

- ①部活 ②趣味 ③習い事 ④勉強 ⑤その他（ ） ⑥特にない ⑦わからない

問14 あなたのお子さんは人の気持ちを思いやることができますか？（ひとつに○）

- ①できると思う ②多分できると思う ③多分できないと思う ④できないと思う
⑤わからない

あなたの現在の立場（保護者）でお答えください

問15 あなたのお子さん（高校2年生）との関係についてお答えください。

それぞれあてはまる番号に○印

1 子どもに対して過保護だと思う。

- ①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

2 子どもの話を聞くのが好きである。

- ①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

3 子どもと一緒に行動するのが好きである。

- ①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

4 子どもの良いところではなく、悪いところばかり目につく。

- ①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

5 子どもの考えを真剣に理解しようとしている。

- ①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

6 就職先は家から近いところにしてほしい。

- ①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

7 子どもが自分の言うことを聞かないと腹が立つ。

- ①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

8 ダメなところがあっても、子どもは宝だと思う。

- ①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

9 誰よりも、親を頼りにして欲しい。

- ①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

10 親がやかましく言わないと子どもはだらけると思う。

- ①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

11 家庭での親子の会話は多い方だと思う。

- ①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

12 子どもの成長は嬉しいが、反面寂しく感じる。

- ①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

問16 お子さんのことで一番悩んでいることは何ですか？

問17 お子さんのことで一番嬉しかったことは何ですか？

**2010年度
全国PTAアンケート
女子・男子
高校2年生**

*入力件数3490件
無回答提出8件削除
性別不明39件削除
矛盾回答多数4件削除

性別

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男子	1575	45.8	45.8	45.8
	女子	1864	54.2	54.2	100.0
	合計	3439	100.0	100.0	

問2. あなたの学校での成績はどれくらいだとおもいますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	トップレベル	117	7.4	7.5	7.5
		真ん中より上	291	18.5	18.6	26.1
		真ん中くらい	458	29.1	29.3	55.3
		真ん中より下	598	38.0	38.2	93.5
		わからない	101	6.4	6.5	100.0
		合計	1565	99.4	100.0	
	欠損値	不明	1	.1		
		システム欠損値	9	.6		
		合計	10	.6		
		合計	1575	100.0		
女子	有効	トップレベル	89	4.8	4.8	4.8
		真ん中より上	409	21.9	22.0	26.8
		真ん中くらい	644	34.5	34.7	61.5
		真ん中より下	632	33.9	34.0	95.5
		わからない	83	4.5	4.5	100.0
		合計	1857	99.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	7	.4		
		合計	1864	100.0		

問3. 学校から帰宅後、普通どれくらい勉強をしますか？（塾の勉強時間も含めて）

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	1日()分くらい	634	40.3	40.4	40.4
		勉強はしない	934	59.3	59.6	100.0
		合計	1568	99.6	100.0	
	欠損値	不明	1	.1		
		システム欠損値	6	.4		
		合計	7	.4		
		合計	1575	100.0		
	女子	有効	1日()分くらい	829	44.5	44.7
勉強はしない			1027	55.1	55.3	100.0
合計			1856	99.6	100.0	
欠損値		不明	1	.1		
		システム欠損値	7	.4		
		合計	8	.4		
		合計	1864	100.0		

平均値

報告書

問3.1. 1日()分くらい

性別	平均値	度数	標準偏差	中央値
男子	34.53	1575	72.440	.00
女子	35.61	1864	53.678	.00
合計	35.12	3439	62.961	.00

問4. 授業がむずかしくて、ついていけないことはありますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	よくある	384	24.4	24.4	24.4
		ときどきある	776	49.3	49.3	73.7
		あまりない	306	19.4	19.4	93.1
		まったくない	66	4.2	4.2	97.3
		わからない	42	2.7	2.7	100.0
		合計	1574	99.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	1	.1		
	合計	1575	100.0			
女子	有効	よくある	500	26.8	26.8	26.8
		ときどきある	1073	57.6	57.6	84.4
		あまりない	253	13.6	13.6	98.0
		まったくない	23	1.2	1.2	99.2
		わからない	15	.8	.8	100.0
		合計	1864	100.0	100.0	
	欠損値					
	合計	1864	100.0			

問5. あなたが一生懸命とりにくんでいることがありますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	特にない	300	19.0	19.4	19.4	
		部活	714	45.3	46.1	65.4	
		趣味	408	25.9	26.3	91.7	
		習い事	13	.8	.8	92.6	
		勉強	71	4.5	4.6	97.2	
		その他	44	2.8	2.8	100.0	
		合計	1550	98.4	100.0		
		欠損値	不明	18	1.1		
			システム欠損値	7	.4		
		合計	25	1.6			
	合計	1575	100.0				
女子	有効	特にない	456	24.5	24.9	24.9	
		部活	697	37.4	38.0	62.8	
		趣味	440	23.6	24.0	86.8	
		習い事	65	3.5	3.5	90.4	
		勉強	91	4.9	5.0	95.3	
		その他	86	4.6	4.7	100.0	
		合計	1835	98.4	100.0		
		欠損値	不明	23	1.2		
			システム欠損値	6	.3		
		合計	29	1.6			
	合計	1864	100.0				

問6. ケータイを使い始めたのはいつごろからですか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	小学校入学以前	15	1.0	1.0	1.0	
		小学校前半(1-3年生)	16	1.0	1.0	2.0	
		小学校後半(4-6年生)	162	10.3	10.3	12.3	
		中学生時代	626	39.7	39.8	52.1	
		高校生になってから	690	43.8	43.9	96.1	
		ケータイは持っていない	62	3.9	3.9	100.0	
		合計	1571	99.7	100.0		
		欠損値	システム欠損値	4	.3		
		合計		1575	100.0		
	女子	有効	小学校入学以前	4	.2	.2	.2
小学校前半(1-3年生)			58	3.1	3.1	3.3	
小学校後半(4-6年生)			328	17.6	17.6	21.0	
中学生時代			783	42.0	42.1	63.0	
高校生になってから			662	35.5	35.6	98.6	
ケータイは持っていない			26	1.4	1.4	100.0	
合計			1861	99.8	100.0		
欠損値			システム欠損値	3	.2		
合計				1864	100.0		

平均値

報告書

問7. 一日にどれくらいケータイを使っていますか？(見ている時間も含めて)

性別	平均値	度数	標準偏差	中央値
男子	3.339	1476	4.1548	2.000
女子	4.526	1769	4.6961	3.000
合計	3.986	3245	4.4964	2.500

平均値

報告書

問8. ケータイに登録されている人数はおよそ何人ですか？

性別	平均値	度数	標準偏差	中央値
男子	71.37	1450	65.643	60.00
女子	87.45	1772	70.703	80.00
合計	80.21	3222	68.927	70.00

↑ 1000人より多い男子回答7件、女子回答1件除外

平均値

報告書

付問8-1) そのうちよく連絡するのは何人くらいですか？

性別	平均値	度数	標準偏差	中央値
男子	12.56	1402	43.694	10.00
女子	10.94	1760	28.836	8.00
合計	11.66	3162	36.187	10.00

↑ 1000人より多い男子回答1件除外

問9. ケータイで一番利用するのは何ですか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	メールをする	842	53.5	57.5	57.5
		通話をする	66	4.2	4.5	62.0
		ブログをする(書く、読むどちらでも可)	31	2.0	2.1	64.1
		ゲームをする	65	4.1	4.4	68.5
		mixi、モバゲー、GREE、Twitterなどをする	239	15.2	16.3	84.8
		ホームページを見る	93	5.9	6.3	91.2
		音楽、画像、動画などをダウンロードする	94	6.0	6.4	97.6
		その他	35	2.2	2.4	100.0
		合計	1465	93.0	100.0	
		欠損値	不明	34	2.2	
	システム欠損値		76	4.8		
	合計		110	7.0		
	合計		1575	100.0		
	女子	有効	メールをする	964	51.7	53.9
通話をする			39	2.1	2.2	56.1
ブログをする(書く、読むどちらでも可)			205	11.0	11.5	67.5
ゲームをする			11	.6	.6	68.1
mixi、モバゲー、GREE、Twitterなどをする			261	14.0	14.6	82.7
ホームページを見る			213	11.4	11.9	94.6
音楽、画像、動画などをダウンロードする			60	3.2	3.4	98.0
その他			36	1.9	2.0	100.0
合計			1789	96.0	100.0	
欠損値			不明	45	2.4	
		システム欠損値	30	1.6		
		合計	75	4.0		
合計			1864	100.0		

問10. ケータイを家に置き忘れて外出。どのような気持ちになる？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	とても不安な気持ちになると思う	43	2.7	2.9	2.9
		少し落ち着かない気持ちがすると思う	240	15.2	15.9	18.8
		腹が立ってくると思う	11	.7	.7	19.5
		パニックになると思う	10	.6	.7	20.2
		孤独な気持ちになると思う	5	.3	.3	20.5
		自由な気持ちがすると思う	23	1.5	1.5	22.1
		のんびりした気持ちがすると思う	25	1.6	1.7	23.7
		不便だと思う	625	39.7	41.5	65.2
		何ともないと思う	501	31.8	33.3	98.5
		その他	22	1.4	1.5	100.0
	合計	1505	95.6	100.0		
	欠損値	システム欠損値	70	4.4		
	合計		1575	100.0		
	女子	有効	とても不安な気持ちになると思う	141	7.6	7.7
少し落ち着かない気持ちがすると思う			463	24.8	25.3	33.0
腹が立ってくると思う			15	.8	.8	33.8
パニックになると思う			17	.9	.9	34.7
孤独な気持ちになると思う			12	.6	.7	35.4
自由な気持ちがすると思う			21	1.1	1.1	36.5
のんびりした気持ちがすると思う			17	.9	.9	37.4
不便だと思う			746	40.0	40.7	78.1
何ともないと思う			387	20.8	21.1	99.2
その他			14	.8	.8	100.0
合計		1833	98.3	100.0		
欠損値		システム欠損値	28	1.5		
不明		3	.2			
合計		31	1.7			
合計		1864	100.0			

問11. mixi、モバゲー、GREE、Twitterなどを利用しますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	ケータイもパソコンも持っていない	50	3.2	3.3	3.3
		ケータイやパソコンを持っているが、 そのようなサイトは利用しない	600	38.1	39.0	42.3
		利用している	887	56.3	57.7	100.0
		合計	1537	97.6	100.0	
	欠損値	不明	2	.1		
		システム欠損値	36	2.3		
		合計	38	2.4		
合計		1575	100.0			
女子	有効	ケータイもパソコンも持っていない	26	1.4	1.4	1.4
		ケータイやパソコンを持っているが、 そのようなサイトは利用しない	816	43.8	45.0	46.4
		利用している	972	52.1	53.6	100.0
		合計	1814	97.3	100.0	
	欠損値	不明	4	.2		
		システム欠損値	46	2.5		
		合計	50	2.7		
合計		1864	100.0			

平均値

報告書

付問11-3-1) 1日平均()時間くらい

性別	平均値	度数	標準偏差	中央値
男子	1.894	855	3.1578	1.000
女子	2.233	908	3.1782	1.000
合計	2.069	1763	3.1720	1.000

↑当該サイト等を利用している人の平均

付問11-3-2) 一番多く利用しているものは？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	mixi	138	8.8	16.5	16.5
		モバゲー	552	35.0	66.1	82.6
		GREE	116	7.4	13.9	96.5
		Twitter	29	1.8	3.5	100.0
		合計	835	53.0	100.0	
	欠損値	不明	1	.1		
		システム欠損値	739	46.9		
合計		1575	100.0			
女子	有効	mixi	215	11.5	23.3	23.3
		モバゲー	433	23.2	47.0	70.3
		GREE	213	11.4	23.1	93.4
		Twitter	61	3.3	6.6	100.0
		合計	922	49.5	100.0	
	欠損値	不明	2	.1		
		システム欠損値	940	50.4		
合計		1864	100.0			

平均値

報告書

付問11-3-3) それらのサイトで合計何人くらいと交流していますか？

性別	平均値	度数	標準偏差	中央値
男子	85.14	818	649.617	10.00
女子	32.86	883	65.727	10.00
合計	58.00	1701	453.578	10.00

↑ 当該サイト等を利用している人の平均。10000人より多い男子回答1件除外

問12. パソコンを持っていますか？

性別	有効	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	自分のパソコンを持っている	313	19.9	19.9	19.9
		自分専用ではないが、家族共有のパソコンを持っている	965	61.3	61.5	81.5
		パソコンは持っていない	291	18.5	18.5	100.0
		合計	1569	99.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	6	.4		
	合計	1575	100.0			
女子	有効	自分のパソコンを持っている	238	12.8	12.8	12.8
		自分専用ではないが、家族共有のパソコンを持っている	1332	71.5	71.6	84.4
		パソコンは持っていない	290	15.6	15.6	100.0
		合計	1860	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	4	.2		
	合計	1864	100.0			

問13. パソコンで一番利用するのは何ですか？

性別	有効	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	メールをする	27	1.7	2.2	2.2
		ブログをする(書く、読むどちらでも可)	11	.7	.9	3.0
		ゲームをする	165	10.5	13.2	16.2
		mixi、Twitterなどを利用する	13	.8	1.0	17.3
		ホームページを見る	549	34.9	43.9	61.2
		音楽、画像、動画などをダウンロードする	359	22.8	28.7	89.8
		その他	127	8.1	10.2	100.0
		合計	1251	79.4	100.0	
	欠損値	不明	16	1.0		
		システム欠損値	308	19.6		
	合計	324	20.6			
	合計	1575	100.0			
女子	有効	メールをする	12	.6	.8	.8
		ブログをする(書く、読むどちらでも可)	72	3.9	4.7	5.5
		ゲームをする	84	4.5	5.5	10.9
		mixi、Twitterなどを利用する	23	1.2	1.5	12.4
		ホームページを見る	768	41.2	49.9	62.3
		音楽、画像、動画などをダウンロードする	393	21.1	25.5	87.8
		その他	188	10.1	12.2	100.0
		合計	1540	82.6	100.0	
	欠損値	不明	15	.8		
		システム欠損値	309	16.6		
	合計	324	17.4			
	合計	1864	100.0			

問14.1. 喫煙

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	はい	209	13.3	13.6	13.6
		いいえ	1333	84.6	86.4	100.0
		合計	1542	97.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	33	2.1		
	合計		1575	100.0		
女子	有効	はい	134	7.2	7.4	7.4
		いいえ	1684	90.3	92.6	100.0
		合計	1818	97.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	46	2.5		
	合計		1864	100.0		

問14.2. 飲酒

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	はい	522	33.1	33.7	33.7
		いいえ	1025	65.1	66.3	100.0
		合計	1547	98.2	100.0	
	欠損値	不明	1	.1		
		システム欠損値	27	1.7		
	合計		28	1.8		
女子	有効	はい	693	37.2	38.0	38.0
		いいえ	1133	60.8	62.0	100.0
		合計	1826	98.0	100.0	
	欠損値	システム欠損値	38	2.0		
	合計		1864	100.0		

問14.3. アルバイト

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	はい	381	24.2	24.6	24.6
		いいえ	1165	74.0	75.4	100.0
		合計	1546	98.2	100.0	
	欠損値	システム欠損値	29	1.8		
	合計		1575	100.0		
女子	有効	はい	605	32.5	33.1	33.1
		いいえ	1224	65.7	66.9	100.0
		合計	1829	98.1	100.0	
	欠損値	システム欠損値	35	1.9		
	合計		1864	100.0		

問14.4. 保護者や教員等が同伴しない外泊

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	はい	676	42.9	43.8	43.8
		いいえ	867	55.0	56.2	100.0
		合計	1543	98.0	100.0	
	欠損値	システム欠損値	32	2.0		
	合計		1575	100.0		
女子	有効	はい	777	41.7	42.5	42.5
		いいえ	1053	56.5	57.5	100.0
		合計	1830	98.2	100.0	
	欠損値	システム欠損値	33	1.8		
		不明	1	.1		
	合計		34	1.8		
合計		1864	100.0			

問14.5. 睡眠薬、精神安定剤などの服用

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	はい	47	3.0	3.1	3.1
		いいえ	1493	94.8	96.9	100.0
		合計	1540	97.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	35	2.2		
		合計	1575	100.0		
女子	有効	はい	96	5.2	5.3	5.3
		いいえ	1719	92.2	94.7	100.0
		合計	1815	97.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	49	2.6		
		合計	1864	100.0		

問14.6. 大麻(マリファナ)などの薬物使用

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	はい	10	.6	.6	.6
		いいえ	1530	97.1	99.4	100.0
		合計	1540	97.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	35	2.2		
		合計	1575	100.0		
女子	有効	はい	3	.2	.2	.2
		いいえ	1814	97.3	99.8	100.0
		合計	1817	97.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	47	2.5		
		合計	1864	100.0		

問14.7. 性関係

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	はい	219	13.9	14.2	14.2
		いいえ	1319	83.7	85.8	100.0
		合計	1538	97.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	37	2.3		
		合計	1575	100.0		
女子	有効	はい	282	15.1	15.5	15.5
		いいえ	1537	82.5	84.5	100.0
		合計	1819	97.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	45	2.4		
		合計	1864	100.0		

問14.8. 暴力(ふるわれた)

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	はい	305	19.4	19.8	19.8
		いいえ	1237	78.5	80.2	100.0
		合計	1542	97.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	33	2.1		
		合計	1575	100.0		
女子	有効	はい	162	8.7	8.9	8.9
		いいえ	1653	88.7	91.1	100.0
		合計	1815	97.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	49	2.6		
		合計	1864	100.0		

問14.9. 暴力(ふるった)

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	はい	326	20.7	21.2	21.2
		いいえ	1214	77.1	78.8	100.0
		合計	1540	97.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	35	2.2		
	合計		1575	100.0		
女子	有効	はい	127	6.8	7.0	7.0
		いいえ	1687	90.5	93.0	100.0
		合計	1814	97.3	100.0	
	欠損値	システム欠損値	50	2.7		
	合計		1864	100.0		

問14.10. 万引き

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	はい	175	11.1	11.4	11.4
		いいえ	1365	86.7	88.6	100.0
		合計	1540	97.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	35	2.2		
	合計		1575	100.0		
女子	有効	はい	119	6.4	6.6	6.6
		いいえ	1695	90.9	93.4	100.0
		合計	1814	97.3	100.0	
	欠損値	システム欠損値	50	2.7		
	合計		1864	100.0		

問14.11. いじめ(された)

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	はい	252	16.0	16.3	16.3
		いいえ	1290	81.9	83.7	100.0
		合計	1542	97.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	33	2.1		
	合計		1575	100.0		
女子	有効	はい	465	24.9	25.6	25.6
		いいえ	1351	72.5	74.4	100.0
		合計	1816	97.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	48	2.6		
	合計		1864	100.0		

問14.12. いじめ(した)

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	はい	273	17.3	17.7	17.7
		いいえ	1268	80.5	82.3	100.0
		合計	1541	97.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	34	2.2		
	合計		1575	100.0		
女子	有効	はい	337	18.1	18.5	18.5
		いいえ	1480	79.4	81.5	100.0
		合計	1817	97.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	47	2.5		
	合計		1864	100.0		

問14.13. 自傷行為(リストカットなど)

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	はい	50	3.2	3.3	3.3
		いいえ	1487	94.4	96.7	100.0
		合計	1537	97.6	100.0	
	欠損値	不明	1	.1		
		システム欠損値	37	2.3		
	合計		38	2.4		
女子	有効	はい	191	10.2	10.5	10.5
		いいえ	1621	87.0	89.5	100.0
		合計	1812	97.2	100.0	
	欠損値	システム欠損値	52	2.8		
		合計	1864	100.0		

問15.1. 高校生になってから、激しい怒りを感じたことがありますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	よくあった	179	11.4	11.4	11.4
		ときどきあった	568	36.1	36.1	47.5
		あまりなかった	574	36.4	36.5	84.0
		まったくなかった	252	16.0	16.0	100.0
		合計	1573	99.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.1		
合計		1575	100.0			
女子	有効	よくあった	251	13.5	13.5	13.5
		ときどきあった	835	44.8	44.9	58.4
		あまりなかった	628	33.7	33.8	92.2
		まったくなかった	146	7.8	7.8	100.0
		合計	1860	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	4	.2		
合計		1864	100.0			

問15.2. 高校生になってから、孤独だと感じたことがありますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	よくあった	144	9.1	9.2	9.2
		ときどきあった	407	25.8	25.9	35.1
		あまりなかった	625	39.7	39.8	74.8
		まったくなかった	396	25.1	25.2	100.0
		合計	1572	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	3	.2		
合計		1575	100.0			
女子	有効	よくあった	288	15.5	15.5	15.5
		ときどきあった	686	36.8	36.9	52.4
		あまりなかった	622	33.4	33.5	85.9
		まったくなかった	263	14.1	14.1	100.0
		合計	1859	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	5	.3		
合計		1864	100.0			

問15.3. 高校生になってから、絶望的な気持ちになったことがありますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	よくあった	170	10.8	10.8	10.8
		ときどきあった	388	24.6	24.7	35.5
		あまりなかった	536	34.0	34.1	69.6
		まったくなかった	478	30.3	30.4	100.0
		合計	1572	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	3	.2		
	合計	1575	100.0			
女子	有効	よくあった	257	13.8	13.8	13.8
		ときどきあった	550	29.5	29.6	43.4
		あまりなかった	663	35.6	35.7	79.1
		まったくなかった	389	20.9	20.9	100.0
		合計	1859	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	5	.3		
	合計	1864	100.0			

問15.4. 高校生になってから、とても嬉しかったことがありますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	よくあった	501	31.8	32.0	32.0
		ときどきあった	703	44.6	44.8	76.8
		あまりなかった	275	17.5	17.5	94.3
		まったくなかった	89	5.7	5.7	100.0
		合計	1568	99.6	100.0	
	欠損値	不明	1	.1		
	システム欠損値	6	.4			
	合計	7	.4			
	合計	1575	100.0			
女子	有効	よくあった	785	42.1	42.2	42.2
		ときどきあった	812	43.6	43.7	86.0
		あまりなかった	227	12.2	12.2	98.2
		まったくなかった	34	1.8	1.8	100.0
		合計	1858	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	6	.3		
	合計	1864	100.0			

問16.1. あなたには、欠点があると思いますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	とてもあると思う	973	61.8	61.9	61.9
		少しあると思う	496	31.5	31.5	93.4
		あまりないと思う	53	3.4	3.4	96.8
		まったくないと思う	51	3.2	3.2	100.0
		合計	1573	99.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.1		
	合計	1575	100.0			
女子	有効	とてもあると思う	1334	71.6	71.7	71.7
		少しあると思う	498	26.7	26.8	98.5
		あまりないと思う	23	1.2	1.2	99.7
		まったくないと思う	5	.3	.3	100.0
		合計	1860	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	4	.2		
	合計	1864	100.0			

問16.2. あなたには、いいところがあると思いますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	とてもあると思う	187	11.9	11.9	11.9
		少しあると思う	820	52.1	52.3	64.2
		あまりないと思う	451	28.6	28.8	93.0
		まったくないと思う	110	7.0	7.0	100.0
		合計	1568	99.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	7	.4		
	合計	1575	100.0			
女子	有効	とてもあると思う	103	5.5	5.6	5.6
		少しあると思う	1021	54.8	55.0	60.6
		あまりないと思う	620	33.3	33.4	94.0
		まったくないと思う	111	6.0	6.0	100.0
		合計	1855	99.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	9	.5		
	合計	1864	100.0			

問17. おかしくなくても、友だちの前では無理して笑うことがありますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	そういうことがよくある	267	17.0	17.0	17.0
		そういうことが時々ある	520	33.0	33.2	50.2
		どちらとも言えない	388	24.6	24.7	74.9
		そういうことはあまりない	282	17.9	18.0	92.9
		そういうことはまったくない	111	7.0	7.1	100.0
	合計	1568	99.6	100.0		
欠損値	システム欠損値	7	.4			
	合計	1575	100.0			
女子	有効	そういうことがよくある	341	18.3	18.3	18.3
		そういうことが時々ある	800	42.9	43.0	61.4
		どちらとも言えない	399	21.4	21.5	82.8
		そういうことはあまりない	260	13.9	14.0	96.8
		そういうことはまったくない	59	3.2	3.2	100.0
	合計	1859	99.7	100.0		
欠損値	システム欠損値	5	.3			
	合計	1864	100.0			

問18. あなたのことを本気で心配してくれる大人がいますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	いない	81	5.1	5.2	5.2
		いない気がする	107	6.8	6.8	12.0
		どちらとも言えない	381	24.2	24.3	36.3
		いる気がする	497	31.6	31.7	67.9
		いる	503	31.9	32.1	100.0
		合計	1569	99.6	100.0	
	欠損値	不明	2	.1		
		システム欠損値	4	.3		
		合計	6	.4		
		合計	1575	100.0		
女子	有効	いない	50	2.7	2.7	2.7
		いない気がする	109	5.8	5.9	8.6
		どちらとも言えない	279	15.0	15.0	23.6
		いる気がする	630	33.8	33.9	57.5
		いる	790	42.4	42.5	100.0
		合計	1858	99.7	100.0	
	欠損値	不明	2	.1		
		システム欠損値	4	.2		
		合計	6	.3		
		合計	1864	100.0		

問19. あなたが一番自分らしく過ごせるのはいつですか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	保健室にいるとき	14	.9	.9	.9
		趣味に没頭しているとき	268	17.0	17.3	18.2
		mixi、モバゲー、GREE、Twitterなどを利用しているとき	7	.4	.5	18.6
		部活をしているとき	224	14.2	14.4	33.1
		ブログをしているとき	1	.1	.1	33.1
		家の中でひとりであるとき	300	19.0	19.3	52.5
		友だちといるとき	508	32.3	32.8	85.2
		家族と一緒にいるとき	133	8.4	8.6	93.8
		その他	65	4.1	4.2	98.0
		自分らしく過ごせることはまったくない	31	2.0	2.0	100.0
	合計	1551	98.5	100.0		
	欠損値	不明	13	.8		
		システム欠損値	11	.7		
		合計	24	1.5		
	合計		1575	100.0		
女子	有効	保健室にいるとき	3	.2	.2	.2
		趣味に没頭しているとき	275	14.8	14.9	15.1
		mixi、モバゲー、GREE、Twitterなどを利用しているとき	13	.7	.7	15.8
		部活をしているとき	100	5.4	5.4	21.2
		ブログをしているとき	9	.5	.5	21.7
		家の中でひとりであるとき	387	20.8	21.0	42.7
		友だちといるとき	531	28.5	28.8	71.4
		家族と一緒にいるとき	423	22.7	22.9	94.4
		その他	85	4.6	4.6	99.0
		自分らしく過ごせることはまったくない	19	1.0	1.0	100.0
	合計	1845	99.0	100.0		
	欠損値	不明	15	.8		
		システム欠損値	4	.2		
		合計	19	1.0		
	合計		1864	100.0		

問20.1. 一度失敗しても、次はうまくいくようにしようと工夫する

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	とてもあてはまる	262	16.6	16.7	16.7
		だいたいあてはまる	799	50.7	50.9	67.5
		どちらともいえない	370	23.5	23.6	91.1
		あまりあてはまらない	88	5.6	5.6	96.7
		まったくあてはまらない	52	3.3	3.3	100.0
		合計	1571	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	4	.3		
合計		1575	100.0			
女子	有効	とてもあてはまる	240	12.9	12.9	12.9
		だいたいあてはまる	934	50.1	50.2	63.1
		どちらともいえない	536	28.8	28.8	91.9
		あまりあてはまらない	127	6.8	6.8	98.8
		まったくあてはまらない	23	1.2	1.2	100.0
		合計	1860	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	4	.2		
合計		1864	100.0			

問20.2. 困ったときは、自分ができることをまずやる

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	とてもあてはまる	302	19.2	19.2	19.2
		だいたいあてはまる	777	49.3	49.5	68.7
		どちらともいえない	363	23.0	23.1	91.8
		あまりあてはまらない	86	5.5	5.5	97.3
		まったくあてはまらない	42	2.7	2.7	100.0
		合計	1570	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	5	.3		
	合計	1575	100.0			
女子	有効	とてもあてはまる	310	16.6	16.7	16.7
		だいたいあてはまる	944	50.6	50.8	67.4
		どちらともいえない	448	24.0	24.1	91.5
		あまりあてはまらない	139	7.5	7.5	99.0
		まったくあてはまらない	19	1.0	1.0	100.0
		合計	1860	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	4	.2		
	合計	1864	100.0			

問20.3. 困ったときは、様々な角度から考える

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	とてもあてはまる	230	14.6	14.6	14.6
		だいたいあてはまる	572	36.3	36.4	51.1
		どちらともいえない	516	32.8	32.9	83.9
		あまりあてはまらない	196	12.4	12.5	96.4
		まったくあてはまらない	56	3.6	3.6	100.0
		合計	1570	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	5	.3		
	合計	1575	100.0			
女子	有効	とてもあてはまる	196	10.5	10.5	10.5
		だいたいあてはまる	602	32.3	32.4	42.9
		どちらともいえない	682	36.6	36.7	79.6
		あまりあてはまらない	333	17.9	17.9	97.5
		まったくあてはまらない	46	2.5	2.5	100.0
		合計	1859	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	5	.3		
	合計	1864	100.0			

問20.4. 失敗したとき、自分のどこが悪かったかを考える

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	とてもあてはまる	343	21.8	21.8	21.8
		だいたいあてはまる	718	45.6	45.7	67.6
		どちらともいえない	358	22.7	22.8	90.4
		あまりあてはまらない	104	6.6	6.6	97.0
		まったくあてはまらない	47	3.0	3.0	100.0
		合計	1570	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	5	.3		
	合計	1575	100.0			
女子	有効	とてもあてはまる	391	21.0	21.0	21.0
		だいたいあてはまる	923	49.5	49.7	70.7
		どちらともいえない	393	21.1	21.2	91.9
		あまりあてはまらない	124	6.7	6.7	98.5
		まったくあてはまらない	27	1.4	1.5	100.0
		合計	1858	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	6	.3		
	合計	1864	100.0			

問21. 自分の間違いを注意されると、どのような気持ちになりますか？

性別	有効		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	腹が立つ	216	13.7	13.8	13.8	
		恥ずかしくなる	261	16.6	16.7	30.6	
		納得する	309	19.6	19.8	50.4	
		落ち込む	176	11.2	11.3	61.7	
		運が悪かったと思う	75	4.8	4.8	66.5	
		自分が否定されたような気がする	94	6.0	6.0	72.5	
		なんとも思わない	126	8.0	8.1	80.6	
		反省する	263	16.7	16.9	97.4	
		その他	40	2.5	2.6	100.0	
		合計	1560	99.0	100.0		
		欠損値	不明	不明	7	.4	
				システム欠損値	8	.5	
				合計	15	1.0	
		合計	1575	100.0			
女子	有効	腹が立つ	193	10.4	10.4	10.4	
		恥ずかしくなる	371	19.9	20.1	30.5	
		納得する	219	11.7	11.8	42.3	
		落ち込む	463	24.8	25.0	67.4	
		運が悪かったと思う	29	1.6	1.6	68.9	
		自分が否定されたような気がする	160	8.6	8.6	77.6	
		なんとも思わない	96	5.2	5.2	82.8	
		反省する	278	14.9	15.0	97.8	
		その他	41	2.2	2.2	100.0	
		合計	1850	99.2	100.0		
		欠損値	不明	不明	5	.3	
				システム欠損値	9	.5	
				合計	14	.8	
		合計	1864	100.0			

問22.1. 親しくない人でも、泣いていたらとても気になる

性別	有効		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	自分によくあてはまる	504	32.0	32.1	32.1
		自分にまあまああてはまる	652	41.4	41.5	73.5
		どちらともいえない	248	15.7	15.8	89.3
		自分にはあまりあてはまらない	83	5.3	5.3	94.6
		自分にはまったくあてはまらない	85	5.4	5.4	100.0
		合計	1572	99.8	100.0	
		欠損値	システム欠損値	3	.2	
合計	1575	100.0				
女子	有効	自分によくあてはまる	584	31.3	31.4	31.4
		自分にまあまああてはまる	868	46.6	46.7	78.1
		どちらともいえない	218	11.7	11.7	89.9
		自分にはあまりあてはまらない	123	6.6	6.6	96.5
		自分にはまったくあてはまらない	65	3.5	3.5	100.0
		合計	1858	99.7	100.0	
		欠損値	システム欠損値	6	.3	
合計	1864	100.0				

問22.2. 身の回りの整理整頓はきちんとする

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	自分によくあてはまる	239	15.2	15.2	15.2
		自分にまあまああてはまる	434	27.6	27.6	42.8
		どちらともいえない	469	29.8	29.8	72.6
		自分にはあまりあてはまらない	302	19.2	19.2	91.9
		自分にはまったくあてはまらない	128	8.1	8.1	100.0
		合計	1572	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	3	.2		
	合計	1575	100.0			
女子	有効	自分によくあてはまる	193	10.4	10.4	10.4
		自分にまあまああてはまる	531	28.5	28.5	38.9
		どちらともいえない	610	32.7	32.8	71.7
		自分にはあまりあてはまらない	404	21.7	21.7	93.4
		自分にはまったくあてはまらない	122	6.5	6.6	100.0
		合計	1860	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	4	.2		
	合計	1864	100.0			

問22.3. しつこくからわかれていた人を見ると、からかっている人に対して腹が立つ

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	自分によくあてはまる	362	23.0	23.1	23.1
		自分にまあまああてはまる	475	30.2	30.3	53.3
		どちらともいえない	499	31.7	31.8	85.1
		自分にはあまりあてはまらない	150	9.5	9.6	94.7
		自分にはまったくあてはまらない	83	5.3	5.3	100.0
		合計	1569	99.6	100.0	
	欠損値	不明	1	.1		
	システム欠損値	5	.3			
	合計	6	.4			
	合計	1575	100.0			
女子	有効	自分によくあてはまる	465	24.9	25.0	25.0
		自分にまあまああてはまる	687	36.9	37.0	62.0
		どちらともいえない	520	27.9	28.0	90.0
		自分にはあまりあてはまらない	140	7.5	7.5	97.5
		自分にはまったくあてはまらない	46	2.5	2.5	100.0
		合計	1858	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	6	.3		
	合計	1864	100.0			

問224. 学校の規則は守る

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	自分によくあてはまる	315	20.0	20.1	20.1
		自分にまあまああてはまる	566	35.9	36.1	56.1
		どちらともいえない	460	29.2	29.3	85.4
		自分にはあまりあてはまらない	152	9.7	9.7	95.1
		自分にはまったくあてはまらない	77	4.9	4.9	100.0
		合計	1570	99.7	100.0	
	欠損値	不明	1	.1		
		システム欠損値	4	.3		
		合計	5	.3		
	合計		1575	100.0		
女子	有効	自分によくあてはまる	247	13.3	13.3	13.3
		自分にまあまああてはまる	786	42.2	42.3	55.6
		どちらともいえない	587	31.5	31.6	87.1
		自分にはあまりあてはまらない	193	10.4	10.4	97.5
		自分にはまったくあてはまらない	46	2.5	2.5	100.0
		合計	1859	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	5	.3		
		合計	1864	100.0		

問225. 仲間はずれにされている人を見ると、かわいそうになる

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	自分によくあてはまる	317	20.1	20.2	20.2
		自分にまあまああてはまる	581	36.9	37.0	57.2
		どちらともいえない	492	31.2	31.3	88.5
		自分にはあまりあてはまらない	102	6.5	6.5	95.0
		自分にはまったくあてはまらない	78	5.0	5.0	100.0
		合計	1570	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	5	.3		
		合計	1575	100.0		
	女子	有効	自分によくあてはまる	510	27.4	27.5
自分にまあまああてはまる			807	43.3	43.5	70.9
どちらともいえない			434	23.3	23.4	94.3
自分にはあまりあてはまらない			66	3.5	3.6	97.8
自分にはまったくあてはまらない			40	2.1	2.2	100.0
合計			1857	99.6	100.0	
欠損値		システム欠損値	7	.4		
		合計	1864	100.0		

問23.1. 買い物などの列に並ぶとき、途中から割り込むこと

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	どうでもいいと思う	102	6.5	6.5	6.5	
		まったくかまわないと思う	32	2.0	2.0	8.5	
		まあまあかまわないと思う	49	3.1	3.1	11.7	
		どちらともいえない	116	7.4	7.4	19.0	
		あまりよくないと思う	374	23.7	23.8	42.9	
		とてもよくないと思う	897	57.0	57.1	100.0	
		合計	1570	99.7	100.0		
		欠損	システム欠損値	5	.3		
		合計		1575	100.0		
	女子	有効	どうでもいいと思う	53	2.8	2.9	2.9
まったくかまわないと思う			7	.4	.4	3.2	
まあまあかまわないと思う			34	1.8	1.8	5.1	
どちらともいえない			60	3.2	3.2	8.3	
あまりよくないと思う			458	24.6	24.7	32.9	
とてもよくないと思う			1246	66.8	67.1	100.0	
合計			1858	99.7	100.0		
欠損			システム欠損値	4	.2		
値			不明	2	.1		
合計			6	.3			
合計		1864	100.0				

問23.2. 電車内などでお化粧をすること

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	どうでもいいと思う	381	24.2	24.3	24.3	
		まったくかまわないと思う	119	7.6	7.6	31.8	
		まあまあかまわないと思う	161	10.2	10.2	42.1	
		どちらともいえない	289	18.3	18.4	60.5	
		あまりよくないと思う	371	23.6	23.6	84.1	
		とてもよくないと思う	250	15.9	15.9	100.0	
		合計	1571	99.7	100.0		
		欠損	システム欠損値	4	.3		
		合計		1575	100.0		
	女子	有効	どうでもいいと思う	229	12.3	12.3	12.3
まったくかまわないと思う			110	5.9	5.9	18.2	
まあまあかまわないと思う			265	14.2	14.3	32.5	
どちらともいえない			313	16.8	16.8	49.4	
あまりよくないと思う			647	34.7	34.8	84.2	
とてもよくないと思う			294	15.8	15.8	100.0	
合計			1858	99.7	100.0		
欠損			システム欠損値	5	.3		
値			不明	1	.1		
合計			6	.3			
合計		1864	100.0				

問23.3. 誰かが話しかけている時に、他の人にケータイでメールをうつこと

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	どうでもいいと思う	178	11.3	11.3	11.3	
		まったくかまわないと思う	82	5.2	5.2	16.6	
		まあまあかまわないと思う	156	9.9	9.9	26.5	
		どちらともいえない	307	19.5	19.6	46.1	
		あまりよくないと思う	492	31.2	31.3	77.4	
		とてもよくないと思う	355	22.5	22.6	100.0	
		合計	1570	99.7	100.0		
		欠損	システム欠損値	5	.3		
		合計		1575	100.0		
	女子	有効	どうでもいいと思う	126	6.8	6.8	6.8
まったくかまわないと思う			47	2.5	2.5	9.3	
まあまあかまわないと思う			187	10.0	10.1	19.4	
どちらともいえない			311	16.7	16.8	36.2	
あまりよくないと思う			738	39.6	39.8	75.9	
とてもよくないと思う			447	24.0	24.1	100.0	
合計			1856	99.6	100.0		
欠損			システム欠損値	6	.3		
値			不明	2	.1		
合計			8	.4			
合計		1864	100.0				

問23.4. コンビニの前などで地面に座り込んでしゃべったり、物を食べたりすること

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	どうでもいいと思う	205	13.0	13.0	13.0	
		まったくかまわないと思う	107	6.8	6.8	19.9	
		まあまあかまわないと思う	195	12.4	12.4	32.3	
		どちらともいえない	267	17.0	17.0	49.3	
		あまりよくないと思う	426	27.0	27.1	76.4	
		とてもよくないと思う	371	23.6	23.6	100.0	
		合計	1571	99.7	100.0		
		欠損	システム欠損値	4	.3		
		合計		1575	100.0		
	女子	有効	どうでもいいと思う	154	8.3	8.3	8.3
まったくかまわないと思う			56	3.0	3.0	11.3	
まあまあかまわないと思う			150	8.0	8.1	19.4	
どちらともいえない			266	14.3	14.3	33.7	
あまりよくないと思う			628	33.7	33.8	67.6	
とてもよくないと思う			602	32.3	32.4	100.0	
合計			1856	99.6	100.0		
欠損			システム欠損値	7	.4		
値			不明	1	.1		
合計			8	.4			
合計		1864	100.0				

問23.5. 遅刻や宿題忘れのとき、嘘をついて言い訳をすること

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	どうでもいいと思う	264	16.8	16.8	16.8
		まったくかまわないと思う	128	8.1	8.2	25.0
		まあまあかまわないと思う	217	13.8	13.8	38.8
		どちらともいえない	367	23.3	23.4	62.2
		あまりよくないと思う	395	25.1	25.2	87.3
		とてもよくないと思う	199	12.6	12.7	100.0
		合計	1570	99.7	100.0	
		欠損	システム欠損値	5	.3	
	合計		1575	100.0		
	女子	有効	どうでもいいと思う	242	13.0	13.0
まったくかまわないと思う			76	4.1	4.1	17.1
まあまあかまわないと思う			229	12.3	12.3	29.4
どちらともいえない			482	25.9	25.9	55.4
あまりよくないと思う			582	31.2	31.3	86.7
とてもよくないと思う			247	13.3	13.3	100.0
合計			1858	99.7	100.0	
欠損			システム欠損値	5	.3	
不明		1	.1			
合計		6	.3			
合計		1864	100.0			

問24-① 小学校低学年のころ、保護者から叱られることやほめられること、どちらが多かったですか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	叱られることが多かった	384	24.4	24.6	24.6	
		叱られたり、ほめられたり同じくらいだった	561	35.6	35.9	60.5	
		ほめられることが多かった	183	11.6	11.7	72.2	
		叱られることもほめられることもなかった	35	2.2	2.2	74.4	
		覚えていない	400	25.4	25.6	100.0	
		合計	1563	99.2	100.0		
		欠損	不明	1	.1		
		システム欠損値	11	.7			
	合計	12	.8				
	合計		1575	100.0			
女子	有効	叱られることが多かった	261	14.0	14.1	14.1	
		叱られたり、ほめられたり同じくらいだった	720	38.6	38.9	52.9	
		ほめられることが多かった	322	17.3	17.4	70.3	
		叱られることもほめられることもなかった	64	3.4	3.5	73.8	
		覚えていない	486	26.1	26.2	100.0	
		合計	1853	99.4	100.0		
		欠損	不明	1	.1		
		システム欠損値	10	.5			
	合計	11	.6				
	合計		1864	100.0			

問24-② 小学校低学年のころ、学校の先生から叱られることやほめられること、どちらが多かったですか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	叱られることが多かった	324	20.6	20.7	20.7
		叱られたり、ほめられたり同じくらいだった	447	28.4	28.6	49.4
		ほめられることが多かった	320	20.3	20.5	69.8
		叱られることもほめられることもなかった	48	3.0	3.1	72.9
		覚えていない	423	26.9	27.1	100.0
		合計	1562	99.2	100.0	
	欠損値	不明	2	.1		
		システム欠損値	11	.7		
		合計	13	.8		
	合計		1575	100.0		
女子	有効	叱られることが多かった	132	7.1	7.1	7.1
		叱られたり、ほめられたり同じくらいだった	409	21.9	22.1	29.2
		ほめられることが多かった	640	34.3	34.5	63.7
		叱られることもほめられることもなかった	96	5.2	5.2	68.9
		覚えていない	576	30.9	31.1	100.0
		合計	1853	99.4	100.0	
	欠損値	不明	1	.1		
		システム欠損値	10	.5		
		合計	11	.6		
	合計		1864	100.0		

問25-① 高校生になって、保護者から叱られることやほめられること、どちらが多いですか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	叱られることが多い	451	28.6	28.9	28.9
		叱られたり、ほめられたり同じくらい	561	35.6	35.9	64.7
		ほめられることが多い	169	10.7	10.8	75.6
		叱られることもほめられることもない	382	24.3	24.4	100.0
		合計	1563	99.2	100.0	
	欠損値	システム欠損値	12	.8		
合計		1575	100.0			
女子	有効	叱られることが多い	570	30.6	30.7	30.7
		叱られたり、ほめられたり同じくらい	759	40.7	40.9	71.6
		ほめられることが多い	222	11.9	12.0	83.6
		叱られることもほめられることもない	304	16.3	16.4	100.0
		合計	1855	99.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	9	.5		
合計		1864	100.0			

問25-② 高校生になって、学校の先生から叱られることやほめられること、どちらが多いですか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	叱られることが多い	360	22.9	23.0	23.0
		叱られたり、ほめられたり同じくらい	536	34.0	34.3	57.3
		ほめられることが多い	173	11.0	11.1	68.4
		叱られることもほめられることもない	494	31.4	31.6	100.0
		合計	1563	99.2	100.0	
	欠損値	システム欠損値	12	.8		
合計		1575	100.0			
女子	有効	叱られることが多い	272	14.6	14.7	14.7
		叱られたり、ほめられたり同じくらい	564	30.3	30.5	45.2
		ほめられることが多い	276	14.8	14.9	60.1
		叱られることもほめられることもない	737	39.5	39.9	100.0
		合計	1849	99.2	100.0	
	欠損値	システム欠損値	15	.8		
合計		1864	100.0			

問26.1. その友だちを心から信じられますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	とてもそう思う	671	42.6	42.8	42.8	
		まあまあそう思う	585	37.1	37.3	80.1	
		どちらかわからない	169	10.7	10.8	90.8	
		あまりそう思わない	61	3.9	3.9	94.7	
		まったくそう思わない	19	1.2	1.2	95.9	
		そのような人はいない	64	4.1	4.1	100.0	
		合計	1569	99.6	100.0		
		欠損値	システム欠損値	6	.4		
		合計		1575	100.0		
		女子	有効	とてもそう思う	950	51.0	51.2
まあまあそう思う	614			32.9	33.1	84.3	
どちらかわからない	158			8.5	8.5	92.8	
あまりそう思わない	72			3.9	3.9	96.7	
まったくそう思わない	16			.9	.9	97.5	
そのような人はいない	46			2.5	2.5	100.0	
合計	1856			99.6	100.0		
欠損値	システム欠損値			8	.4		
合計				1864	100.0		

問26.2. 困ったときにその友だちに一緒にいてほしいと思いますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	とてもそう思う	505	32.1	32.2	32.2	
		まあまあそう思う	510	32.4	32.5	64.8	
		どちらかわからない	289	18.3	18.4	83.2	
		あまりそう思わない	155	9.8	9.9	93.1	
		まったくそう思わない	51	3.2	3.3	96.4	
		そのような人はいない	57	3.6	3.6	100.0	
		合計	1567	99.5	100.0		
		欠損値	不明	1	.1		
		欠損値	システム欠損値	7	.4		
		合計		8	.5		
女子	有効	とてもそう思う	1067	57.2	57.5	57.5	
		まあまあそう思う	443	23.8	23.9	81.4	
		どちらかわからない	192	10.3	10.4	91.8	
		あまりそう思わない	83	4.5	4.5	96.2	
		まったくそう思わない	30	1.6	1.6	97.8	
		そのような人はいない	40	2.1	2.2	100.0	
		合計	1855	99.5	100.0		
		欠損値	システム欠損値	9	.5		
		合計		1864	100.0		

問26.3. その友だちに話を聞いてほしいと思いますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	とてもそう思う	518	32.9	33.0	33.0
		まあまあそう思う	516	32.8	32.9	65.9
		どちらかわからない	285	18.1	18.2	84.1
		あまりそう思わない	138	8.8	8.8	92.9
		まったくそう思わない	57	3.6	3.6	96.6
		そのような人はいない	54	3.4	3.4	100.0
		合計	1568	99.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	7	.4		
	合計	1575	100.0			
女子	有効	とてもそう思う	1124	60.3	60.6	60.6
		まあまあそう思う	447	24.0	24.1	84.7
		どちらかわからない	157	8.4	8.5	93.2
		あまりそう思わない	67	3.6	3.6	96.8
		まったくそう思わない	24	1.3	1.3	98.1
		そのような人はいない	35	1.9	1.9	100.0
		合計	1854	99.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	10	.5		
	合計	1864	100.0			

問27.1. その先生を心から信じられますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	とてもそう思う	316	20.1	20.1	20.1
		まあまあそう思う	507	32.2	32.3	52.5
		どちらかわからない	304	19.3	19.4	71.8
		あまりそう思わない	116	7.4	7.4	79.2
		まったくそう思わない	51	3.2	3.3	82.5
		そのような人はいない	275	17.5	17.5	100.0
		合計	1569	99.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	6	.4		
	合計	1575	100.0			
女子	有効	とてもそう思う	371	19.9	20.1	20.1
		まあまあそう思う	567	30.4	30.7	50.8
		どちらかわからない	364	19.5	19.7	70.5
		あまりそう思わない	162	8.7	8.8	79.2
		まったくそう思わない	32	1.7	1.7	81.0
		そのような人はいない	352	18.9	19.0	100.0
		合計	1848	99.1	100.0	
	欠損値	システム欠損値	16	.9		
	合計	1864	100.0			

問27.2. 困ったときにその先生と一緒にいてほしいと思いますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	とてもそう思う	148	9.4	9.4	9.4	
		まあまあそう思う	350	22.2	22.3	31.8	
		どちらかわからない	431	27.4	27.5	59.3	
		あまりそう思わない	236	15.0	15.1	74.3	
		まったくそう思わない	128	8.1	8.2	82.5	
		そのような人はいない	274	17.4	17.5	100.0	
		合計	1567	99.5	100.0		
		欠損値	システム欠損値	8	.5		
		合計		1575	100.0		
	女子	有効	とてもそう思う	237	12.7	12.8	12.8
まあまあそう思う			323	17.3	17.5	30.3	
どちらかわからない			479	25.7	25.9	56.3	
あまりそう思わない			341	18.3	18.5	74.8	
まったくそう思わない			122	6.5	6.6	81.4	
そのような人はいない			344	18.5	18.6	100.0	
合計			1846	99.0	100.0		
欠損値			システム欠損値	18	1.0		
合計				1864	100.0		

問27.3. その先生に話を聞いてほしいと思いますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	とてもそう思う	205	13.0	13.1	13.1	
		まあまあそう思う	393	25.0	25.1	38.2	
		どちらかわからない	391	24.8	25.0	63.1	
		あまりそう思わない	201	12.8	12.8	75.9	
		まったくそう思わない	111	7.0	7.1	83.0	
		そのような人はいない	266	16.9	17.0	100.0	
		合計	1567	99.5	100.0		
		欠損値	システム欠損値	8	.5		
		合計		1575	100.0		
	女子	有効	とてもそう思う	324	17.4	17.6	17.6
まあまあそう思う			435	23.3	23.6	41.1	
どちらかわからない			406	21.8	22.0	63.1	
あまりそう思わない			247	13.3	13.4	76.5	
まったくそう思わない			98	5.3	5.3	81.8	
そのような人はいない			336	18.0	18.2	100.0	
合計			1846	99.0	100.0		
欠損値			システム欠損値	18	1.0		
合計				1864	100.0		

問28.1. 女性保護者を心から信じられますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	とてもそう思う	611	38.8	39.2	39.2
		まあまあそう思う	566	35.9	36.3	75.5
		どちらかわからない	196	12.4	12.6	88.1
		あまりそう思わない	77	4.9	4.9	93.1
		まったくそう思わない	52	3.3	3.3	96.4
		そのような人はいない	56	3.6	3.6	100.0
		合計	1558	98.9	100.0	
	欠損値	システム欠損値	17	1.1		
	合計		1575	100.0		
	女子	有効	とてもそう思う	986	52.9	53.2
まあまあそう思う			537	28.8	29.0	82.2
どちらかわからない			162	8.7	8.7	90.9
あまりそう思わない			105	5.6	5.7	96.6
まったくそう思わない			37	2.0	2.0	98.6
そのような人はいない			26	1.4	1.4	100.0
合計			1853	99.4	100.0	
欠損値		システム欠損値	11	.6		
合計			1864	100.0		

問28.2. 困ったときにその人に一緒にいてほしいと思いますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	とてもそう思う	320	20.3	20.6	20.6
		まあまあそう思う	439	27.9	28.2	48.7
		どちらかわからない	366	23.2	23.5	72.3
		あまりそう思わない	239	15.2	15.4	87.6
		まったくそう思わない	133	8.4	8.5	96.1
		そのような人はいない	60	3.8	3.9	100.0
		合計	1557	98.9	100.0	
	欠損値	不明	1	.1		
	合計	システム欠損値	17	1.1		
	合計		18	1.1		
女子	有効	とてもそう思う	779	41.8	42.0	42.0
		まあまあそう思う	487	26.1	26.3	68.3
		どちらかわからない	279	15.0	15.1	83.4
		あまりそう思わない	197	10.6	10.6	94.0
		まったくそう思わない	83	4.5	4.5	98.5
		そのような人はいない	28	1.5	1.5	100.0
		合計	1853	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	11	.6		
	合計		1864	100.0		

問28.3. その人に話を聞いてほしいと思いますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	とてもそう思う	338	21.5	21.7	21.7	
		まあまあそう思う	434	27.6	27.9	49.6	
		どちらかわからない	364	23.1	23.4	72.9	
		あまりそう思わない	220	14.0	14.1	87.0	
		まったくそう思わない	143	9.1	9.2	96.2	
		そのような人はいない	59	3.7	3.8	100.0	
		合計	1558	98.9	100.0		
		欠損値	システム欠損値	17	1.1		
		合計		1575	100.0		
	女子	有効	とてもそう思う	735	39.4	39.7	39.7
まあまあそう思う			467	25.1	25.2	64.9	
どちらかわからない			288	15.5	15.5	80.4	
あまりそう思わない			223	12.0	12.0	92.4	
まったくそう思わない			112	6.0	6.0	98.5	
そのような人はいない			28	1.5	1.5	100.0	
合計			1853	99.4	100.0		
欠損値			システム欠損値	11	.6		
合計				1864	100.0		

問29.1. 男性保護者を心から信じられますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	
男子	有効	とてもそう思う	500	31.7	32.2	32.2	
		まあまあそう思う	502	31.9	32.3	64.4	
		どちらかわからない	247	15.7	15.9	80.3	
		あまりそう思わない	111	7.0	7.1	87.5	
		まったくそう思わない	76	4.8	4.9	92.3	
		そのような人はいない	119	7.6	7.7	100.0	
		合計	1555	98.7	100.0		
		欠損値	システム欠損値	20	1.3		
		合計		1575	100.0		
	女子	有効	とてもそう思う	636	34.1	34.6	34.6
まあまあそう思う			540	29.0	29.4	63.9	
どちらかわからない			244	13.1	13.3	77.2	
あまりそう思わない			167	9.0	9.1	86.3	
まったくそう思わない			119	6.4	6.5	92.8	
そのような人はいない			133	7.1	7.2	100.0	
合計			1839	98.7	100.0		
欠損値			システム欠損値	25	1.3		
合計				1864	100.0		

問29.2. 困ったときにその人に一緒にいてほしいと思いますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	とてもそう思う	270	17.1	17.4	17.4
		まあまあそう思う	397	25.2	25.5	42.9
		どちらかわからない	380	24.1	24.5	67.4
		あまりそう思わない	241	15.3	15.5	82.9
		まったくそう思わない	144	9.1	9.3	92.1
		そのような人はいない	122	7.7	7.9	100.0
		合計	1554	98.7	100.0	
		欠損値	システム欠損値	21	1.3	
合計		1575	100.0			
女子	有効	とてもそう思う	348	18.7	18.9	18.9
		まあまあそう思う	398	21.4	21.6	40.6
		どちらかわからない	380	20.4	20.7	61.2
		あまりそう思わない	341	18.3	18.5	79.8
		まったくそう思わない	234	12.6	12.7	92.5
		そのような人はいない	138	7.4	7.5	100.0
		合計	1839	98.7	100.0	
		欠損値	システム欠損値	25	1.3	
合計		1864	100.0			

問29.3. その人に話を聞いてほしいと思いますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男子	有効	とてもそう思う	271	17.2	17.5	17.5
		まあまあそう思う	393	25.0	25.3	42.8
		どちらかわからない	391	24.8	25.2	68.0
		あまりそう思わない	214	13.6	13.8	81.8
		まったくそう思わない	161	10.2	10.4	92.1
		そのような人はいない	122	7.7	7.9	100.0
		合計	1552	98.5	100.0	
		欠損値	システム欠損値	23	1.5	
合計		1575	100.0			
女子	有効	とてもそう思う	306	16.4	16.6	16.6
		まあまあそう思う	385	20.7	20.9	37.6
		どちらかわからない	368	19.7	20.0	57.6
		あまりそう思わない	365	19.6	19.8	77.4
		まったくそう思わない	280	15.0	15.2	92.6
		そのような人はいない	136	7.3	7.4	100.0
		合計	1840	98.7	100.0	
		欠損値	システム欠損値	24	1.3	
合計		1864	100.0			

2010年度 全国PTAアンケート 保護者

入力件数2989件
無回答提出のため32件削除
性別不明のため15件削除

性別

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男性	320	10.9	10.9	10.9
	女性	2622	89.1	89.1	100.0
	合計	2942	100.0	100.0	

問2. 年齢

性別				度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	30代		15	4.7	4.7	4.7
		40代		187	58.4	58.4	63.1
		50代		110	34.4	34.4	97.5
		それ以外		8	2.5	2.5	100.0
		合計		320	100.0	100.0	
女性	有効	30代		223	8.5	8.5	8.5
		40代		1966	75.0	75.1	83.6
		50代		413	15.8	15.8	99.4
		それ以外		15	.6	.6	100.0
		合計		2617	99.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値			5	.2	
	合計		2622	100.0			

問3. あなたの高校2年生のお子さんの性別を教えてください。

性別				度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	男子		173	54.1	54.1	54.1
		女子		145	45.3	45.3	99.4
		双子(男子/女子/男子と女子)		2	.6	.6	100.0
		合計		320	100.0	100.0	
女性	有効	男子		1131	43.1	43.3	43.3
		女子		1453	55.4	55.6	98.9
		双子(男子/女子/男子と女子)		30	1.1	1.1	100.0
		合計		2614	99.7	100.0	
	欠損値	不明			3	.1	
		システム欠損値			5	.2	
		合計			8	.3	
合計			2622	100.0			

問3. あなたなの高校2年生のお子さんの性別を教えてください。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	双子(男子/女子/男子と女子)	2	.6	100.0	100.0
		欠損値 システム欠損値	318	99.4		
	合計	320	100.0			
女性	有効	男子	11	.4	45.8	45.8
		女子	8	.3	33.3	79.2
		双子(男子/女子/男子と女子)	5	.2	20.8	100.0
		合計	24	.9	100.0	
	欠損値 システム欠損値	2598	99.1			
合計	2622	100.0				

問4. あなたが、一番一生懸命取り組んでいることがありますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	趣味	35	10.9	11.3	11.3
		家事	16	5.0	5.1	16.4
		仕事	206	64.4	66.2	82.6
		子育て	30	9.4	9.6	92.3
		その他	5	1.6	1.6	93.9
		特にない	19	5.9	6.1	100.0
	合計	311	97.2	100.0		
	欠損値	不明	6	1.9		
		システム欠損値	3	.9		
		合計	9	2.8		
合計	320	100.0				
女性	有効	趣味	161	6.1	6.4	6.4
		家事	379	14.5	15.0	21.4
		仕事	861	32.8	34.1	55.5
		子育て	718	27.4	28.4	83.9
		その他	103	3.9	4.1	88.0
		特にない	303	11.6	12.0	100.0
	合計	2525	96.3	100.0		
	欠損値	不明	33	1.3		
		システム欠損値	64	2.4		
		合計	97	3.7		
合計	2622	100.0				

問5.1. あなたには、欠点があると思いますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	とてもあると思う	141	44.1	44.3	44.3
		少しあると思う	162	50.6	50.9	95.3
		あまりないと思う	12	3.8	3.8	99.1
		まったくないと思う	3	.9	.9	100.0
		合計	318	99.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	.6			
	合計	320	100.0			
女性	有効	とてもあると思う	1364	52.0	52.2	52.2
		少しあると思う	1198	45.7	45.8	98.0
		あまりないと思う	46	1.8	1.8	99.7
		まったくないと思う	7	.3	.3	100.0
		合計	2615	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.3			
	合計	2622	100.0			

問5.2. あなたには、いいところがあると思いますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	とてもあると思う	52	16.3	16.4	16.4
		少しあると思う	246	76.9	77.6	94.0
		あまりないと思う	18	5.6	5.7	99.7
		まったくないと思う	1	.3	.3	100.0
		合計	317	99.1	100.0	
	欠損 合計	システム欠損値	3	.9		
			320	100.0		
女性	有効	とてもあると思う	508	19.4	19.5	19.5
		少しあると思う	1908	72.8	73.1	92.5
		あまりないと思う	181	6.9	6.9	99.5
		まったくないと思う	14	.5	.5	100.0
		合計	2611	99.6	100.0	
	欠損 値 合計	システム欠損値 不明 合計	9 2 11	.3 .1 .4		
	合計		2622	100.0		

問6. おかしくなくても、人の前では無理して笑うことがありますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	よくある	23	7.2	7.2	7.2
		時々ある	145	45.3	45.5	52.7
		どちらとも言えない	69	21.6	21.6	74.3
		あまりない	68	21.3	21.3	95.6
		まったくない	14	4.4	4.4	100.0
	合計	319	99.7	100.0		
欠損 値 合計	システム欠損値	1	.3			
			320	100.0		
女性	有効	よくある	362	13.8	13.8	13.8
		時々ある	1293	49.3	49.4	63.2
		どちらとも言えない	423	16.1	16.2	79.4
		あまりない	494	18.8	18.9	98.2
		まったくない	46	1.8	1.8	100.0
	合計	2618	99.8	100.0		
欠損 値 合計	システム欠損値	4	.2			
			2622	100.0		

問7. あなたのことを本気で心配してくれる人がいますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	いない	7	2.2	2.2	2.2
		いない気がする	10	3.1	3.1	5.3
		どちらとも言えない	36	11.3	11.3	16.6
		いる気がする	76	23.8	23.8	40.4
		いる	190	59.4	59.6	100.0
	合計	319	99.7	100.0		
欠損 値 合計	システム欠損値	1	.3			
			320	100.0		
女性	有効	いない	17	.6	.6	.6
		いない気がする	49	1.9	1.9	2.5
		どちらとも言えない	118	4.5	4.5	7.0
		いる気がする	556	21.2	21.2	28.3
		いる	1877	71.6	71.7	100.0
	合計	2617	99.8	100.0		
欠損 値 合計	システム欠損値	5	.2			
			2622	100.0		

問8.1. 親しくない人でも、泣いていたらとても気になる

性別	有効		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	自分によくあてはまる	70	21.9	22.0	22.0
		自分にまあまああてはまる	141	44.1	44.3	66.4
		どちらとも言えない	73	22.8	23.0	89.3
		自分にはあまりあてはまらない	29	9.1	9.1	98.4
		自分にはまったくあてはまらない	5	1.6	1.6	100.0
		合計	318	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.6		
	合計	320	100.0			
女性	有効	自分によくあてはまる	772	29.4	29.6	29.6
		自分にまあまああてはまる	1277	48.7	48.9	78.5
		どちらとも言えない	456	17.4	17.5	96.0
		自分にはあまりあてはまらない	82	3.1	3.1	99.2
		自分にはまったくあてはまらない	22	.8	.8	100.0
		合計	2609	99.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	13	.5		
	合計	2622	100.0			

問8.2. 身の回りの整理整頓はきちんとする

性別	有効		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	自分によくあてはまる	55	17.2	17.3	17.3
		自分にまあまああてはまる	120	37.5	37.7	55.0
		どちらとも言えない	68	21.3	21.4	76.4
		自分にはあまりあてはまらない	65	20.3	20.4	96.9
		自分にはまったくあてはまらない	10	3.1	3.1	100.0
		合計	318	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.6		
	合計	320	100.0			
女性	有効	自分によくあてはまる	357	13.6	13.7	13.7
		自分にまあまああてはまる	1024	39.1	39.2	52.9
		どちらとも言えない	724	27.6	27.7	80.6
		自分にはあまりあてはまらない	446	17.0	17.1	97.7
		自分にはまったくあてはまらない	61	2.3	2.3	100.0
		合計	2612	99.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	10	.4		
	合計	2622	100.0			

問8.3. 約束の時間は必ず守る

性別	有効		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	自分によくあてはまる	184	57.5	57.9	57.9
		自分にまあまああてはまる	103	32.2	32.4	90.3
		どちらとも言えない	24	7.5	7.5	97.8
		自分にはあまりあてはまらない	5	1.6	1.6	99.4
		自分にはまったくあてはまらない	2	.6	.6	100.0
		合計	318	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.6		
	合計	320	100.0			
女性	有効	自分によくあてはまる	1225	46.7	46.9	46.9
		自分にまあまああてはまる	1053	40.2	40.3	87.2
		どちらとも言えない	224	8.5	8.6	95.8
		自分にはあまりあてはまらない	100	3.8	3.8	99.6
		自分にはまったくあてはまらない	10	.4	.4	100.0
		合計	2612	99.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	9	.3		
	不明	1	.0			
	合計	10	.4			
	合計	2622	100.0			

問8.4. 仲間はずれにされている人を見ると、かわいそうになる

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	自分によくあてはまる	119	37.2	37.4	37.4
		自分にまあまああてはまる	133	41.6	41.8	79.2
		どちらとも言えない	54	16.9	17.0	96.2
		自分にはあまりあてはまらない	8	2.5	2.5	98.7
		自分にはまったくあてはまらない	4	1.3	1.3	100.0
		合計	318	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.6		
	合計	320	100.0			
女性	有効	自分によくあてはまる	1044	39.8	40.0	40.0
		自分にまあまああてはまる	1214	46.3	46.5	86.5
		どちらとも言えない	317	12.1	12.1	98.6
		自分にはあまりあてはまらない	25	1.0	1.0	99.6
		自分にはまったくあてはまらない	11	.4	.4	100.0
		合計	2611	99.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	11	.4		
	合計	2622	100.0			

問9.1. 買い物などの例に並ぶとき、途中から割り込むこと

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	まったくかまわないと思う	4	1.3	1.3	1.3
		まあまあかまわないと思う	5	1.6	1.6	2.8
		どちらとも言えない	5	1.6	1.6	4.4
		あまりよくないと思う	35	10.9	11.0	15.4
		とてもよくないと思う	269	84.1	84.6	100.0
		合計	318	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.6		
	合計	320	100.0			
女性	有効	まったくかまわないと思う	11	.4	.4	.4
		まあまあかまわないと思う	15	.6	.6	1.0
		どちらとも言えない	26	1.0	1.0	2.0
		あまりよくないと思う	376	14.3	14.4	16.4
		とてもよくないと思う	2180	83.1	83.3	99.7
		どうでもいいと思う	8	.3	.3	100.0
	合計	2616	99.8	100.0		
欠損値	システム欠損値	6	.2			
	合計	2622	100.0			

問9.2. 電車内などでお化粧をすること

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	まったくかまわないと思う	8	2.5	2.5	2.5
		まあまあかまわないと思う	25	7.8	7.9	10.5
		どちらとも言えない	44	13.8	14.0	24.4
		あまりよくないと思う	140	43.8	44.4	68.9
		とてもよくないと思う	76	23.8	24.1	93.0
		どうでもいいと思う	22	6.9	7.0	100.0
		合計	315	98.4	100.0	
	欠損値	不明	1	.3		
		システム欠損値	4	1.3		
		合計	5	1.6		
	合計		320	100.0		
	女性	有効	まったくかまわないと思う	15	.6	.6
まあまあかまわないと思う			99	3.8	3.8	4.4
どちらとも言えない			203	7.7	7.8	12.1
あまりよくないと思う			1322	50.4	50.6	62.7
とてもよくないと思う			862	32.9	33.0	95.6
どうでもいいと思う			114	4.3	4.4	100.0
合計			2615	99.7	100.0	
欠損値		システム欠損値	7	.3		
		合計	2622	100.0		

問9.3. 誰かが話しかけている時に、他の人にケータイでメールをうつこと

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	まったくかまわないと思う	3	.9	.9	.9
		まあまあかまわないと思う	7	2.2	2.2	3.1
		どちらとも言えない	15	4.7	4.7	7.9
		あまりよくないと思う	88	27.5	27.7	35.5
		とてもよくないと思う	202	63.1	63.5	99.1
		どうでもいいと思う	3	.9	.9	100.0
		合計	318	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.6		
	合計		320	100.0		
	女性	有効	まったくかまわないと思う	9	.3	.3
まあまあかまわないと思う			18	.7	.7	1.0
どちらとも言えない			126	4.8	4.8	5.9
あまりよくないと思う			842	32.1	32.2	38.1
とてもよくないと思う			1603	61.1	61.3	99.4
どうでもいいと思う			16	.6	.6	100.0
合計			2614	99.7	100.0	
欠損値		システム欠損値	8	.3		
合計			2622	100.0		

問9.4. コンビニの前などで他面に座り込んでしゃべったり、物を食べたりすること。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	まったくかまわないと思う	3	.9	.9	.9
		まあまあかまわないと思う	7	2.2	2.2	3.1
		どちらとも言えない	14	4.4	4.4	7.5
		あまりよくないと思う	115	35.9	36.2	43.7
		とてもよくないと思う	173	54.1	54.4	98.1
		どうでもいいと思う	6	1.9	1.9	100.0
		合計	318	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.6		
	合計		320	100.0		
	女性	有効	まったくかまわないと思う	11	.4	.4
まあまあかまわないと思う			28	1.1	1.1	1.5
どちらとも言えない			81	3.1	3.1	4.6
あまりよくないと思う			769	29.3	29.4	34.0
とてもよくないと思う			1697	64.7	64.9	98.9
どうでもいいと思う			28	1.1	1.1	100.0
合計			2614	99.7	100.0	
欠損値		システム欠損値	8	.3		
合計			2622	100.0		

問9.5. 遅刻や提出物わすれのと看、嘘について言い訳をすること

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	まったくかまわないと思う	4	1.3	1.3	1.3
		まあまあかまわないと思う	9	2.8	2.8	4.1
		どちらとも言えない	17	5.3	5.3	9.4
		あまりよくないと思う	109	34.1	34.3	43.7
		とてもよくないと思う	177	55.3	55.7	99.4
		どうでもいいと思う	2	.6	.6	100.0
		合計	318	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.6		
	合計		320	100.0		
	女性	有効	まったくかまわないと思う	6	.2	.2
まあまあかまわないと思う			26	1.0	1.0	1.2
どちらとも言えない			151	5.8	5.8	7.0
あまりよくないと思う			897	34.2	34.3	41.3
とてもよくないと思う			1518	57.9	58.1	99.4
どうでもいいと思う			16	.6	.6	100.0
合計			2614	99.7	100.0	
欠損値		システム欠損値	8	.3		
合計			2622	100.0		

問10. お子さんが小学校低学年のころについての質問です。

性別			パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	叱ることが多かった	15.0	15.1	15.1
		叱ったり、ほめたり同じくらいだった	56.6	57.1	72.2
		ほめることが多かった	20.3	20.5	92.7
		叱ることもほめることもなかった	2.8	2.8	95.6
		覚えてない	4.4	4.4	100.0
		合計	99.1	100.0	
	欠損値	システム欠損値	.9		
	合計	100.0			
女性	有効	叱ることが多かった	19.7	19.8	19.8
		叱ったり、ほめたり同じくらいだった	58.7	58.9	78.6
		ほめることが多かった	17.2	17.3	95.9
		叱ることもほめることもなかった	1.3	1.3	97.2
		覚えてない	2.8	2.8	100.0
		合計	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	.3		
	合計	100.0			

問11. 高校生になってからの質問です。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	叱ることが多かった	55	17.2	17.4	17.4
		叱ったり、ほめたり同じくらいだった	166	51.9	52.4	69.7
		ほめることが多かった	61	19.1	19.2	89.0
		叱ることもほめることもなかった	33	10.3	10.4	99.4
		覚えてない	2	.6	.6	100.0
		合計	317	99.1	100.0	
	欠損値	システム欠損値	3	.9		
	合計	320	100.0			
女性	有効	叱ることが多かった	429	16.4	16.4	16.4
		叱ったり、ほめたり同じくらいだった	1512	57.7	58.0	74.4
		ほめることが多かった	531	20.3	20.4	94.7
		叱ることもほめることもなかった	126	4.8	4.8	99.6
		覚えてない	11	.4	.4	100.0
		合計	2609	99.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	13	.5		
	合計	2622	100.0			

問12. お子さんの成績はどれくらいだと思いますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	トップレベル	27	8.4	8.4	8.4
		真ん中より上	96	30.0	30.0	38.4
		真ん中くらい	93	29.1	29.1	67.5
		真ん中より下	102	31.9	31.9	99.4
		わからない	2	.6	.6	100.0
		合計	320	100.0	100.0	
女性	有効	トップレベル	150	5.7	5.7	5.7
		真ん中より上	800	30.5	30.6	36.4
		真ん中くらい	828	31.6	31.7	68.1
		真ん中より下	810	30.9	31.0	99.1
		わからない	24	.9	.9	100.0
		合計	2612	99.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	10	.4			
	合計	2622	100.0			

問13. お子さんが、一生懸命取り組んでいることがありますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	部活	151	47.2	47.8	47.8
		趣味	67	20.9	21.2	69.0
		習い事	3	.9	.9	69.9
		勉強	30	9.4	9.5	79.4
		その他	12	3.8	3.8	83.2
		特にない	44	13.8	13.9	97.2
		わからない	9	2.8	2.8	100.0
		合計	316	98.8	100.0	
		欠損値	不明	2	.6	
	システム欠損値		2	.6		
	合計		4	1.3		
	合計		320	100.0		
	女性	有効	部活	1268	48.4	49.1
趣味			523	19.9	20.2	69.3
習い事			54	2.1	2.1	71.4
勉強			232	8.8	9.0	80.3
その他			178	6.8	6.9	87.2
特にない			257	9.8	9.9	97.2
わからない			73	2.8	2.8	100.0
合計			2585	98.6	100.0	
欠損値			不明	22	.8	
		システム欠損値	15	.6		
		合計	37	1.4		
合計			2622	100.0		

問14. あなたのお子さんは人の気持ちを思いやることができると思いますか？

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	できると思う	161	50.3	51.3	51.3
		たぶんできると思う	123	38.4	39.2	90.4
		たぶんできないと思う	15	4.7	4.8	95.2
		できないと思う	11	3.4	3.5	98.7
		わからない	4	1.3	1.3	100.0
		合計	314	98.1	100.0	
		欠損値	システム欠損値	6	1.9	
	合計		320	100.0		
女性	有効	できると思う	1363	52.0	52.2	52.2
		たぶんできると思う	1097	41.8	42.0	94.2
		たぶんできないと思う	84	3.2	3.2	97.4
		できないと思う	24	.9	.9	98.3
		わからない	44	1.7	1.7	100.0
		合計	2612	99.6	100.0	
	欠損値	システム欠損値	10	.4		
合計		2622	100.0			

問15.1. 子どもに対して過保護だと思う。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	とてもそ思う	31	9.7	9.8	9.8
		ややそ思う	134	41.9	42.3	52.1
		あまりそ思わない	126	39.4	39.7	91.8
		まったくそ思わない	26	8.1	8.2	100.0
		合計	317	99.1	100.0	
	欠損値	システム欠損値	3	.9		
	合計	320	100.0			
女性	有効	とてもそ思う	216	8.2	8.3	8.3
		ややそ思う	1359	51.8	52.1	60.3
		あまりそ思わない	897	34.2	34.4	94.7
		まったくそ思わない	138	5.3	5.3	100.0
		合計	2610	99.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	12	.5		
	合計	2622	100.0			

問15.2. 子どもの話を聞くのが好きである。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	とてもそ思う	113	35.3	35.5	35.5
		ややそ思う	171	53.4	53.8	89.3
		あまりそ思わない	33	10.3	10.4	99.7
		まったくそ思わない	1	.3	.3	100.0
		合計	318	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.6		
	合計	320	100.0			
女性	有効	とてもそ思う	1501	57.2	57.5	57.5
		ややそ思う	991	37.8	38.0	95.5
		あまりそ思わない	108	4.1	4.1	99.7
		まったくそ思わない	9	.3	.3	100.0
		合計	2609	99.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	12	.5		
		不明	1	.0		
	合計	13	.5			
	合計	2622	100.0			

問15.3. 子どもと一緒に行動するのは楽しい。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	とてもそ思う	121	37.8	38.4	38.4
		ややそ思う	159	49.7	50.5	88.9
		あまりそ思わない	33	10.3	10.5	99.4
		まったくそ思わない	2	.6	.6	100.0
		合計	315	98.4	100.0	
	欠損値	不明	1	.3		
		システム欠損値	4	1.3		
	合計	5	1.6			
	合計	320	100.0			
女性	有効	とてもそ思う	1390	53.0	53.4	53.4
		ややそ思う	1036	39.5	39.8	93.1
		あまりそ思わない	170	6.5	6.5	99.7
		まったくそ思わない	9	.3	.3	100.0
		合計	2605	99.4	100.0	
	欠損値	不明	3	.1		
		システム欠損値	14	.5		
	合計	17	.6			
	合計	2622	100.0			

問15.4. 子どもの良いところではなく、悪いところばかり目につく。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	とてもそ思う	20	6.3	6.3	6.3
		ややそ思う	76	23.8	24.1	30.5
		あまりそ思わない	180	56.3	57.1	87.6
		まったくそ思わない	39	12.2	12.4	100.0
		合計	315	98.4	100.0	
	欠損値	不明	2	.6		
		システム欠損値	3	.9		
		合計	5	1.6		
	合計		320	100.0		
	女性	有効	とてもそ思う	137	5.2	5.3
ややそ思う			789	30.1	30.3	35.6
あまりそ思わない			1428	54.5	54.9	90.5
まったくそ思わない			248	9.5	9.5	100.0
合計			2602	99.2	100.0	
欠損値		不明	3	.1		
		システム欠損値	17	.6		
		合計	20	.8		
合計			2622	100.0		

問15.5. 子どもの考えを真剣に理解しようとしている。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	とてもそ思う	108	33.8	34.0	34.0
		ややそ思う	178	55.6	56.0	89.9
		あまりそ思わない	30	9.4	9.4	99.4
		まったくそ思わない	2	.6	.6	100.0
		合計	318	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.6		
	合計		320	100.0		
女性	有効	とてもそ思う	1044	39.8	40.1	40.1
		ややそ思う	1401	53.4	53.8	93.9
		あまりそ思わない	141	5.4	5.4	99.3
		まったくそ思わない	17	.6	.7	100.0
		合計	2603	99.3	100.0	
	欠損値	システム欠損値	18	.7		
		不明	1	.0		
合計		19	.7			
合計		2622	100.0			

問15.6. 就職先は家から近いところにして欲しい。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	とてもそ思う	50	15.6	15.8	15.8
		ややそ思う	96	30.0	30.3	46.1
		あまりそ思わない	124	38.8	39.1	85.2
		まったくそ思わない	47	14.7	14.8	100.0
		合計	317	99.1	100.0	
	欠損値	システム欠損値	3	.9		
	合計		320	100.0		
女性	有効	とてもそ思う	414	15.8	15.9	15.9
		ややそ思う	923	35.2	35.4	51.2
		あまりそ思わない	945	36.0	36.2	87.4
		まったくそ思わない	328	12.5	12.6	100.0
		合計	2610	99.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	11	.4		
		不明	1	.0		
合計		12	.5			
合計		2622	100.0			

問15.7. 子どもが自分の言うことを聞かないと腹が立つ。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	とてもそ思う	48	15.0	15.2	15.2
		ややそ思う	164	51.3	51.9	67.1
		あまりそ思わない	91	28.4	28.8	95.9
		まったくそ思わない	13	4.1	4.1	100.0
		合計	316	98.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	4	1.3		
	合計	320	100.0			
女性	有効	とてもそ思う	331	12.6	12.7	12.7
		ややそ思う	1506	57.4	57.9	70.6
		あまりそ思わない	694	26.5	26.7	97.3
		まったくそ思わない	71	2.7	2.7	100.0
		合計	2602	99.2	100.0	
	欠損値	システム欠損値	20	.8		
	合計	2622	100.0			

問15.8. だめなところがあっても、こどもは宝だと思ふ。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	とてもそ思う	210	65.6	66.0	66.0
		ややそ思う	91	28.4	28.6	94.7
		あまりそ思わない	14	4.4	4.4	99.1
		まったくそ思わない	3	.9	.9	100.0
		合計	318	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.6		
	合計	320	100.0			
女性	有効	とてもそ思う	2056	78.4	78.8	78.8
		ややそ思う	477	18.2	18.3	97.1
		あまりそ思わない	66	2.5	2.5	99.6
		まったくそ思わない	10	.4	.4	100.0
		合計	2609	99.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	12	.5		
		不明	1	.0		
	合計	13	.5			
	合計	2622	100.0			

問15.9. 誰よりも、親を頼りにして欲しい。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	とてもそ思う	88	27.5	27.7	27.7
		ややそ思う	122	38.1	38.4	66.0
		あまりそ思わない	95	29.7	29.9	95.9
		まったくそ思わない	13	4.1	4.1	100.0
		合計	318	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.6		
	合計	320	100.0			
女性	有効	とてもそ思う	612	23.3	23.5	23.5
		ややそ思う	1235	47.1	47.5	71.0
		あまりそ思わない	690	26.3	26.5	97.5
		まったくそ思わない	65	2.5	2.5	100.0
		合計	2602	99.2	100.0	
	欠損値	システム欠損値	19	.7		
		不明	1	.0		
	合計	20	.8			
	合計	2622	100.0			

問15.10. 親がやかましく言わないと子どもはだらけると思う。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	とてもそ思う	33	10.3	10.4	10.4
		ややそ思う	109	34.1	34.4	44.8
		あまりそ思わない	142	44.4	44.8	89.6
		まったくそ思わない	33	10.3	10.4	100.0
		合計	317	99.1	100.0	
	欠損値	不明	1	.3		
		システム欠損値	2	.6		
		合計	3	.9		
	合計		320	100.0		
	女性	有効	とてもそ思う	238	9.1	9.1
ややそ思う			1031	39.3	39.5	48.7
あまりそ思わない			1125	42.9	43.1	91.8
まったくそ思わない			214	8.2	8.2	100.0
合計			2608	99.5	100.0	
欠損値		システム欠損値	14	.5		
合計			2622	100.0		

問15.11. 家庭での親子の会話は多いほうだと思う。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	とてもそ思う	76	23.8	24.1	24.1
		ややそ思う	145	45.3	45.9	69.9
		あまりそ思わない	86	26.9	27.2	97.2
		まったくそ思わない	9	2.8	2.8	100.0
		合計	316	98.8	100.0	
	欠損値	システム欠損値	4	1.3		
	合計		320	100.0		
女性	有効	とてもそ思う	1050	40.0	40.2	40.2
		ややそ思う	1076	41.0	41.2	81.5
		あまりそ思わない	437	16.7	16.7	98.2
		まったくそ思わない	46	1.8	1.8	100.0
		合計	2609	99.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	11	.4		
		不明	2	.1		
		合計	13	.5		
合計		2622	100.0			

問15.12. 子どもの成長は嬉しいが、反面寂しく感じる。

性別			度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	有効	とてもそ思う	53	16.6	16.7	16.7
		ややそ思う	131	40.9	41.2	57.9
		あまりそ思わない	89	27.8	28.0	85.8
		まったくそ思わない	45	14.1	14.2	100.0
		合計	318	99.4	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	.6		
合計		320	100.0			
女性	有効	とてもそ思う	583	22.2	22.3	22.3
		ややそ思う	1113	42.4	42.6	65.0
		あまりそ思わない	746	28.5	28.6	93.6
		まったくそ思わない	168	6.4	6.4	100.0
		合計	2610	99.5	100.0	
	欠損値	システム欠損値	10	.4		
		不明	2	.1		
合計		12	.5			
合計		2622	100.0			

アンケート調査分析

1 アンケート結果【単純集計】

対象者1：高校2年生

対象者数(分析対象者数)：高校2年生 3,439 人(男子 1,575 人、女子 1,864 人)
(但し、性別不明 39 件、矛盾回答 4 件、途中放棄 8 件は分析対象外)

対象者2：高校2年生の保護者

対象者数(分析対象者数)：高校2年生保護者 2,942 人(男性 320 人、女性 2,622 人)
(但し、性別不明 15 件、途中放棄 32 件は分析対象外)

- * 高校生の現状の概要
- * 保護者の結果は高校生の現状と比較して記載
- * その他、全設問に対する結果の詳細は、添付の集計表を参照のこと
- * ここでは、特徴的な結果のみを紹介
- * 該当する問番号：高校生の問番号の前には S、保護者の問番号の前には P を記載

■ 生活の現状

1. 高校2年生の家庭学習時間(塾の勉強時間を含む)(S問3)

- ・ 帰宅後の学習時間は、「まったく勉強しない」が半数を超え(男子 59.3%、女子 55.1%)にも達し、60%弱の生徒が帰宅後全く勉強していなかった。
- ・ 高校2年生全体の一日の帰宅後の平均学習時間(塾での勉強時間を含む)は男子 35 分、女子 36 分と男女とも著しく短いことが明らかになった。この結果より、学校側の指導内容に対する検討だけでなく、高校生自身の能動的学習態度の育成が今後の課題であると考えられる。

2. 高校2年生の授業理解度「授業についていけるか?」(S問4)

- ・ 「ついていけないことがよくある」という生徒は男女とも 25%前後に達していた(男子 24.4%、女子 26.8%)。
- ・ 昨年度、実施の全国調査でも全く同様の結果が得られ再現性があることから、近年の高等学校の授業に対する憂慮すべき実態を示しているものと考えられる。

3. 意欲の状況「あなたが一生懸命取り組んでいることがありますか?」(S問5)

- ・ **意欲の状況(高校生)**：内容に関わらず一生懸命取り組んでいることが「特にない」と回答した生徒が 20~25% (男子 19.0%、女子 24.5%) と生徒の 4-5 人に 1 人の割合に達していた。

- ・ **内訳**：一生懸命取り組んでいるもののうち、最も多かったのは、「部活」で、40%前後（男子 45.3%、女子 37.4%）であった。「勉強」と回答した生徒は、男女とも 5%弱（男子 4.5%、女子 4.9%）にとどまった。
- ・ **意欲の状況（保護者）**：内容に関わらず一生懸命取り組んでいることが「特にない」と回答した人が 10%前後（男性 5.9%、女子 11.6%）と高校生に比べると意欲のない人の割合は半分以下であった。
- ・ **内訳**：一生懸命取り組んでいるもののうち、最も多かったのは、男女とも「仕事」であったが、割合は異なり男性 64.4%女性 32.8%であった。「子育て」と回答した保護者は、女性では 27.4%と 3 割近かったが、男性では 9.4%にとどまっていた。

■ケータイ・パソコン使用の現状

4. ケータイ使用開始年齢(S 問 6)

- ・ **ケータイ所持率**：高校 2 年生のケータイ所有率は男子 96.1%、女子 98.6%とほぼ全員の生徒が所有していた。
- ・ **ケータイ使用時間**：所有している生徒のケータイ使用開始年齢を調べた。男子では、最も多かったのが、高校生になってからで男子 43.8%、次が中学生時代で男子 39.7%であった。一方、女子では、中学時代が最も多く女子 42.0%、高校生になってからは女子 35.5%で、男子より女子の方が全体的には早く携帯電話を所持し始めていた。また、小学校入学前という極めて早期に所持しているものも男子 1.0%、女子 0.2%とわずかではあるが存在していた。

5. ケータイ使用状況(S 問 7)(S 問 8)

- ・ **ケータイ使用時間**：一日のケータイ使用時間（見ている時間も含めて）は、男子 3.3 時間、女子 4.5 時間で、前述の家庭学習時間に比べると極めて長時間であり、女子の方が長時間であった。また、昨年度の調査結果と比べると、家庭学習時間は減少し、ケータイ使用時間は増加するという結果が観察された。
- ・ **ケータイ登録人数、連絡実人数**：ケータイに登録されている人数を尋ねた。平均すると男子は 71 人で、女子は 87 人と極めて多数の人数が登録されていた。そのうちよく連絡する人数は、平均すると男子 13 人、女子 11 人と 10 人程度であった。

6. ケータイ使用内容・依存度(S 問 9)(S 問 10)

- ・ **ケータイ使用内容**：ケータイで一番利用するのは何か利用の内容を尋ねた。男女とも最も多かったのが、「メールをする」で男子 53.5%、女子 51.7%と半数を超えていた。その他、使用が 10%を越えていたものは、「mixi、モバゲー、GREE、twitter などコミュニティーサイト利用」が男子 15.2%、女子 14.0%で、女子ではこの他に、「HP を見る」が 11.4%、「ブログをする」が 11.0%であり、男女とも通話利用はほとんどないことが明らかとなった。
- ・ **ケータイ依存度**：「ケータイを家に置き忘れて外出。どのような気持ちになるか？」を尋ねた。「何とも思わない」という非依存群は男子 31.8%、女子 20.8%で、「不便だと思う」という機能的依存群は男子 39.7%、女子 40.0%と男女とも 40%前後で最も高率であった。残りは精神的依存群であるが、その割合は男子に比べ、女子の方が高率であった。

7. SNS 利用状況(S 問 11)

- ・ **パソコン(PC)及びケータイでの SNS ソーシャルネットワーキングサービス (mixi、モバゲー、GREE、twitter など) 利用状況**：男子 56.3%、女子 52.1%と半数以上が SNS を利用しており、生徒たちに一般化しつつあることが示された。
- ・ **SNS 利用時間**：利用時間は、平均すると男子 1.9 時間、女子 2.2 時間で男女とも 2 時間近くに達していた。
- ・ **利用頻度の高いサイト**：男女とも「モバゲー」が一番多く男子 35.0%で、女子 23.2%であった。女子はそのほかに Mixi 利用 11.5%、Gree 利用 11.4%と男子に比べモバゲーだけに集中していなかった。高校生での Twitter 利用はまだ数%にとどまっており、若者でも年齢によってサイト利用状況が異なる可能性が示唆された。
- ・ **サイトでの交流人数**：SNS で交流している人数を尋ねた。平均する男子で 85 人、女子で 33 人と、男子の方が圧倒的に多数であった。

8. SNS 利用状況(S 問 12)(S 問 13)

- ・ **パソコン(PC)所持率**：自分専用を持っている生徒は男子 19.9%、女子 12.8%と 10-20%程度であったが、「家族共有のパソコン使用」は男子 61.3%、女子 71.5%とかなりの高率であった。
- ・ **パソコン利用内容**：「ホームページを見る」が最も多く男子 34.9%、女子 41.2%であり、前述のケータイでの利用状況から見ると SNS の利用は主にケータイで行われていると考えられる。

■各種リスク行動

9. 各種リスク行動と学外行動(S 問 14)

- ・ **各種リスク行動(高校生)**：高校 2 年生の喫煙、飲酒、薬物使用、向精神薬使用、性関係、万引き、暴力(加害・被害)、いじめ(加害・被害)、ネットいじめ(加害・被害)、自傷行為、アルバイトについて尋ねた。睡眠薬・精神安定剤等の向精神薬の使用は男子 3.0%、女子 5.2%と少なからず存在した。大麻等違法薬物は、1%未満で少数であったが、使用者が存在していた。性経験率は男子 13.9%、女子 15.1%であり 5-6 年前に比べると低下傾向が観察された。いじめ被害は男子 16.0%、女子 24.9%で女子の方が高率であり、自傷行為は男子 3.2%、女子 10.2%と女子が高い傾向は変わらなかった。これらの割合は学校により大きな差があり、学校によってはいじめ被害が 50%、自傷行為が 30%を超える学校も存在した。

■メンタルヘルス、自己肯定感、他者共感、社会性、問題処理力

10. 精神的健康(S15)

- ・ **メンタルヘルスの不健康状態(高校生)**：「激しい怒りの頻度」は、「よくある」と回答した生徒が男子 11.4%、女子 13.5%で、「孤独感の頻度」は、「よくある」と回答した生徒が男子 9.1%、女子 15.5%で、「絶望感の頻度」が「よくある」と回答した生徒が男子 10.8%、女子 13.8%で、いずれも 10 人に 1 人の生徒が不健康なメンタルヘルスの様相を呈しており、わずかではあるが女子の方が高率であった。「強い喜びの感情の頻度」では、「まったくなかった」は男子 5.7%、女子 1.8%と先ほどとは逆に男子が高率であった。

11. 自他に対する意識(S問16)(P問5)、(S問17)(P問5)(S問18)(P問7)(S問19)

- ・ **自己肯定感(高校生)**：「自分には欠点があるか？」を尋ねた。「とてもある」が男子 61.8%、女子 71.6%で最多であったが、「まったくない」「あまりない」と回答した群が男子 6.6%、女子 1.5%と少なからず存在していた。一方「自分にはいいところがあるか？」という質問には「少しある」が男子 52.1%、女子 54.8%と最多であったが、「まったくない」と回答した群が男子 7.0%、女子 6.0%と無視できない割合存在していた。
- ・ **自己肯定感(保護者)**：「自分には欠点があるか？」を尋ねた。「とてもある」が男性 44.1%、女子 52.0%と高校生に比べ 20%以上低く、「まったくない」「あまりない」と回答した群が男子 4.7%、女子 2.1%と高校生同様少なからず存在していた。一方「自分にはいいところがあるか？」という質問には「少しある」が男子 76.9%、女子 72.8%と最多で高校生よりも 20%程度高率であり、「まったくない」と回答した群が男性 0.3%、女子 0.5%と極めて低率であり、保護者と比べると高校生の方が自己肯定感が低いことが示された。
- ・ **作り笑い頻度(高校生)**：「おかしくなくても、友だちの前で無理して笑うことがあるか？」という質問をした。「よくある」という高頻度群は男子 17.0%で、女子 18.3%で約 2 割弱程度存在していた。
- ・ **作り笑い頻度(保護者)**：「おかしくなくても、人の前で無理して笑うことがあるか？」という質問をした。「よくある」という高頻度群は男性 7.2%で、女子 13.8%で約 1 割前後と高校生の約半分程度存在していた。このことより保護者に比べると高校生の方が周囲に気を使うストレスの多い精神状況である可能性が示唆された。
- ・ **本気で心配してくれる人の存在の有無(高校生)**：「あなたのことを本気で心配してくれる人がいるか？」という質問をした。「いる」と断言した生徒は男子 31.9%で、女子 42.4%で約 3-4 割であった。一方「いない」と回答した生徒は男子 5.1%、女子 2.7%と少なからず存在していた。
- ・ **本気で心配してくれる人の存在の有無(保護者)**：「あなたのことを本気で心配してくれる人がいるか？」という質問をした。「いる」と断言した保護者は男性 59.4%で、女性 71.6%で約 6-7 割であり、高校生に比べると 2 倍近い高率であった。一方、今回の対象の生徒のうち、保護者がいない生徒は 5%前後は存在するが、保護者がいるにもかかわらず、本気で心配してくれている大人がいるという実感を持っていない生徒が相当数存在するということは親子関係の希薄化等憂慮すべき事態の可能性が示された。
- ・ **自分らしく過ごせる場(高校生)**：「あなたが一番自分らしく過ごせるのはいつ(どこ)？」を尋ねた。男女とも最多は「友だちといるとき」で男子 32.3%、女子 28.5%と 30%前後の生徒が友人といるときを選んでいった。女子では次は「家族と一緒にいるとき」22.7%、「家で 1 人でいるとき」20.8%であった。男子では 2 番目は「家で 1 人でいるとき」19.0%、次が「趣味に没頭しているとき」17.0%と続いた。「自分らしく過ごせることはまったくない」は男子 2.0%、女子 1.0%と低率ではあるが、居場所のない生徒の存在が示された。

12. 問題対処力(S問 20)

- ・ **問題対処力スコア (高校生)** : ①「一度失敗しても次は上手くいくように工夫する」②「困ったときは自分ができることをまずやる」③「困ったときは様々な角度から考える」④「失敗したときに自分のどこが悪かったかを考える」という設問に対し、「とてもあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階の回答に5点から1点までを与え、それを合計して問題対処力として算出した。合計点は4点から20点の範囲であるが、4～11点を問題処理力の弱い群、12～16点を問題処理力の中等度群、17～20点を問題対処力の高い群と分類した。問題処理力が高い群は、男子24.7%、女子20.0%と4・5人に1人の割合であった。逆に問題対処力の弱い群は、男子9.6%、女子11.3%と男女とも1割程度存在した。
- ・ **間違い指摘に対する態度 (高校生)** : 「自分の間違いを注意されるとどのような気持ちになるか?」を尋ねた。男子では、最多は「納得する」19.6%であったが、女子の最多は「落ち込む」24.8%であった。「自分が否定されたような気持ちになる」が男子6.0%、女子8.6%と少なからず存在し、注意することの難しさの一端が明らかとなった。

13. 他者や周囲への共感性(S問 22)(P問 8)

- ・ **共感性尺度 (高校生)** : ①「親しくない人でも、泣いていたらとても気になる」②「しつこくからかわれている人を見ると、からかっている人に対して腹が立つ」③「仲間はずれにされている人を見るとかわいそうになる」など、類似3項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」までの5段階で点数化し、最低3点から最高点15点で、生徒の点数の分布を調べた。
- ・ 3～8点を共感性低い群、9～12点を共感性普通群、13～15点を共感性高い群と定義した。共感性高い群は、男子28.7%、女子35.5%と女子の方が他者への共感意識が高いことが示された。
- ・ **共感性尺度 (保護者)** : ①「親しくない人でも、泣いていたらとても気になる」②「仲間はずれにされている人を見るとかわいそうになる」など、類似2項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」までの5段階で点数化し、最低2点から最高点10点で、保護者の点数の分布を調べた。
- ・ 2～6点を共感性低い群、7～8点を共感性普通群、8～10点を共感性高い群と定義した。共感性高い群は、男性36.3%、女性42.5%と高校生同様女性の方が他者への共感意識が高いことが示された。

14. 社会性(S問 22)(P問 8)

- ・ **社会性尺度 (高校生)** : ①「身の回りの整理整頓はきちんとする」②「学校の規則は守る」など、類似2項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」までの5段階で点数化し、最低2点から最高点10点で、生徒の点数の分布を調べた。
- ・ 2～5点を社会性低い群、6～8点を社会性普通群、9～10点を社会性高い群と定義した。社会性低い群は、男子19.7%、女子20.7%と約20%前後の生徒が社会性が低いことが示された。
- ・ **社会性尺度 (保護者)** : ①「身の回りの整理整頓はきちんとする」②「約束の時間は必ず守る」など、類似2項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」までの5段階で点数化し、最低2点から最高点10点で、保護者の点数の分布を調べた。
- ・ 2～5点を社会性低い群、6～8点を社会性普通群、9～10点を社会性高い群と定義した。社会性低い群は、男性4.9%、女子6.6%と約5%前後であった。質問内容が若干異なるため、単純な比較はできないが、保護者に比べ高校生の方が社会性が低いことが示された。

14. 規範性(S問 23)(P問 9)

- ・ **規範意識 (高校生)** : ①「買い物などの列に並ぶとき途中から割り込むこと」②「遅刻や提出物忘れのとき嘘をついて言い訳すること」など、類似 5 項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」、「どうでもいい」を 0 点として 5 段階で点数化し、最低 0 点から最高点 25 点で、生徒の点数の分布を調べた。
- ・ 0～10 点を規範意識低い群、11～20 点を規範意識普通群、21～25 点を規範意識高い群と定義した。規範意識低い群は、男子 18.1%、女子 8.7%と男子生徒の方が規範意識が低いことが示された。
- ・ **規範意識 (保護者)** : ①「買い物などの列に並ぶとき途中から割り込むこと」②「遅刻や提出物忘れのとき嘘をついて言い訳すること」など、類似 5 項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」、「どうでもいい」を 0 点として 5 段階で点数化し、最低 0 点から最高点 25 点で、保護者の点数の分布を調べた。
- ・ 0～10 点を規範意識低い群、11～20 点を規範意識普通群、21～25 点を規範意識高い群と定義した。規範意識低い群は、男性 2.3%、女子 0.8%であった。規範意識は高校生の方が極めて低いことが示された。このことより親の規範意識が子どもに伝えられていない可能性が示唆された。

15. 高校生の周囲との人間関係(S問 26)

- ・ **周囲との人間関係 (高校生)** : 友だち、先生、女性保護者、男性保護者について「その人を心から信じられるか？」という信頼感を尋ねた。「とてもそう思う」と回答した信頼感を強く感じている生徒が、友人では、男子 42.6%、女子 51.0%、先生では、男子 20.1%、女子 19.9%、女性保護者では男子 38.8%、女子 52.9%、男性保護者では男子 31.7%、女子 34.1%という結果で心から信じられるのは男子では友人、女性保護者、男性保護者、先生の順で、女子では女性保護者、友人、男性保護者、先生の順であった。

16. 保護者の子どもに対する態度(P問 15)

- ・ 各質問に対し「とてもそう思う」と回答した保護者の割合を示す。①「とても過保護だと思う」と回答したのは男性 9.7%、女性 8.2%と約 10%弱であった。②「子どもの話を聞くのがとても好きである」は男性 35.3%、女性 57.2%であった。③「子どもと一緒にいるのはとても楽しい」は男性 37.8%、女性 53.0%で、④「子どものいいところでなく悪いことばかり目に付く」は男性 6.3%、女性 5.2%であった。⑤「子どもの考えを真剣に理解しようとしている」は男性 33.8%。女性 39.8%で、⑥「就職先は家から近いところにしてほしい」は男性 15.6%、女性 15.8%で、⑦「子どもが自分の言うことを聞かないととても腹が立つ」は男性 15.0%、女性 12.6%であった。一方⑧「だめなところがあっても子どもは宝だと思う」は男性 65.6%、女性 78.4%と 7-8 割と大多数保護者がそのように感じていた。

② アンケート結果【2変量解析】 *今回は多変量解析は行っていない

■ 「勉強を含め一生懸命取り組んでいることが/特にない」:意欲のない高校生の背景因子

- * 本分析では、高校生の調査の問5の回答を、①「特にない」、②「部活・趣味・習い事・勉強・その他」の2つのカテゴリ、①意欲なし群、②意欲あり群と定義した。
- * 意欲がないことに関連する要因を検討した。
- * 提示している関連は特に顕著なもの（統計学的に有意のもの）を示す
- * ここでは、ORの値が高いほど関連が強いことを示す。
- * OR値が3を超える特に関連の強いものは太字で提示している。

1. 人間関係

*各設問では、「とてもそう思う」（全面的肯定）を基準OR=1[倍率]として算出

● 心配してくれる大人の存在

- ・ 本気で心配してくれる大人がいるかどうかわからない(男子OR=2.5、女子OR=1.8)。
- ・ 本気で心配してくれる大人がいない気がする(女子OR=1.8)。
- ・ **本気で心配してくれる大人がいない(男子OR=3.1、女子OR=2.4)**

● 友人(一番親しい友人)との関係

(1) 信頼度

- ・ その友人を信じられるかわからない(男子OR=3.3、女子OR=1.7)。
- ・ その友人をあまり信じられない(男子OR=2.2)
- ・ **その友人をまったく信じられない(男子OR=3.0)**
- ・ **信じられる友人がいない(男子OR=6.0、女子OR=2.1)**

(2) 困ったときの親近感

- ・ 困った時その友人と一緒にいてほしいかわからない(男子OR=2.4、女子OR=2.0)
- ・ 困った時その友人と一緒にいてほしいとあまり思わない(男子OR=2.8)
- ・ 困った時その友人と一緒にいてほしいとまったく思わない(男子OR=2.5)
- ・ **困った時一緒にいてほしいと思う友人はいない(男子OR=7.8、女子OR=2.4)**

(3) 困ったときに話したい程度

- ・ 困った時その友人に話を聞いてほしいかわからない(男子OR=2.5、女子OR=2.0)
- ・ **困った時その友人に話を聞いてほしいとあまり思わない(男子OR=3.8)**
- ・ **困った時その友人に話を聞いてほしいとまったく思わない(男子OR=3.0)**
- ・ **困った時話を聞いてほしいと思う友人はいない(男子OR=7.5、女子OR=2.6)**

● 先生(学校や塾で一番好きな先生)との関係

(1) 信頼度

- ・ その先生を信じられるかわからない(男子OR=2.0、女子OR=2.4)。
- ・ その先生をあまり信じられない(男子OR=1.9、女子OR=2.7)
- ・ **その先生をまったく信じられない(男子OR=3.5、女子OR=3.1)**
- ・ **信じられる先生がいない(男子OR=3.4、女子OR=3.4)**

(2) 困ったときの親近感

- ・ 困った時その先生と一緒にいてほしいかわからない(女子OR=2.5)
- ・ 困った時その先生と一緒にいてほしいとあまり思わない(女子OR=2.1)
- ・ 困った時その先生と一緒にいてほしいとまったく思わない(男子OR=2.5、女子OR=2.6)
- ・ **困った時一緒にいてほしいと思う先生はいない(男子OR=3.0、女子OR=3.9)**

(3) 困ったときに話したい程度

- ・ 困った時その先生に話を聞いてほしいかわからない (女子 OR=2.3)
- ・ 困った時その先生に話を聞いてほしいとあまり思わない (女子 OR=2.1)
- ・ 困った時その先生に話を聞いてほしいとまったく思わない (男子 OR=2.0、女子 OR=2.3)
- ・ **困った時話を聞いてほしいと思う先生はいない (男子 OR=2.7、女子 OR=3.6)**

● **女性保護者（母親を含めた女性保護者）との関係**

(1) 信頼度

- ・ 母親を信じられるかわからない (男子 OR=2.3、女子 OR=1.6)。
- ・ 母親をあまり信じられない (男子 OR=2.1、女子 OR=2.1)
- ・ **母親をまったく信じられない (男子 OR=3.1)**
- ・ **信じられる母親がない (男子 OR=5.1)**

(2) 困ったときの親近感

- ・ 困った時母親と一緒にいてほしいかわからない (男子 OR=2.2、女子 OR=1.8)
- ・ 困った時母親と一緒にいてほしいとあまり思わない (男子 OR=2.7)
- ・ 困った時母親と一緒にいてほしいとまったく思わない (男子 OR=2.8、女子 OR=2.0)
- ・ **一緒にいてほしい母親はいない (男子 OR=4.9、女子 OR=2.2)**

(3) 困ったときに話したい程度

- ・ 困った時母親に話を聞いてほしいかわからない (男子 OR=2.4、女子 OR=1.7)
- ・ 困った時母親に話を聞いてほしいとあまり思わない (男子 OR=2.4、女子 OR=1.7)
- ・ **困った時母親に話を聞いてほしいとまったく思わない (男子 OR=3.3、女子 OR=1.9)**
- ・ **話を聞いてほしい母親はいない (男子 OR=5.2)**

● **男性保護者（父親を含めた男性保護者）との関係**

(1) 信頼度

- ・ 父親を信じられるかわからない (男子 OR=2.3、女子 OR=1.6)。
- ・ 父親をあまり信じられない (男子 OR=2.3、女子 OR=1.8)
- ・ 父親をまったく信じられない (男子 OR=2.7、女子 OR=2.2)
- ・ **信じられる父親がない (男子 OR=3.6)**

(2) 困ったときの親近感

- ・ 困った時父親と一緒にいてほしいかわからない (男子 OR=2.4、女子 OR=1.7)
- ・ 困った時父親と一緒にいてほしいとあまり思わない (男子 OR=2.7)
- ・ 困った時父親と一緒にいてほしいとまったく思わない (男子 OR=2.7、女子 OR=2.5)
- ・ **一緒にいてほしい父親はいない (男子 OR=3.6、女子 OR=1.6)**

(3) 困ったときに話したい程度

- ・ 困った時父親に話を聞いてほしいかわからない (男子 OR=2.8、女子 OR=1.9)
- ・ **困った時父親に話を聞いてほしいとあまり思わない (男子 OR=3.4、女子 OR=1.8)**
- ・ **困った時父親に話を聞いてほしいとまったく思わない (男子 OR=3.3、女子 OR=2.3)**
- ・ **話を聞いてほしい父親はいない (男子 OR=4.4、女子 OR=1.8)**

★以上、高校生の意欲の有無と人間的絆には強い関連が見られ、男子生徒では、友人 > 母親 > 父親 > 先生の順で、女子生徒では、先生 > 母親、父親、友人（先生以外は順番は同程度）で人間的絆の強さが意欲の有無と強く関連していた。また、全般的に、女子生徒よりも男子生徒の方が、意欲の有無に対し現実の人間的絆の欠落の影響が強い可能性が示唆された。

● ネットでの人間関係

- ・ ケータイ登録人数が 50 人以下 (男子 OR=2.3)。
- ・ ケータイで頻繁に連絡する人が 5 人以下 (男子 OR=2.2、女子 OR=2.0)
- ・ **ケータイで連絡する人が 1 人もいない (男子 OR=3.4、女子 OR=15.1)**
- ・ SNS 利用で交流する人が 1 人もいない (女子 OR=1.7)

2. 自己認識他、高校生の環境

● 自己肯定感との関係

- * 「健全群」: 「いいところ」とてもある+少しある、「欠点」少しある+とてもある
- * 「自己卑下群」: 「いいところ」あまりない+まったくない、「欠点」とてもある+少しある
- * 「自己愛群」: 「いいところ」とてもある+少しある、「欠点」まったくない+あまりない
- * 「自己分析不能群」: 「いいところ」まったくない+あまりない、「欠点」まったくない+あまりない

S 問 16 を組み合わせで上記 4 群を定義した。「健全群」を基準として OR を算出。

- ・ 「自己卑下群」いわゆる自己肯定感が低い (男子 OR=2.1、女子 OR=1.8)。
- ・ **「自己分析不能群」欠点も長所も認識できていない (男子 OR=3.9、女子 OR=4.7)**

● 居場所(自分らしく過ごせる場)の有無との関係

- ・ **自分らしく過ごせる場はどこにもない (男子 OR=5.7、女子 OR=5.3)**

● 嬉しかった経験との関係

- ・ 高校になってから、嬉しかったことがときどきあった (男子 OR=1.5、女子 OR=1.8)。
- ・ **高校になってから、嬉しかったことがあまりなかった (男子 OR=3.2、女子 OR=3.0)**
- ・ **高校になってから、嬉しかったことが全くなかった (男子 OR=4.8、女子 OR=7.0)**

3. 他者/社会との関係 (人間力)

● 共感性 (他者への共感性の高い群を基準 OR=1 とした)

- * **共感性尺度 (高校生)**: ①「親しくない人でも、泣いていたらとても気になる」②「しつこくからかわれている人を見ると、からかっている人に対して腹が立つ」③「仲間はずれにされている人を見るとかわいそうになる」など、類似 3 項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」までの 5 段階で点数化し、最低 3 点から最高点 15 点で、生徒の点数の分布を調べた。3~8 点を共感性低い群、9~12 点を共感性普通群、13~15 点を共感性高い群と定義した。
- ・ 「共感性普通群」: 他者への共感性が中等度であること (男子 OR=1.7、女子 OR=1.7)
- ・ **「共感性低い群」: 他者への共感性が低いこと (男子 OR=3.7、女子 OR=2.1)**

● 社会性 (社会性の高い群を基準 OR=1 とした)

- * **社会性尺度 (保護者)**: ①「身の回りの整理整頓はきちんとする」②「約束の時間は必ず守る」など、類似 2 項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」までの 5 段階で点数化し、最低 2 点から最高点 10 点で、保護者の点数の分布を調べた。2~5 点を社会性低い群、6~8 点を社会性中等群、9~10 点を社会性高い群と定義した。
- ・ 「社会性中等群」: 社会性が中等度であること (女子 OR=1.9)
- ・ 「社会性低い群」: 社会性が低いこと (男子 OR=2.4、女子 OR=2.6)

● **規範意識** (規範意識の高い群を基準 OR=1 とした)

* **規範意識尺度 (高校生)** : ①「買い物などの列に並ぶとき途中から割り込むこと」②「遅刻や提出物忘れのとき嘘をついて言い訳すること」など、類似5項目の質問をした。各項目を「自分によくあてはまる」から「自分とは全く違う」、「どうでもいい」を0点として5段階で点数化し、最低0点から最高点25点で、生徒の点数の分布を調べた。0~10点を規範意識低い群、11~20点を規範意識普通群、21~25点を規範意識高い群と定義した。

- ・「規範意識普通群」: 規範意識が中等度であること (女子 OR=1.4)
- ・「規範意識低い群」: 規範意識が低いこと (男子 OR=1.6、女子 OR=2.2)

● **問題対処力** (問題対処力の高い群を基準 OR=1 とした)

* **問題対処力スコア (高校生)** : ①「一度失敗しても次は上手くいくように工夫する」②「困ったときは自分ができることをまずやる」③「困ったときは様々な角度から考える」④「失敗したときに自分のどこが悪かったかを考える」という設問に対し、「とてもあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階の回答に5点から1点までを与え、それを合計して問題対処力として算出した。合計点は4点から20点の範囲であるが、4~11点を問題処理力の弱い群、12~16点を問題処理力の中等度群、17~20点を問題対処力の高い群と分類した。

- ・「問題対処力中等群」: 問題対処力が中等度であること (男子 OR=1.7、女子 OR=1.8)
- ・「問題対処力低い群」: 問題対処力が低いこと (男子 OR=4.9、女子 OR=3.7)

4. 高校生の意欲と保護者との関係

● **子どもに対するしつけ**

* 叱られたり褒められたり同程度であったを基準 OR=1[倍率]とする

- ・ 小学校低学年ころ、保護者から叱られることが多かった (男子 OR=1.9)
- ・ **小学校低学年ころ、保護者から叱られることも褒められることもなかった (男子 OR=3.6)**
- ・ 小学校低学年ころ、先生から叱られることが多かった (男子 OR=2.4、女子 OR=1.6)
- ・ 小学校低学年ころ、先生から叱られることも褒められることもなかった (男子 OR=2.4)
- ・ 高校になってから、保護者から叱られることが多かった (男子 OR=1.9)
- ・ 高校になってから、保護者から叱られることも褒められることもなかった (男子 OR=2.0、女子 OR=1.9)
- ・ 高校になってから、先生から叱られることが多かった (男子 OR=2.3、女子 OR=1.6)
- ・ 高校になってから、先生から叱られることも褒められることもなかった (男子 OR=2.0、女子 OR=1.8)

● **保護者自身の意欲の有無との関係**

- ・ **保護者の意欲がないこと (男性 OR=3.0、女性 OR=2.7)。**
(保護者の意欲がないことと子どもの意欲がないことが関連している)

● 子どもへの態度との関係

(子どもへの下記の態度も子どもの意欲のなさに関連している)

- ・ 子どもの話を聞くのがあまり好きでない (女性 OR=1.7)。
- ・ **子どもの話を聞くのがまったく好きでない (男性 OR=3.5)**
- ・ **子どもと一緒に行動するのはあまり楽しくない (男性 OR=3.4、女性 OR=2.2)**
- ・ **子どもと一緒に行動するのはまったく楽しくしない (女性 OR=5.5)**
- ・ 子どもの良いところではなく、悪いところばかりやや目に付く (女性 OR=2.9)
- ・ **子どもの考えを真剣に理解しようとしているとはあまり思わない (女性 OR=3.3)**
- ・ **子どもは宝だとあまり思わない (男性 OR=4.0、女性 OR=2.1)**

調査結果をふまえた研修会(シンポジウム)

主催者挨拶は、鹿児島県（九州地区）・新潟県（北信越地区）・埼玉県（関東地区）・京都府（近畿地区）で開催された研修会において（社）高等学校PTA連合会会長及び副会長が主催者側として行っているが本報告書には紙数の都合で2例を掲載した。

基調講演は、アンケート調査結果に基づいて上記4地区で開催された研修会において京都大学准教授木原雅子先生が講演した。本報告書には関東地区（埼玉県）で開催された研修会の様子を掲載した。

研修会（シンポジウム）は、（社）全国高等学校PTA連合会において長い間「子育てシンポ」の愛称で各種研修会を開催してきた経緯があり、本事業においてもシンポジウムの形式で研修会が行われた。各地区で行われた研修会全体の様子は開催次第をご覧ください。

平成22年度研修会（シンポジウム）参加者アンケートは、ご協力いただいた方の回収数である。



主催者挨拶

社会教育による地域の教育力強化 プロジェクト事業の取り組み

社団法人全国高等学校
PTA連合会会長

高間 専逸

こんにちは。ただ今紹介いただきました、社団法人全国高等学校PTA連合会会長の高間でございます。

平成22年度文部科学省委託事業に係る研修会「いわゆる子育てシンポジウム」がここ鹿児島で盛大に開催されることに感謝申し上げます。

この委託事業は本会年度事業としては受託しない方針でありましたが、行政側からの要望もあって新たな取り組みを行うこととし、特段のご協力で全国4県で実施されることになりました。心から感謝申し上げます。

全高Pでは、九地区から出ている委員の方々が議論して、方向性を出していただき、アンケート調査を実施し、その結果を京都大学の木原先生にデータを分析していただいているということです。3月には各学校に報告書が届きますので、しっかりご一読いただき、各単Pの皆様方にご報告していただければと思います。

現在は、携帯電話の問題もありますが、子ども達を取り巻く環境がめまぐるしく変わっています。昔のように都会だから、地方だから、ということはなく、インターネットの普及によって同じ

ような危険性をはらんでいます。そのような流れの中で、子ども達のメンタルヘルスなど、いろいろなことが保護者として、今どういう状況なのかしっかり理解しておかないと大変だろうなと思います。

今日のこれから後のシンポジウムの中でご理解いただけるものと思っています。

この社会は私たち大人がつくった社会です。しかし、高校生にとっては、私たちは保護者であり大人であります。その中で子ども達が影響を受けているのであれば、私たち大人がしっかり改善をしていかなければいけないのかなと思います。

全高Pでは、全国、九州、各県、それぞれが地域性をベースに活動をしていただいています。その各活動が全ての全国の力になって、日本の子ども達をしっかり守り、これからの彼らの将来を後押ししてあげられればと思っています。

これからも子ども達の応援団として、しっかりと取り組んでまいりますので、今後とも九州地区、鹿児島県連の皆様方のご支援を賜りますことをお願いいたしまして、私の挨拶といたします。今日はよろしく願いいたします。

全高P連副会長挨拶

(社)全国高等学校P T A
連合会副会長

相 川 順 子



本日は、文部科学省の委託を受けて(社)全国高等学校P T A連合会が実施しております「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」の一環といたしまして、この研修会を開催しております。この研修会に当たりまして、近畿地区の連合会、京都府立高等学校P T A連合会、京都府教育委員会様、京都市教育委員会様、そして、たくさんの皆様方のお力をお借りしましたこと、また、ご多忙の中こんなに大勢のご出席をいただきまし

たこと、誠に有難うございます。

これまでも(社)全国高等学校P T A連合会では、「子育てシンポジウム」という愛称でアンケート調査を行い、研修会を開催してまいりました。今年度は、子どもたちの心の問題に焦点を当てて、全国約4,000組の高校2年生とその保護者を対象としたアンケート調査を実施いたしました。調査結果を京都大学の木原先生に今回も分析していただき、お話をしていただく訳でございます。

今回は、この研修会を受けた皆様がリーダーとなり、単位P T Aでお話をしていただいて、「子どもたちの今」について共に考える場を作っていただきたいと思っております。

この研修会が実り多いことを祈念申し上げて、私のご挨拶とさせていただきます。私も皆さんと一緒に学ばせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

基調講演

—WYSH 教育の視点から—

「子どもたちのメンタルヘルスと意欲」

～高校生の現状と私たち大人にできること～

京都大学大学院医学研究科
准教授

木原雅子



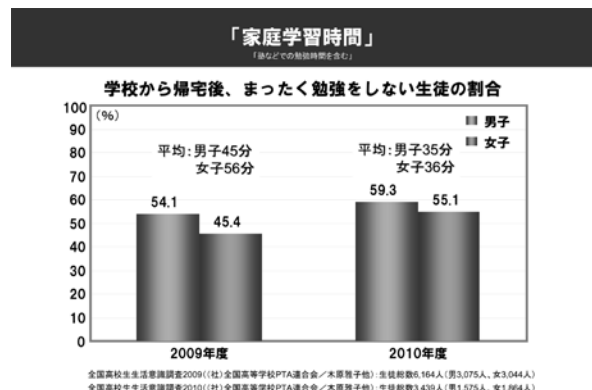
京都大学の木原です。どうぞよろしくお願ひします。本日は、このような大きな研修会にお招きを受けまして、ありがとうございます。今から90分の間、私のお話を聞いていただければと思います。私は、研究者の立場で、いままでに30万人以上の子どもたちにアンケートを行いました。でも、アンケートは分布がわかるだけのものです。その人がなぜそういう考えを持っているのかは、踏み込んでお聞きしないとわからないです。そのためは、面接調査をします。30万人の子どもたちに対するアンケート調査と、それから千人以上の子どもたちに対する面接調査をし、その結果を、今日、その一部を御紹介いたします。

私の研究としての専門ですが、いろいろな指導、あるいは関わり方を考えるときに、まずは相手を正確に知るところから始まります。それをきちんとした調査で行って、そして相手が自分の意思で行動を変えるにはどうしたらよいかというこ

とを開発する、教育の開発をすることが専門です。開発をしてその教育の効果があるかどうかを、測定をするところまで行っています。効果がある教育方法の開発、指導の開発と考えていただければと思います。ですから、健康指導、生徒指導などいろいろなものに使える範囲のことをしていると思います。

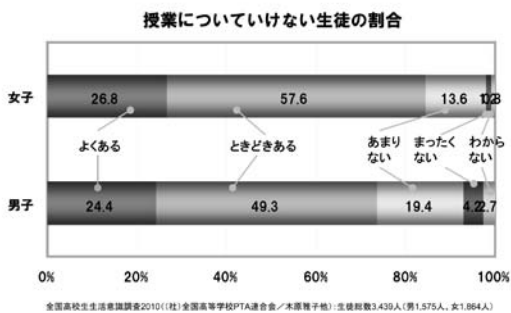
最初に、本年度の全国高等学校PTA連合会の調査結果を皆様方に報告し、それからこういう現状の子どもたちに対して、私たち大人はなにができるのかということをお紹介させていただきます。まず、今年の調査は、生徒の参加数3439人、保護者の参加数は2942人。多くの皆様に御協力をいただきました。御協力をくださいました生徒さんと保護者の方に感謝申し上げます。

それでは、まず、高校生の学習状況がどうなっているのか。学校から帰宅した後、子どもたちはどのくらい家庭学習を行っているか、を尋ねました。塾での学習時間を含めた値です。昨年の調査



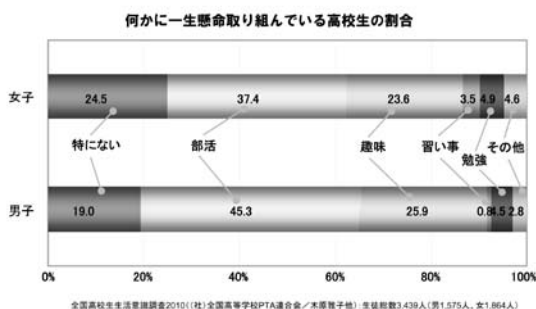
では、まったく勉強していないと答えた生徒が50%前後でした。それが、今年はどうなったかといいますと、さらに多くなりまして60%近くになってしまいました。一方、1日の平均学習時間は去年、男子が45分、女子が56分でしたが、今年は男子35分、女子36分で、これも記録更新をしてしまいました。去年よりさらに勉強しなくなっている状況です。こういう子どもたちは授業についていけないのか。当然ですが、ついていけていません。授業についていけないことがよくある生徒の割合は25%近くになります。つまり4人に1人がついていけていない状況です。ついていけないことが時々あるという生徒さんを加えると、女子は80%を超え90%近くになります。男子も75%ぐらいになっています。昨年は時々を合わせても60%代でした。どんどんついていけないお子さんたちが増えているとお考えください。

「授業についていけない生徒の割合」



子どもたちの意欲についてですが、何かに一生懸命取り組んでいることがあるか、と質問をしました。それに対して「部活」と答えた生徒が40%ぐらい、次が趣味で25%ぐらい。習い事、勉強は5%ぐらいでした。私が一番気になったのは、一生懸命取り組んでいるものが「何もない」と回答した生徒たちが20%から25%。4人に一人から5人に一人もいるのです。これは大人が気にするべ

「一生懸命取り組んでいることがありますか？」

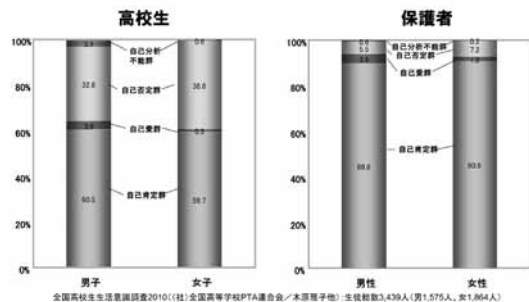


き割合ではないかと思います。

それでは自分と他者、社会に対する態度です。高校生と保護者を比較してみたいと思います。まず、「自己肯定感」。いろいろな尺度があると思いますが、今回は私の作った尺度でしてみました。自己肯定群、自己愛群、自己否定群、自己分析不能群に分けてみました。自己肯定群は健全に自己を認めている群です。ある程度自分の欠点分かっているが、自分の良い点も十分分かっているという群です。

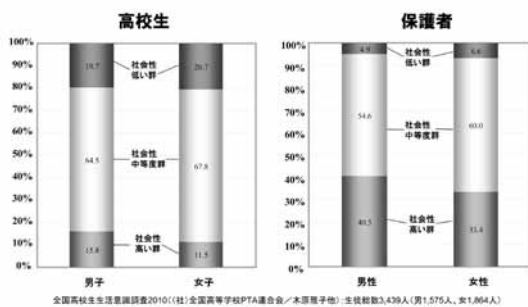
それに対して、自分には悪い欠点は全くない、いいところがたくさんあると思っている、自己愛群、ナルシスト群もいます。自己否定群。これは自分には悪いことだらけ、いいところは全くないと思っている人たち。自己分析不能群は、自分のいいところも悪いところもわからない、自分のことが全然わからないと思っている子どもたちです。高校生の結果を保護者と比べてみました。保護者では健全な自己肯定感を持っている方がたくさんいらっしゃいます。90%近くの方が自己肯定群でした。それに対して、子どもたちは60%程度です。子どもたちはかなり自己肯定感が低いと思います。これは、世代の差なのか、あるいは思春期特有の現象で、自分に対する自信を失っている状況になっているからかもしれません。単なる大人への移行期だから、こういう結果かもしれない、と解釈できるかもしれません。ひとつ気になったのが、自己愛群です。自分は欠点がない、完璧だと思っている人たちが、なぜか、大人も子どももですが、男性に多い傾向です。一方、自分のことを認めていない、自分のいいところが見つけられていない群、高校生には30%から40%います。大人の方はほとんどいらっしゃいません。これも前述のように思春期の特徴のひとつかもしれない。

「自己肯定感」(高校生と保護者の比較)



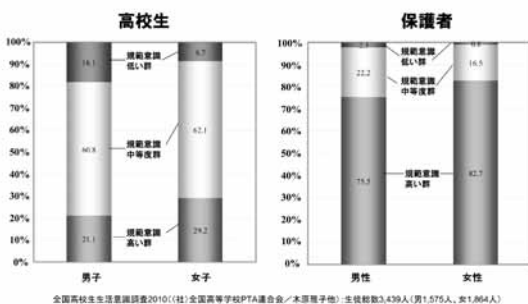
次に、社会性です。いくつか質問をしました。たとえば、規則を守るかなどで複数の社会性に関連した質問をしました。社会性の高い群を子どもたちと保護者と比べてみました。社会性が高い群は、保護者では30%から40%に達しますが、子どもたちでは10%から15%にとどまっています。社会性は子どもたちの方が低い。もしかしたら、高校生で、まだ社会に出ていないため、今の段階では社会性が低いという結果なのかもしれません。

「社会性」（高校生と保護者の比較）



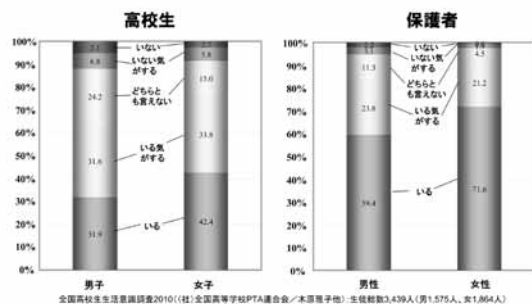
次に「規範意識」。たとえば、列があってその列に割り込むことをどう思うか、嘘をつくことをどう思うか、などいろいろな質問に対する規範意識を聞き、その合計点を調べました。規範意識の高い群の高校生は20%から30%で、それに対して保護者は非常に高く80%前後あるいはそれ以上です。ここで思ったのは、先程のように、自己肯定感は今も過渡期のため、もしかしたら、高校生が低い可能性はあると思いますが、規範意識は、高校生でも、それなりに高くてもいいのではないかと思います。これだけ保護者の方が高い規範意識を持ちながら、もしこれが親から子へと伝わっていれば、もう少し高校生の規範意識が高くなっていいのではないかという気がしました。親子の会話の中に、なにか伝わり足りないものがあるのではないかという気がします。

「規範意識」（高校生と保護者の比較）



次に、本気で心配してくれる人の存在です。「あなたのことを心から心配してくれる人があなたのまわりにいますか」という質問に対して、「いる」、「いるような気がする」、「どっちともいえない」、「いないような気がする」、「いない」と答えてもらいます。保護者ではいると答えた人が多いのに、高校生では低い、悲しい結果だと思われませんか。高校生では、保護者がいても、本気で心配してもらっているという実感が持てないのはい体なぜか。疑問です。

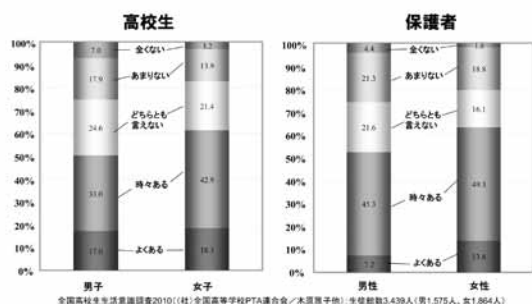
「本気で心配してくれる人の存在」（高校生と保護者の比較）



最近の親子関係では、一見とても仲がいい。昔よりも仲がいいように見えるのに、本当に子どもたちとの心がつながっているのでしょうか。規範意識や生きる術など子どもにとって耳が痛い言葉までが伝えられているのかと疑問を感じました。激しく変化を遂げる現代社会で生きていくための子育てが出来ているのかどうかと感じました。

周囲に合わせた作り笑いの頻度。自分がおかしいのに、周りの人に合わせて作り笑いをしますか、という質問に対して、「よくある」と答えた高校生は20%近く。それに対して保護者は10%ぐらいいきません。子どもたちの方がかなり友だちに気を使い、ストレスの多い状況だとお考えください。

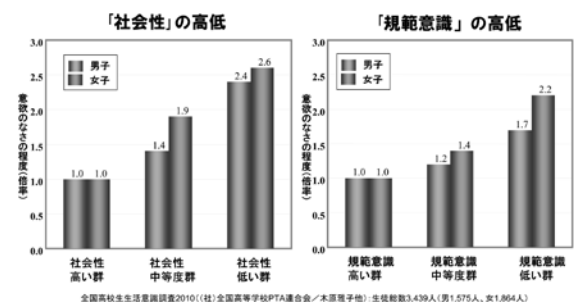
「周囲にあわせて作り笑いの頻度」（高校生と保護者の比較）



それでは高校生の意欲のなさの背景と関連する要因についてお話しします。他者、社会への態度との関係を見てみます。

まず社会性が高いか低いか。社会性の高い群は一番意欲がありました。そして、社会性が低くなっていくとどうなるか。社会性が低くなると、一番低い群では、高い群に比べ2倍から3倍近く意欲がない生徒の割合が多い。規範意識が高い群が、一番意欲があります。規範意識が低い群では、2倍近く意欲のない人の割合が増えています。

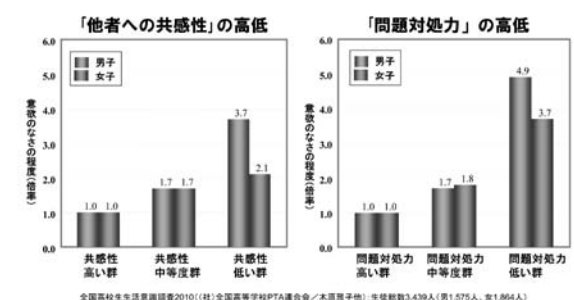
高校生における「社会性」や「規範意識」の程度と「意欲のなさ」の関係



次に「他の人に共感する意識」です。たとえば、「あなたの知らない人が目の前で泣いています。それに対してどう思いますか」と質問します。それに対して、「知らない人だけれどとっても心配になる」から「まったく気にならない」までの5段階で評価します。そういった質問を5つぐらいして、合計点をつけます。共感性の高い群は一番意欲があります。共感性が低くなると、高い群に比べ2倍から4倍近く意欲がない人の割合が多くなります。

何か問題にぶつかって、いろいろな対処の仕方がありますが、例えば、困難にぶつかったとします。それに対して自分のやり方が悪かったのか、外的な条件で悪かったのかもしれない、あるいは考えても仕方がないことなのか、いろいろな対処

高校生における「他者への共感性」や「問題対処力」の程度と「意欲のなさ」の関係

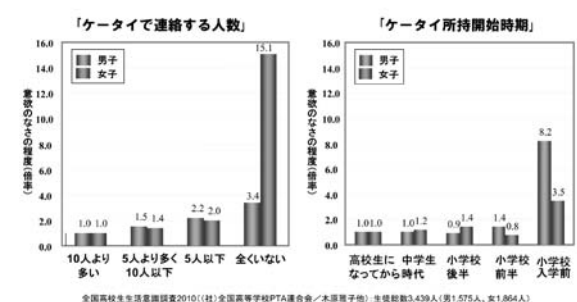


方法がある。いろいろな問題の対処の選択肢をたくさん持っている人たちを「問題対処力」の高い群としました。この人たちが一番意欲を持っています。その「問題対処力」の低い群では4倍から5倍も「意欲のない人」が多い。問題対処力は意欲と大きく関係しています。

人間関係ですが、二通りあります。直接的な人間関係とケータイという道具をとおしての人間関係です。

まずは、ケータイをとおしての人間関係です。ケータイの使用状況ですが、1日のケータイの使用時間は、男子は3.3時間。女子4.5時間。先程の学習時間を思い出してください。いかに子どもたちがケータイに偏っているかがわかります。これは去年よりも増加しており、昨年、男子2.8時間、女子4.2時間でしたから、さらにケータイ使用時間は長くなっています。

「ケータイ使用状況」と「意欲のなさ」の関係



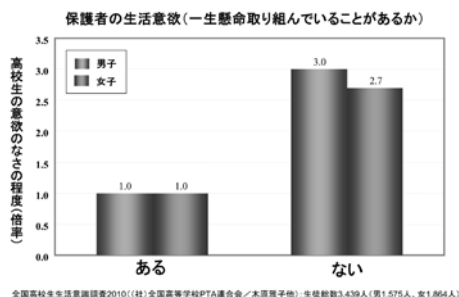
ケータイの依存度を調べました。どんな調べ方をしたかと言いますと、質問は「あなたは外出しました。着いたらケータイを持ってきていないことに気がきました。あなたはどんな気持ちになりますか」。それに対して、どうしたらよいかわからなくてパニックになってしまう人、不便だという気持ちの人、とっても孤独になったと思う人、せいせいしたと思う人、なんとも思わない人もいます。精神的な依存群、物質的な依存群(不便だと思ふ人の群)、なんとも思わない人、その他に分類しました。これを見ますと、女子の方は依存群が高い。精神的にも物質的にも依存している状況です。

「ケータイ使用状況」と「意欲のなさ」との関係ですが、たとえば、ケータイで連絡する人数の10人を1とするとその人数が減るとなると「意欲のない人」が2倍ぐらい増えます。しかし、ケ

ータイでたくさん連絡をとってあげれば意欲のある人であるかということ、ケータイの時間が長いほど意欲のない人が増えています。さらにケータイを小学校入学前から持っていた子どもたちは高校で購入した人に比べると4倍から8倍ぐらい意欲のない人たちが多くいます。連絡人数の少なさと、意欲のなさとの関係は、前述の他のケータイ使用状況との関係を踏まえると、ケータイを使用した人間関係の重要性を示しているのではなく、全く人との繋がりが無い状況と意欲のなさとの関連があるということを示している可能性があると思われます。

今度は、現実の人間関係について説明をします。保護者自身の態度です。親はどのくらい影響をしているのか。「保護者の人にも一生懸命取り組んでいることがありますか」と質問しました。一生懸命取り組んでいることがあると答えた保護者の子どもを1とします。一生懸命取り組んでいることがないと答えた保護者の子どもたちが3倍ぐらい意欲のない割合が増えます。保護者の意欲のあり・なしと子どもの意欲のあり・なしは関連していることが示されました。

「保護者の生活意欲」と「高校生の意欲のなさ」の関係



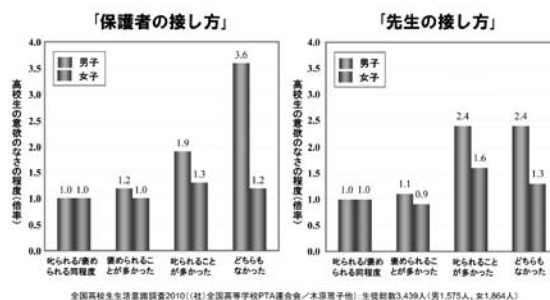
次に、大人と子どもの接し方です。叱ったり、褒めたり、いろいろな接し方をしますが、叱ること、褒めることのバランスを見たいと思います。まず小学校の低学年の時です。保護者の接し方と先生の接し方。高校生になってから一番意欲のある群は、保護者の接し方も先生の接し方も叱られることとほめられることが同じぐらいです。バランス良くなっています。叱られるだけでも、褒められるだけでもない。保護者の接し方の中で、一番意欲のない群につながるのが「どっちもなかった」、叱られることも、褒められることも、どっちもなかった。つまり、大人からの無視（全然気持ちを向けてくれなかった）です。叱ることもな

いし、褒めることもない。このような状況が子どもたちにとっては一番意欲を失う状況となっていることが示されました。

先生の接し方。先生が、「叱っているばかりで、褒めることがなかった」「叱ることも褒めることもなかった」が同じくらい意欲低下と関連しています。

小学校の低学年のときは、先生よりも保護者の影響が大きく出るという調査結果でした。

「小学生時代の大人の接し方」と「高校生の意欲のなさ」の関係

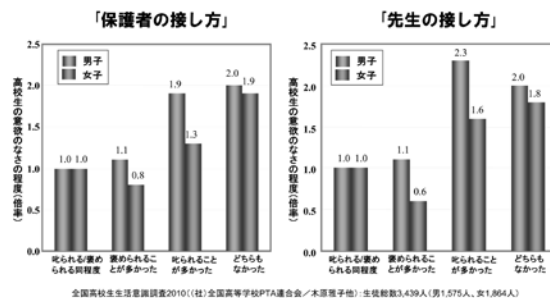


次は高校生になってから。高校生になってからの大人の接し方です。叱られることと褒められることが同程度。この群が一番意欲がある群です。

そして保護者との接し方。先程と同じように、まったく関心を示さない保護者の子どもは、意欲が2倍ぐらいない割合が増えます。

先生の接し方で、叱るばかりでは2倍以上、どっちもないが2倍ぐらい。保護者の影響よりも先生の影響がやや強いようです。

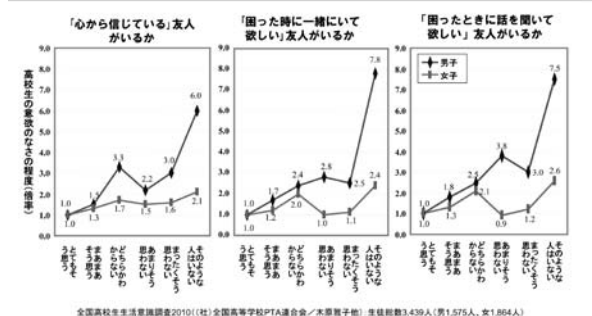
「高校生時代の大人の接し方」と「高校生の意欲のなさ」の関係



それでは、今度は「周囲の人との人間関係」。様々な人間関係があります。まず「友人との人間関係」です。この質問は、「あなたの一番親しい友人を頭に描いてください。その友人を心から信じていますか」「なにかあなたに困ったことが起きたとき、その友人と一緒にいて欲しいと思いませんか」あるいは「困ったときに話を聞いてほしい

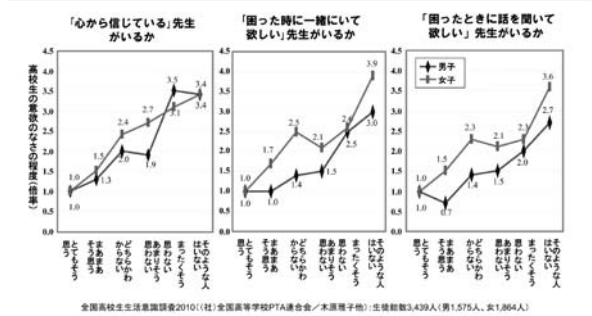
ですか」という質問です。「心から信じている」と「とってもそう思う」を1とすると、「その人のことをまったく信じていない」あるいは「そんな人はいない」、「困った時に一緒にいてほしい人はいない」、「困ったときに話を聞いてほしい人はいない」状況では意欲を失っている子どもが多い。特に男子にその傾向が強い。6倍から8倍多くなります。友だちの存在が大きいことを示しています。

「友人との人間関係」と「高校生の意欲のなさ」の関係



「先生との人間関係」と「高校生の意欲のなさ」の関係。質問は「あなたの学校の中で、あなたの一番好きな先生を思い浮かべてください。その先生のことを心から信じられますか。その先生に困った時に一緒にいてほしいですか。その先生に困ったときに話を聞いてほしいですか」です。それに対してどうなっているか。先程と違い、女子の方が先生に対する依存度が高く、サポートしてほしいという思いが強いようです。

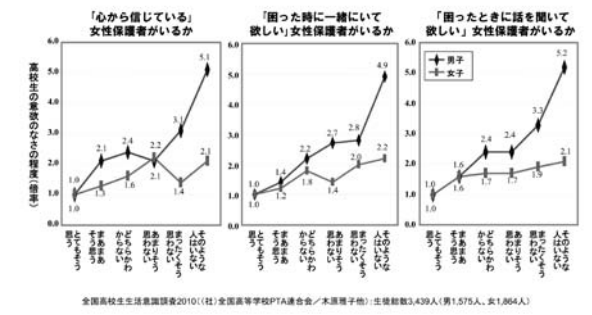
「先生との人間関係」と「高校生の意欲のなさ」の関係



今度はお母さん。「女性保護者を心から信じているか」、「困った時に一緒にいてほしいですか」、「困ったときに話をきいてほしいですか」という質問です。私はびっくりしたのですが、男子生徒はお母さんがものを尋ねると「うるさいな」とか「うざいな」とか言って口をきかないですが、実はものすごく必要としている。態度と裏腹

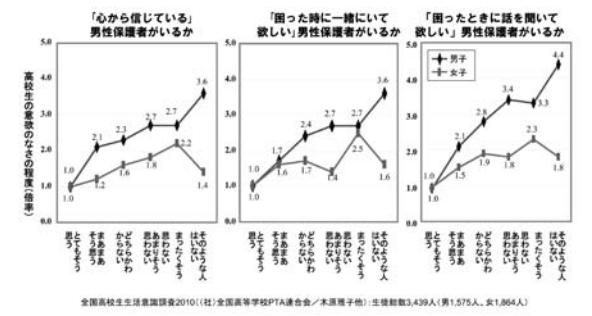
ですね。高校生だけでなく、もしかしたら大人も同じかもしれないと思いました。女子の方がお母さんにいろいろ相談してくるので、サポートしてほしいという意思表示をしますが、近づいてこない男子の方が、数値としては非常に大きなサポートを必要としています。5倍です。

「女性保護者との人間関係」と「高校生の意欲のなさ」の関係



次にお父さん。お父さんも男子は求めています。女子は、お父さんを信頼しています。若干本音がでていたと思ったのは、「困ったときにいてほしいですか」は「あまりそうは思わない」。信頼はしていますが、いっしょにいなくてもいいかなという気持ちで、私もわかるような気がします。思春期女子特有の距離感の持ち方ですので、嫌がっているわけでも、信じていないわけでもありません。でも少し距離は欲しいという感じでしょうか。でも男子生徒はすぐお父さんのことを心の底では思っています。男子生徒の複雑さです。男性の複雑さを発見しました。男子生徒が意欲を起こす時に必要なものが、特に、人のサポートです。その順番としては、友達が1番で、お母さん、お父さん、先生の順です。女子生徒の方は、先生が1番で、お母さん、お父さん、友達の順でした。

「男性保護者との人間関係」と「高校生の意欲のなさ」の関係

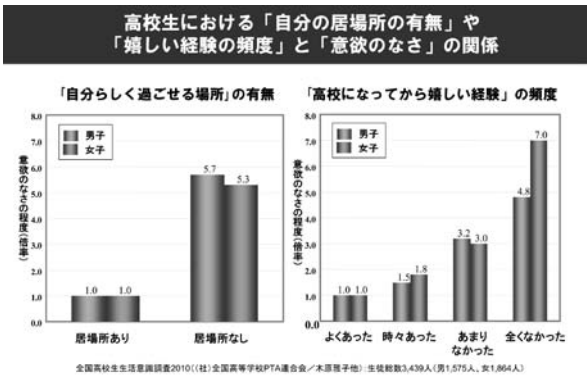


次に、受容について、自分を受け入れることですが、これには3種類あると思います。「ありの

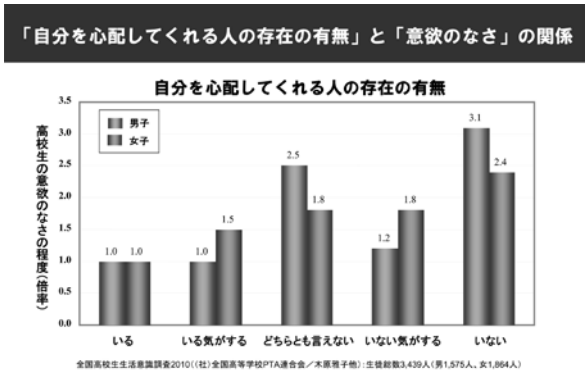
ままの自分を自分で受け入れる」、「ありのままの自分で過ごせる居場所がある」、そして「ありのままの自分を受け入れてくれる他者がいる」です。一番やる気に関係するところかと思えます。

「自己肯定感」。自分には悪いところもあるけれどよいところもあって、自分が好きですと自分で自分を受け入れられている人たちを1とします。それが、受け入れられていないと、意欲のない生徒の割合が増加し、特に自分で自分のことを分らないという自己分析不能群の人たちでは4倍から5倍くらい意欲のない人たちが増えています。

次に自分の「居場所のなさ」です。自分の居場所のある人たちに比べて、居場所のない人たちが6倍くらい意欲がないです。



自分を心配してくれる、ありのままの自分を受け入れてくれる人の存在ですが、「いる」と断言できる生徒を1とすると、そうでないと意欲がなくなる割合が増えていきます。これは数値での割合です。自分で自分のことを受け入れることが土台ですが、そのためには人からも受け入れられることが必要ですし、自分らしく過ごす居場所も必要です。

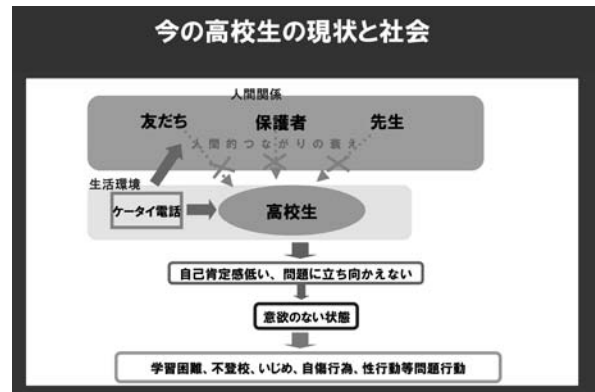


アンケートの最後に「今、あなたにとって一番つらいことは何ですか」と質問をしました。私は、「ゆっくり遊べないこと」とか「欲しいもの

が手に入らないこと」などの回答が多く出てくるかと思いましたが、なんと子どもたちにとって一番つらいことが「勉強」と関連している内容でした。正直とても疑問を感じました。さきほどの学習時間の結果を思い出してください。たったの35分です。去年までは、この短い学習時間を見て、お気楽な生活だと思いましたが、実は今年、これを自由記載で書いてもらいました。子どもたちは勉強したくないわけではない。勉強したいのに勉強してみても成績が伸びなかったりして、苦しんでいます。勉強のやり方が分からない、ついていけない、どこから手をつけていいのかわからない。などの苦しさがあげられていました。とくに多かった生徒の言葉を紹介します。

あなたにとって一番つらいことは、
・成績を上げようと頑張っても、逆に大幅に下がること、目標がないのに勉強すること等々。(以下、略)

調査結果から子どもたちの様子をまとめてみます。



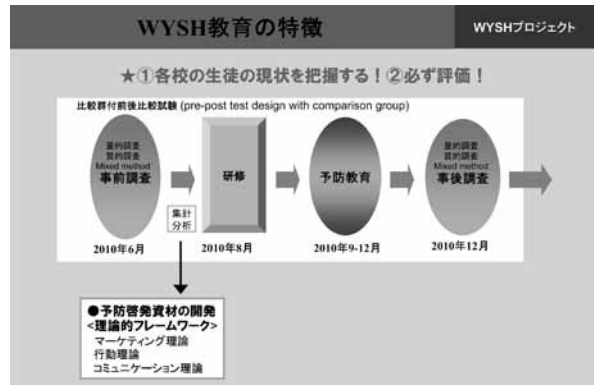
高校生がいます。人間関係について。バーチャルな通信手段の出現、特にケータイ。ケータイが登場して、人間関係が大きく変化しました。どのように変化したか。たとえば親も知らない人と簡単に交友関係が結べます。顔も知らない、性別もわからない、年齢もわからない、居住地も知らない人と交流できます。今回の調査結果で、コミュニティサイト、SNSですが、そのいろいろなサイトを使って交流している人たちの平均人数は男子が85人、女子が32人です。このようにパソコンやケータイを使って、広くて浅い踏み込まない人間関係を子どもたちは作っています。

ある大学生が言っていたことですが、一人で昼ご飯を食べることはすごく恥ずかしい。その理由

は自分が友だちもいないつまらない人間だとレッテルを貼られることを恐れています。人目を気にして、一人でいることは恥ずかしいという気持ちですね。思春期では、一人で自己を見つめる時間が必要だと思います。そうして自我を確立します。そういった自我の確立ができないような状況に今の子どもたちがいます。とりあえずだれかと友だちのように見えないと恥ずかしい、周囲に合わせて作り笑いをしている背景だと思います。ですからストレスの多い人間関係の中に子どもたちはいます。一見お気楽に暮らしているように見えますが、本当は苦しいものがいっぱいあるようです。グループインタビューのときに、一人の子が発言すると、あとの子どもたちが、全然可笑しくないので、手を叩いて笑うのです。それくらい合わせ笑いをします。可笑しくないので手をたたき、おかしく見えるようにする。一種のパフォーマンスのように見えます。そういった不自然な人間関係の中に子どもたちはいます。現実の人間関係はどうかというと、先程言いましたように、人に揉まれていません。インタビューで話していても、どうしてこのようなことを信じてしまうのだろうと、まるで幼児のように信じやすいです。友だちには関心がありますが、それ以外の人には関心を示しません。子どもたちが言っていた言葉で印象的であったのは、「友達以外は風景」。ですから私も風景。保護者の方や先生方も風景。ですから子どもたちにとって意識しなくてはならないものは友達です。友だちの前では、手をたたいてみたり、それなりのことはすると思います。電車の中での化粧。その人にとってその空間に友だちがいなければ関係ないので。みんな風景。さらに、人と折り合いが付けられない。ですから自立した能動的なコミュニケーションはとても苦手です。相手との踏み込んだ関係が作れないでいます。それは大人の側の接し方の中にも関係が作られていないのかと疑問を感じました。その結果、子どもたちは自己肯定感が低く、問題に対処できない。はけ口をそのまま他者に向ける。そして意欲のない状態になっているように思います。さらには、勉強についていけない、不登校、いじめ、自傷行為、性行動等々、いろいろな問題につながっているかと思っています。ここまでが高校生の現状

の御報告でした。

ここからは、この現状に対してどのような取り組みがあるか、どのような接し方があるか、一つの例を紹介していきます。今から、WYSH教育の説明をさせていただきます。私が開発した教育で、子どもたちの幸せを願うプロジェクト。日本国内だけでなく、海外でも行っていますので英語を使っています。

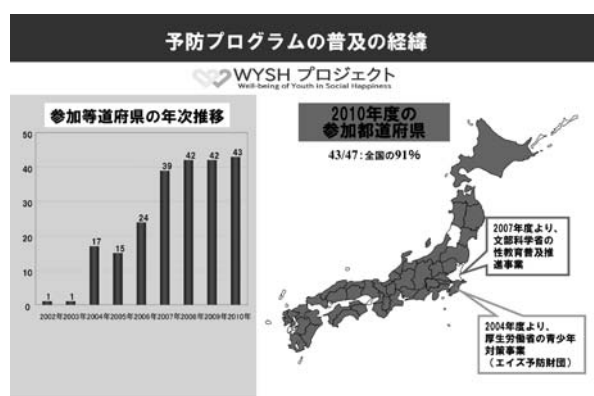


特徴は何かと言いますと、もともとこの教育を作ろうとしたのは一人の母親の思いです。でも一人の母親の思いだけでは教育は作れませんので、研究者として子どもたちの現状を知るためにいろいろな調査をしました。その結果を踏まえ、科学的な理論に基づいてどのような取り組みがよいか、そして実際に教育をやってみて、効果のあったものを紹介したいと思います。

WYSH予防教育の効果評価概要 (2005年度のみ)

評価項目	対象	高校生 2002(7,895人) 2003(8,026人) 2004(6,422人) 2005(6,166人)	中学生 2003(7,899人) 2004(12,615人) 2005(13,052人)
知識 (knowledge) (性感染症・HIV関連情報・地域の中絶状況)		↑↑↑↑	↑↑↑↑
意識① (attitude) (性感染症に自分も感染するリスク認知)		↑	↑↑
意識② (attitude) (性意識: 中高生の性関係への肯定的態度)		↓ 「あまりない」と思う生徒の減少	↓ 「あまりない」と思う生徒の減少
意識③ (attitude) (性意識: 中高生の性関係への否定的態度)		↑ 「よくない」と思う生徒の増加	↑ 「よくない」と思う生徒の増加
行動② (behavior) (性経験率の変化)		→ 性行動は減らなかった	→ 性行動は減らなかった

★評価方法: 比較群付前後比較試験 (pre-post design with comparison group)



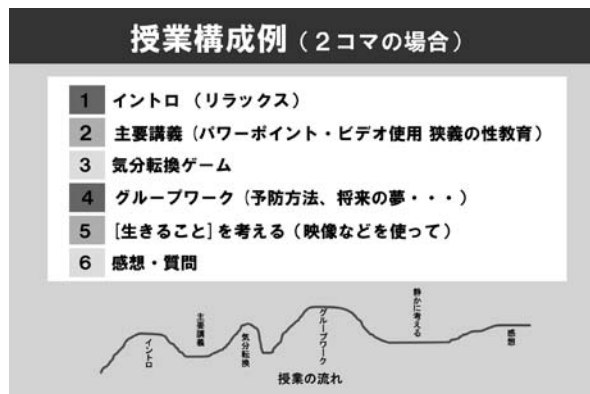
WYSH教育の背景にあるものは、大人の熱いハートとサイエンスとを融合させたものとお考えください。この教育は、最初、1つの県の2つの学校で始まりました。2004年からは厚労省の青少年対策事業になりまして、2007年からは文科省の国家事業になりました。今年43の都道府県で行われています。

この教育のゴールを申し上げます。今、社会にいろいろな問題がありますので、狭いゴールとしては、社会のいろいろな問題から子どもを守ること。そして将来、全ての子どもたち、いろいろな状況の子どもたち。親から捨てられた子ども、虐待を受けている子どももいますし、親はしっかりしているのに苦しい方向に向かっている子どももいます。どのような状況にいてもすべての子どもが自分の良さに気付いて、幸せになってほしいというのがこの教育の最終ゴールです。そのために何をしているのかと言いますと、4つの段階に分けた取組みをしています。まず、子どもが自分で自分を受け入れられる。いいことに気付いて役割があって居場所があること。2番目は、子どもが他の人から受け入れられていること。ここで信頼できる大人が支援しなくてはいけないですが、良いところも悪いところも含めて、丸ごと受け入れてくれる大人が必要です。3番目、最近よく見かけるのが迎合している大人が多いと思います。迎合と理解は別物です。社会の危険と社会のいろいろなルールをきちんと伝えなくてはなりません。4番目、人間力です。これは、自分で考えて、友だちと話し合っ、自分で決めることができるような子どもを育てるという形で、その取組み(授業)展開をしています。今から、その授業の様子を皆様方にお見せしたいと思います。まず、最初は、相手の気持ちが全然わからず、子どもた

ちは悪気はないのに、きつい言葉をなげかけたり、ひどい態度をとったりして、それで傷つけられて学校に行けない子どもたちも出てきます。ある学校の先生から依頼があってこの授業をいたしました。その学校では、いじめが学校の生徒さんたちの70%ぐらいにありました。それで私がその学校に招かれて授業をして、「言葉の重さ」という授業をしました。その時の授業の様子を見ていただきたいと思います。

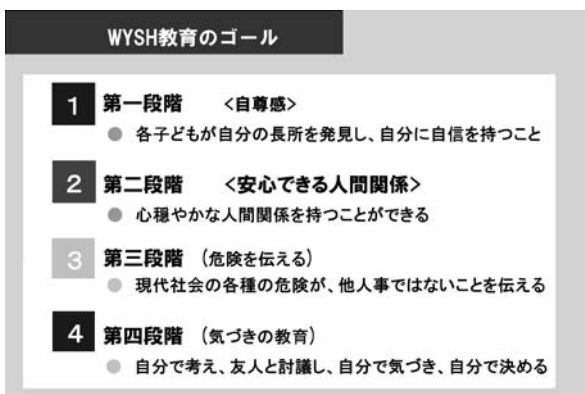
[ビデオ放映]

授業はたった2コマでしたが、この学校のいじめの割合は、大きく下がりました。ですから、子どもたちはからかって遊んでいたつもりでやっていたことが相手を大きく傷つけていたことに気づいたら、大部分のいじめが消えました。まだ全部が消えてはいませんので、根の深い部分へ伝えるには時間がかかります。



今度は事例の2です。

今の子どもたち、高校生を見ていますと、生きている実感がとても薄い気がします。なんとなく、その日、楽しく暮らしているような感じがします。毎日を命の限り丁寧に生きてほしいというメッセージを伝えたくて、「命の授業」をしました。この最後のメッセージの時のシーンだけをお見せしますが、この前に妊娠、出産のお話をして、子どもがどんなふうにして大きくなるのか、そして子育てシュミレーションをして、子どもたちに子育てをすることがどれほど大変なのかをシュミレーションしてもらい、最後に「生きる」、「命」ということを考えてもらうためにビデオを作成しました。よく命の大切さを伝えるために、誕生の喜びを伝える写真を使う方が多いのですが、私も誕生の喜びの写真を使いました。と同時に、人には死というものがある、命に限りがあ



る。だから今日の1分、1秒を大切に生きなくてはいけないことを感じてもらいたいと思い、死にゆく人々という写真集を探しました。海外にはホスピスの写真集があったのですが、日本では見つけられませんでした。結局、このビデオを作るのに、この授業をする直前に、父が亡くなりましたので、父の写真を使っています。ですから、大正生まれの男性とは私の父です。では、「命の大切さ」「命のつながり」という授業しているときの子どもたちの様子を見てください。

[ビデオ放映]

ありがとうございます。私は色々な学校にお招きいただきますが、外部の人間ですので、たった1回しかチャンスはありません。その中で、こちらが伝えたいことを精一杯伝える、そして授業に取り組む。このように保護者の方に授業の内容をお見せしてお役に立てることがあるのかわかりません。もしも、その中に、なにか御家庭で接するときのヒントがあったり、もしかして皆様方の子どもさんの学校でこの教育が広がったりしていけば、何かにつながれば嬉しいと思ってお見せしました。

事例の3を紹介いたします。

これは去年うかがった学校です。先程、私が長く紹介しましたように、意欲が本当でない状況の生徒さんたちがたくさんいる学校でした。校長先生が、とにかくうちの子たちは意欲がないのでどうにかありませんか、ということでお招きをいただきました。いつも、私、授業にうかがう前に、その学校にうかがって、生徒さん達に面接をするのですが、その生徒さんたちはとってもいいお子さん達ですが、「将来の夢は？」と尋ねたら「わかんねー。」と言われてしまいました。わからないと言われても困ってしまうので、「なにかない？」と尋ねると「いやーちょっと」「ないっすね。」と言う返答で困りましたが、高校1年生で、これからあと2年間学ばなければいけないのに、「ないっすね」と言われても困りました。他の先生とお話をしまして、「この学校の生徒さん、夢が少ないですね。」と言うと、「それが現実なのです。」と言われてました。その学校の生徒さん達はかなりの割合で就職をしています。その学校の求人が徐々に減っていき、去年は0になっ

ていました。求人が0の状況の中で、私が「夢は？」と聞いても、「ないっすね」と答えるのは当たり前だと思いました。普通は、よく子どもたちが元気になるために、あるいは意欲が湧くために、「将来の夢」という授業をするのですが、ここではできないと思いました。きれいごとすぎる授業は、絵に描いた餅ですから、子どもたちに何の影響もないです。そのような授業はしたくないと思い、すごく考えました。それで、自分達になにかの役割、居場所、あるいは目標が見つかったら、走り始めるかもしれないと思いました。すごくいい子たちでしたから。見かけは派手目という感じはありましたが、見かけはどうでもいいのです。目標を見つけてもらいたいと思って考えたのが、「守る」という授業です。人って守る存在がいるとき、強くなれると思います。女性は、普通にしていると、そんなに強く見えませんが、子どもができるととっても強くなれます。子どものためにと思って頑張れますよね。そういった授業で、「守る」という授業をしました。一コマ目は、体を守るということで、性教育の授業をして、二コマ目は、大切なものを守るという授業をして、その中で子どもたちに、今、自分自身に対しても自信を失っているけれど、あなたたちには守るものがある、優しさがあり、いいところがあるじゃないということに気づいてもらいたかったのです。授業をしている時の様子を見てください。私の一番大好きな学校です。

[ビデオ放映]

この授業の中で、自分の子どもがいじめを受けた時にどうするかというグループワークをしましたが、子どもたちがいろいろな思いを書いてくれたのですが、それは単なる思いつきではなく、実はこのクラスの中には都会でいじめにあって小学校の時から学校に通えなくなって、山村留学でここに一人で暮らしている子がいます。それで、その子のグループがいろいろな意見を出してくれました。単なる思いというよりも、やってほしかったことがたくさん書かれていました。この子どもたちの中には、お母さんから捨てられ、お父さんからも捨てられ、一人暮らししている男子生徒もいました。生活費を自分で稼ぐ。人生は暗いことばかりではないと思うと感想文を書いてくれた男

子生徒。ここはアジア系の外国人がたくさん住んでいるところですが、見た目にはわからないのですが、差別が激しく、親も差別されて、自分も差別されて、何回か自殺未遂している男子もいます。その子が、暗いことばかりではないと思う、と書いてくれました。この授業の後、このクラスの子どもたちの自己肯定感が大きく上がりました。でも、急に人って変わりません。いじめられている、差別されている男の子は、またつい最近も周りの子からいじめを受けていました。私に手紙がきましたが、僕は元気です。学校を続けています、先生も授業続けてください。という内容でした。とても嬉しかったです。そんな微力のことしかできないのですが、ちょっとでも役に立てばと思っています。それでは最後にまとめさせていただきます。

最後に

一見、社会は便利で暮らしやすくなった。
しかし、その半面、子どもたちを取り巻く人間環境破壊が深刻になっている。
我々にできることは何か？
大人の本気の関わりは、子どもに必ず伝わる。
子どもの未来は、われわれ大人のやる気にかかっている。

もしなければ何も変わらない。参加者のみなさん一人ひとりができる
ことから始めてください。
各地域/各家庭の子どもたち全員に本当の笑顔があふれることを願っています。

MASAKO KUBOTA 2010

子どもを取り巻く人間環境破壊が進んでいます。そして自然環境破壊と同じように私たちは何かをしなくてはいけないと思います。自然環境破壊の時は、CO2を測定したり、その様子のある程度数値で見ることができますが、子どもたちの周りの人間環境破壊は見えにくいですが、それを一生懸命数値にしましたが、自然環境破壊と異なり、見えにくいですが、それでも子どもたちを人間環境破壊から守りたいと思います。どうしたらよいのか。できることは何か。もちろん、一人だけでは守れない。保護者の方がお一人で頑張っても難しいかもしれない。でも、たくさんの大人が手を繋ぎあったらできるかもしれないと思うのです。大人たちが本気になったとき、子どもたちは絶対に変ります。ですから今日お集まりのこの会場の皆様、子どもを支える大人同士手を繋いでいただければ嬉しいと思います。そして一人では小さな力であっても、手を繋いで、手を繋いだ大人として、子どもの人間環境を作りなおすことができればと思っています。よければ、私も子どもを守るネットワークづくりをしておりますので是非ご参加ください。そして、どの地域の、どの学校の子どもたちもこんな本当の笑顔で過ごせることを願っています。以上でお話を終わります。御清聴ありがとうございました。

研修会開催地区報告

九州地区（鹿児島県）

子どもたちに「生きる力」を育む家庭・地域・学校の役割 ～「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を培う支援のあり方～

<日 時> 平成22年11月12日（金）13：00～16：40

<会 場> 鹿児島サンロイヤルホテル

<主 催> 社団法人全国高等学校PTA連合会

<主 管> 九州地区高等学校PTA連合会
鹿児島県PTA連合会

<後 援> 鹿児島県教育委員会
鹿児島県連合校長協会
財団法人鹿児島県教育安全振興会

<日 程>

開会式

あいさつ (社)全国高等学校PTA連合会会長 高間 専逸
九州地区高等学校PTA連合会会長 北川 武一
来賓祝辞 鹿児島県教育委員会教育長 原田 耕藏氏

基調講演

演 題 「子どもたちの『生きる力』は十分でしょうか？」
～子どものメンタルヘルスの現状と私たち大人にできること～
—WYSH教育の視点から—
講 師 京都大学大学院医学研究科准教授 木原 雅子

パネルディスカッション

テーマ 子どもたちに「生きる力」を育む家庭・地域・学校の役割
～「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を培う支援のあり方～
コーディネーター
京都大学大学院医学研究科准教授 木原 雅子氏

パネリスト

鹿児島県立伊佐農林高等学校PTA会長 谷下 政一氏
鹿児島県立指宿養護学校長 富山 裕子氏
鹿児島県立甲南高等学校PTA3学年委員長 中村 律子氏
前鹿児島県立鹿児島西高等学校長 森山 武志氏

閉会式

あいさつ 鹿児島県PTA連合会会長 遠矢 仁司

主管地区あいさつ

九州地区高等学校
PTA連合会会長

北川 武 一

皆さんこんにちは。九州地区高等学校PTA連合会会長の北川です。今、全国高等学校PTA連合会の高間会長から趣旨説明、いろいろな内容の説明がありました。九州地区PTA連合の鹿児島の方々が、これだけ、盛大にセッティングしていただきました。これだけの会場でシンポジウ

ムがなされることに感謝申し上げます。

今日は最後まで、参加していただき、基調講演等の内容を、各単Pに持ち帰ってお伝えしてほしいと思います。私たちは子どもたちのため、手を取り合って頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願ひしまして私の挨拶とします。

来賓祝辞

鹿児島県教育委員会教育長

原 田 耕 藏

開会にあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本日、九州各県から役員の皆様をはじめ、各地域のPTA会員の参加の下、平成22年度九州地区高等学校PTA連合会「子育てシンポジウム」が開催されますことを、心よりお祝ひ申し上げます。また、心から歓迎申し上げます。

社会経済状況が大きく変わっていく中で、進学や就職など、高校生を取り巻く環境は依然として厳しいものがございます。

本県教育委員会としましては、教員の資質向上を始め、生徒の学力の育成に努めており、また、インターンシップの実施や企業等と連携し、キャリア教育を進めています。就職支援員を配置しての出口ベースでの進路指導であるとか、経済団体等に対しましては、就職採用枠の拡大要請をお願いするなどの受け皿の確保に向けて、さまざまな取り組みをしているところであります。

変化の激しいこれからの社会を生き抜いていくためには、子どもたちの規範意識を養い、他人を

思いやる心や感動する心など豊かな人間性やたくましく生きるための健康や体力を育む教育を推進してまいりたいと思っています。

本県には、「負けるな、嘘を言うな、弱い者をいじめるな。」という、困難に直面したときにあきらめずに努力することや他人を思いやる心を持たなければならないという教えもあります。

先日、奄美大島で大変な豪雨に見舞われ、甚大な被害を受けました。この状況の中で、ボランティアとして復旧作業に参加した助け合いの精神に満ち溢れた高校生たちの活動は、被災された方々を勇気づけるものでした。

本日は、『子どもたちに「生きる力」を育む家庭・地域・学校の役割』～「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を培う支援のあり方～を主題に、京都大学大学院医学研究科 木原雅子准教授の基調講演やパネルディスカッションが開催されます。

ここに高校生の現状というアンケートがあります。現状・実態をしっかりと捉えて、対応をきちん

としていくということではないかと思えます。このシンポジウムが、所期の目的を達成し、参加された方々にとって、家庭・地域・学校でなすべき

基本的なことは何かを模索する絶好の機会となりますよう期待しております。



パネルディスカッション

子どもたちに「生きる力」を育む家庭・地域・学校の役割 ～「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を培う支援のあり方～

コーディネーター	木原 雅子氏	(京都大学大学院医学研究科准教授)
パネリスト	谷下 政一氏	(県立伊佐農林高等学校PTA会長)
	富山 裕子氏	(県立指宿養護学校長)
	中村 律子氏	(県立甲南高等学校PTA3学年委員長)
	森山 武志氏	(前県立鹿児島西高等学校長)

木原 それでは、ただいまよりパネルディスカッションを始めたいと思います。

本日は、「子どもたちに『生きる力』を育む家庭・地域・学校の役割」というテーマでお話を進めていきたいと思っています。

まずは、本日のパネラーの皆さんの自己紹介を含めて、4人の方にまず大体10分ぐらいずつお話をいただいて、その後、ディスカッションに入っていきたいと思っています。そして、もし時間がありましたならば、会場のほうからもコメントあるいは質問等を少しだけお受けしたいと思っております。

それでは、子どもたちの「生きる力」について、それぞれの立場からお話をお伺いしたいと思います。

谷下 伊佐市から参りました谷下でございます。所属のPTAは、「更正之素」でおなじみの農林高校でございます。今日は本当に、皆さんに教えるとかじゃなくて、一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

私は大阪出身で、妻の郷里である自然の豊かな鹿児島にIターンしてまいりました。現在、上から、長男が大学4年生、次が看護師、そして高校3年生、これが伊佐農林に在籍しております。末っ子は5歳でして、今、4人の子育て中でございます。

私がPTAに初めてかかわったのは小学校の家

庭教育学級でした。現在、長男が22歳ですので、PTAにトータル16年かかわってきています。本当に非常に貴重な体験をさせていただきました。子どもがいたからこそPTA活動に参加でき、たくさんの人と出会うことができました。私の宝です。宝といいますと昔から「子宝」と言いました。子どもが授かれば、どんな子が生まれるかなあ、ぜいたくは言わない、母子ともに健康に生まれてくれればいいなあということを皆さんも思われたと思います。でも、幼稚園、保育園になると、人の子がだんだん気になってまいります。また、高校に入ると、「進学?」「就職?」というふうになってきますよね。生まれる前のことなんか全部忘れまして、親って本当に無責任だと思っております。

でも、それが親の欲ですが、親の意思どおりいかないのが子育てですよね。高校生だからといって放任主義はいけません。私はちょっと放す時期を早めてしましまして、手は放しても目は離さないことが大切だと思っております。3番目の子、これが今、伊佐農林高校3年生で、少し私の手を放す時期を間違いました。私の力のなさでございしますが、高校生になって問題行動を時々起こすようになりました。最初は、皆さんご存じのように容姿が変わり、そして、彼が今年の夏、何と家出をしました。家へ夕方帰ると、手紙が1通置いてあり、読んでみると、「捜さないで、お母さんありがとう。」ちょっといつもと違うということで

警察に届けを出しました。そして、状況を聞いてお巡りさんがおっしゃるんですね、「近くにいますよ、きっと」。実際、すぐ近くの友人の家におりました。「どうも済みません。おりました。ありがとうございました。」ということで届け出を却下しに行くと、「今後いろいろコミュニケーションをとってください。」と言われました。本当にそのとおりでございます。

子育てに成功、失敗というのはないと、もう本当につくづく感じるところでございます。皆さんのほうも、本当に立派な子育てをされている方、また本当に教えていただきたいと思えます。

木原 私、先ほど基調講演のときには何か偉そうなことをいっぱい申し上げましたけれども、自分の子育ては、今、「失敗、成功はない」と言われましたけれども、私はこうやったらだめですと、だめになりますという例はいっぱい持っています。今のお話を聞きながら、ああすごいと思って、うちの子も家出しまして、でも、帰ってきませんでした。ですから、このようにちゃんと帰ってくるのはいいなあと、うらやましいなと思いました。

次は、今度は学校の先生の立場から、富山先生にお話をお聞きしたいと思います。よろしく願いいたします。

富山 県立指宿養護学校の校長で富山と申します。学校教育に携わる立場からと、私自身も2人の息子の親としての立場でこの役割が回ってきたのかなと覚えているところでございます。私は家庭科の教員でございます。家庭科教育の目標は「生活的自立を身につけさせる」ことでしたので、いつもそういう気持ちで生徒の前に立ってきました。

私はずっと、学校で一番優しい先生を努めてまいりました。これだけは自信があるんですが、いつも生徒に言ってきたことは、「あなた方に好かれるために先生しているんじゃないのよ」と、「私は、世の中で1人か2人の人に本当に好いてもらっていたらそれで十分だし、おかげさまで今のところ十分間に合っているんで、別にあなた方に好かれるつもりはないのよ」ということを前置

きにして生徒の前に立ちます。こんな私が、生徒たちの問題行動とか保護者の皆様の困り事ということに向き合うことが多かったのですけれども、人のつながり、心のつながり、経験が少ないことが子どもたちの意欲のなさの根源になっているのではないかと感じることがありました。

最近不思議に思ったり、これはどういうことだろうと思っている保護者の言葉の中に「うちの子にストレスを与えないでください」とおっしゃるんですね。ところが、今、ストレスを与えないでどこで与えるんだろう。本当にストレスに出会ったときに自分で解決する力は、どこで身につけるのか。家庭でできているのか。それはなかなか難しいだろうと思います。

私自身も2人の息子がおります。「先生は家庭があって、子どもがあって、よく頑張ってきましたね」とよく言われるのですが、もう身が細るような思いがいたします。

私は、子育てはしていないという自覚がありません。したのは洗濯だけ。あとは人様の手をかり、力をかりてやっとここまで来られました。私がここまで来られたのは周りの人々の助力があったことと、ケセラセラの精神、余り物事を気にしないということできました。

そのほかに、ここまで仕事を続けてこられたのは、2人の子どもが一度たりとも学校に行きたくないということを言わなかったということです。確かに兆候は何回かありました。ただ、その兆候があったときには私は、自分が忙しいものですから、そのことに真正面から向き合うゆとりがなかったですね。私は生徒には「絶対学校は休むな」、学校は出てくるものだ、学校は行くものだと言いながら、自分の息子たちに対しては「どうする？ お休みする？」と言うと、「うん」。「じゃ、何て先生に言う？」「お母さん考えて言っといて」と。そのときに「何ね、それぐらいで。行かんね」というようなことは、ゆとりもなかったし、言わないほうがいいかなとちょっと頭をかすめたものですから、黙っていました。2日目は「今日はどうするの？」と言うと、「うん、まだどこが痛い」とか言うんですね。「わかった。じゃお休みしなさい。また連絡しておく」。3日目になって「今日もお休みしたら？」と言うと、大抵

子どもは「僕、今日に行く」と言うわけですね。「そうね、大丈夫ね、休んだほうがいいんじゃない？」とわざと言いますと、「行く」と言うわけです。ですから、私はこのことだけではなく、長い間に気がついたことは、やはり待つということの大切さ、私が待っている間に子どもは自分でやっぱりいろいろ考えているのだと。これは自分の子どもも、それから生徒たちも同じだなということに、教員生活30年になろうとしてやっと気がつきました。

木原 富山先生、ありがとうございます。

先生の立場からと、それから保護者としての立場の両方からお話をいただきましてとても参考になりました。

私が先生の立場のところでもっていいなと思ったのは、「みんなに好かれなくてもいいんだよ」というのを最初に言って、それで接していくというか、私、授業をするときにいつも思うんですけども、子どもたちを乗せようと思うと、つい迎合しようとするんですね。それは表面だけの近づき方ですから、それと本物は別物なので、初めに迎合しないというところを言った後に、ちゃんと丁寧な接し方で、しかも褒めていかれるというのは、ああすごいなと、やっぱりさすがだなというふうに思いました。

そして今度は、保護者の立場としてのお話のところは、本当に我が身として考えて、私自身はいじめられた人間なんです。そしてそのときに私も親に言いました。「こんなにいじめられているから、もう学校に行きたくない」と言ったんです。そうしたら、富山先生じゃないんですけども、うちの母が言ったのは、「じゃ、休めば」と言われたんです。それで、ああ、いいのか、別にだれも止めないのかと思って、それで休みました。しばらくすると、休んでいることにだんだん飽きてくるんですね。そして学校も気になるし、親は「いつまででも休め」と言うので、そうするとやっぱり行くんですね。何となく行きまして、そしてそのまま行くことに決めましたので、あつ似たような人がいるなというふうに思いました。どうもありがとうございます。

それでは、次に、中村さんにお話をいただきました。

いと思います。

中村 甲南高校PTAのほうから来ました中村といます。

私は、このお話をいただいたときに改めて子育てについていろいろと考えてみました。

先ほど谷下さんもおっしゃいましたけれども、子どもがまず生まれてくるとき、ほとんどの親は、ただ元気で生まれてくることだけを願っていると思います。それなのに子どもの成長とともにいろんな悩みが出てきます。その悩みの原因が、育児書だったり、隣の子どもさんだったり、つい他人と比較し、「何でうちの子は」と悩み始めるのではないのでしょうか。私には3人の子どもがおります。今年25歳になる男の子、それから大学3年生と、そして甲南高校の3年生の3名ですが、私は、長男が中3になった頃からいわゆる反抗期を迎えまして、高校2年の頃まで大変苦しみました。当時いろいろな人に悩みを聞いてもらいましたが、皆さん、「優しすぎるんだよ」とか「かえって厳しすぎるんじゃない？」というふうに思いの助言をくださいました。でも、なかなか心が癒されるような答えと出会えませんでした、ますます落ち込みまして、自分の育て方のどこがいけなかったのかなと責めてばかりいました。

そんなとき、息子の友達のお母さんが1通の手紙をくださいました。それは、私の悩みを丸ごと受け入れ、そして息子のよいところをたくさん褒め、最後に「あの子なら絶対大丈夫」といって励まして結んでありました。この私の悩みを丸ごとしっかり受けとめてくれる人の存在に、本当にありがたいと思いました。その日以来、子どもの見方が変わってきました。私は息子に事あるごとに「あなたが一番大事」、そう言い続けまして、息子のすべてを受けとめるように努力いたしました。そうすると、だんだん子どものほうも変わってきました。

実は今、その息子は「勉強が大嫌いだ」と言って大学には進まず、専門学校へ行き、放射線技師の勉強をして資格も取りました。ところが、放射線技師にはならず、突然「医者になりたい」と、現在は医学部を目指して猛勉強している最中です。会場の皆さんの中にも子どもさんの勉強のことで悩んでおられる方もいらっしゃると思いま

す。しかし、子どもは無限の可能性を持っています。目先のことにこだわらずに長い目で見てあげられたらいいなと、我が子を見て思うことです。

木原 中村さん、どうもありがとうございました。子育てですごく落ち込んでしまわれたときにいろんな方に悩みを聞いてもらったというお話をされたときに、ああ、いいなあって思ったんです。私も、すごく子どもがぐちょぐちょになったときに、私はだれも聞いてくれる人がいなかったもので、一人で落ち込むしかなくて、結局子どもと一緒に死のうかというところまで来ちゃったぐらいなので、そういった周りに励ましてくれる方がいらっしやるっていいなと思いました。でも、それは単に環境がよかっただけではなくて、中村さんがきつといろんな活動をなさっていたからだと思います。

それでは、次に森山先生からお話を、先生の立場でお話をお聞きしたいと思います。

森山 皆さん、こんにちは。今ここに私が座らせていただいているのは「おかげさま」なんです。立派なおやじでなかったなと反省をしながら、今日はちょっと恥ずかしい思いで来させていただき、人の前に立たせていただいているんですが、本当にこの「おかげさま」という言葉が大好きなんです。

長い教員生活の中でやはり一番財産をもらった、教えてもらったのは、子どもたちの姿だったと思います。と同時に、保護者の方々の本当にうれしそうな顔、目、さらに怒った顔、そういうものに一喜一憂しながら、子どもたちと闘ってきたのだなと思います。

教えてもらった最大のことは、決して我が子のことであきらめてはいけません。親があきらめたら、その姿は確実に子どもに伝わるものだと感じました。どこまでも食らいつく。そして、この子のためならば、私しかいないという気持ちを常に全面に出していただきたい。一生懸命さは絶対に相手を打ち砕いてくれるものだよということでした。数え切れないぐらいの多くの子どもたち、素晴らしい高校生と出会ってまいりました。また、

それを育てた保護者の方、指導いただいた先生方とも出会ってまいりました。その中から得たことは、「自分は自分の主人公。世界で唯一人の自分を創っていく責任者」ということです。最後は自分であるということをいろんな機会を利用しながら子どもたちに伝えていくことが大切だと思います。

そして、今、親が教えられることを子どもにはいっぱい教えておく。それを子どもたちが取捨選択しながら自分の豊かな自己実現が図っていったらいいなと思うところです。

今日のテーマは、学校の役割、家庭の役割、それから地域の役割ということですが、学校の役割は子どもたちに生き方の選択の幅を広げさせることだと思います。ですから、学校では、指導をするということを絶対に手放すことはできないと思います。

家庭の役割は本当に期待をして我が子が生まれてきました。どの親も、すばらしい子に育ててほしいと必ず思うものだと思います。夢を持たせ、希望を持たせ、そして一生懸命育ててまいります。と同時に、家庭の役割は、厳しさを教えないといけないと思います。私はできていなかったから、反省を込めて今、言っておりますが、子どもと十分に語り込む親であってほしい。どっしりと構え、慌てない。そして親の思いを決して押しつけない。しかし、一生懸命応援のできる親でありたいなということを思います。

地域の役割は、大きな心で、大きな耳で聞く。大きな心で受けとめる。大きな目で見守る。そして子どもたちを育てていくということだと思います。

最後に、みんな一人一人違います。みんなよさを持っています。そのよさを認めてあげることができて、応援をしてあげることができるのは、子どもが生まれて最初に出会う大人であるお母さんだと思います。お父さんは、お母さんの心を支える役割に徹すればいいと思います。子ども達や親からいろいろと学ばせてもらって、いまだに学び続けている私でございます。

木原 森山先生、どうもありがとうございました。何かもうまとめをしていただいたみたいにな

りましたので、私はもう何も言うことがないという状況ですが。

それでは、今から少しの時間を、パネリストの皆さん方々同士でいろんな疑問点、そしてこういった場合はどうでしたかというようないろんな質問とか、そして、もしコメントとかありましたらば意見交換をしていただきたいと思います。

谷下 お二人、富山先生と中村さん、先生も含めまして、いずれもやっぱり反抗期があったということで、反抗期に父親と母親の立場、役割があると思うんですが、そのときに、お父さんに何を求められましょか。その辺を少し教えていただきたいんですけども。

木原 先生方、よろしく願いいたします。

私、多分答えられないです。

富山 私は、結婚してちょうど今年で26年ぐらいになります、たぶん、親子4人が一緒に暮らしたのは8年間位です。男の子2人、ちょうど中学生と高校生、世間で言う一番大事な時期に私は家におりませんでした。それで、反抗期というのは、正直言って反抗する暇も相手もいなかったらしく、なかったのですが、実を言いますと、長男が今、どうもその反抗期なのじゃないかなと。何か気になっているいろいろ言っていましたら、とうとう電話の先で「しばらくほっといてくれ」と言われました。父親も気にしているようですが、今、じっとしております。先ほどの話の中で、自分のことを心配してくれる人の存在があるかないかということが、意欲の有無に関係しているということがありましたが、心配してくれる人がいるから安心してそういう言葉を発するのかなと自分に言いわけをしながら、ほっております。目は離しても心は離すなということでやっています。

木原 ありがとうございます。中村さんはいかがですか。お父さんの役割を。

中村 ちょっとうちも不思議な家庭で、今、高3の娘がもう18になりましたけれども、2歳のときから主人が単身赴任をしております、もう16年

近く別居状態で、そういう環境の中で息子がちょっと反抗期を迎えまして、そのときはやっぱり父親がいてくれたらいいなと。特に、男の子だったので母親ではわからない部分がありました。それで、父親にいてほしいなと一生懸命思いましたけれども、仕事の関係で一緒におれませんでしたので。ただ、私が一つだけ気をつけたことは、主人に電話での愚痴は言わないようにしました。電話で報告すると、主人が帰ってきたときにストレートに子どもに言うんです。この前はこんなこと言ったんだってとか、こんなことがあったんだってということで。子どもが、「母親が僕のことを告げ口している」と。そういうことがありましたので、なるべく主人には、子どものほうが思春期で今、大変なんだと、それで帰ってきたときにはよく子どもを实际見てくれと、見たときに気づいたときには必ず話をしてくださいと、主人には一生懸命お願いしました。

主人は医者なんですけれども、ちょうど長男が医者を目指すようになったのも、多分父親の存在があったのだと思います。それまでは何か、いてもいなくてもいいような感じに子どもも言っておりましたけれども、それからは父親のことを大先輩として尊敬しているようですし、私の知らないところで連絡をとり合っているようです。

木原 ありがとうございます。

それでは、ほかのパネラーの方向かございませんか。森山先生、いかがですか。

森山 私も実は仕事人間で、家は寝に帰るところでした。だから、上が娘、下が男の子ですけども、まだ娘が寝ているときに家を出て、娘が寝た頃うちに帰るもんですから、「このおじちゃんだあれ？」と家内に言っていたそうです。(笑)

だから、「おかげさまで」が非常に好きな言葉なんです、先ほどちょっと申し上げましたけれども、それゆえに父親の役割というのは、お母さんを支えなきゃいけないと。奥さんを支えなきゃいけないと。

こんな話があったんですよ。子どもさんが問題行動を起こした。そうしましたら、そこの父親が「おまえの育て方が悪かだよ」。もうこれで大きな

問題になりかけたんです。

ですから、私たちは時々一人で何でもできていると錯覚いたします。決して一人ではできない。先ほどの中村さんのお話ではないですが、見てくださっていて、支えてくださって、そして励ましてくださった方がいる。だから、次に自分がお返しができたらいいなというのを今、思っているところです。

また、結論的に言いますと、比べないということだと思います。比べない。何かすばらしいこと、それはすばらしいことはありますよ。何かだめなこと、だめなこともありますよ。しかし、それは全部自分の価値判断で比べているだけのことですよ。

上を見ても切りがないし、下を見ても切りがないし、お母さんやお父さんが我が子を最高の子どもだと思って育ててくだされば、子どもたちは間違いなくすばらしい子に育ちます。みんなすばらしくなりたいんですから。そういう子どもたちに出会ってきました、おかげさまで。

木原 森山先生、どうもありがとうございます。それでは、会場の皆さんからもいろんなご意見がありましたら、お話をお伺いしたいなというふうに思います。

どなたかご発言ございますでしょうか。

石川 大変よい話をたくさん聞かせていただいてありがとうございます。情報高校から保護者代表として来ています石川といいます。

森山先生のほうから、今、比べなければいいということをお願いしたので、ちょっと勇気を持ってお話をしたいと思います。

私の子どもは性同一性障害で、鹿児島から全国に発信することができました。日本では、2例目ということで大きく報道され、NHKの「ハートをつなごう」では特番を組んでいただいて、制服の変更、通称名を使うなど、大きなことをするきっかけになったんですけれども、本当に、比べることができない。皆さんの子どもはそういった面では比べられてはいないし、生活の中では支障を来してはいらっしゃらないと思いますが、私の子どもは常にそういう状態に、自分自身を家族の中

でも見て、比べてはいないんですけれども、比べなければいけない現状に立って常々生活しています。そういう人がいたら、地域で、学校でつないでいただけたらと思います。ぜひそういった子どもたちがいましたら支えていただけたら、本当にだれとも比べずにその子がその子でいられるように見守っていてくれたらいいなと思って、今、ちょっと発言させていただきました。

木原 石川さん、ありがとうございます。勇気のある発言だったと思います。

私、もともと性教育が専門ですから、実は石川さんの子どもさんと同じような生徒さんに会うことは必ずあります。性同一性障害の方とそれから同性愛の方と割合が全然違うもんですから、同性愛の方は100人の中に2人、3人いますので、クラスに1人ぐらいいるという頻度でいますけれども、性同一性障害の場合は頻度が少ないので、なかなか会う機会が少なくなると思います。

ただ、授業の中で私、お会いしましたし、その子たちをつなぐ活動もしています。今、そういう若者が一番苦しいのは、つながる人がいないこと。そしてその人たちの中における自殺率はすごく高いので、私はこの子たちを絶対に死なせてはいけないと思いました。それで今、そういう活動をしているんですけれども、人と違うことは、だれでも違っていますので、一緒のはずがないわけなので、そしてそれはその人が選び取ったものじゃなくて、初めからそういうふうになっているものに対して、差別することは絶対にあってはならないなと思っています。そしてそのつながる先はありますので、私のインターネットページを見ていただければ、そういう若者がいっぱいいて、そういう中学生、高校生が連絡する先というのもパンフレットをつくって学校に全部配っています。一人で悩まないでいいように、そして保護者の方が孤立しないようにという活動をやっていますので、どうかそれにつながっていただければとてもうれしいなと思います。何か、そうですね、多分つながりが一番大切なんじゃないですかね。

ありがとうございました。

思いがけず私の専門分野のお話が出てきましたので、びっくりしました。

私のほうから、僭越ではございますが、まとめをさせていただきたいと思います。

何かもういっばいすばらしいことを言っていた後に、何とまとめようもないんですけれども。限られた時間ではございましたけれども、「子どもたちの『生きる力』を育むには」というテーマで、保護者の立場、それから学校、あるいは地域、さまざまなお立場から貴重なお話をいただきました。

今、子どもの「生きる力」が低下している。そういった現在、あらゆる場面での、先ほどの会場からご質問をくださった方もそうですけれども、人と人とのつながり、やっぱりつながっていたら人は生きられると思うんです。そういった人と人とのつながりを、便利な社会ほど、意識的に強化

しないと、人はつながりませんので、意識的に強化して、子どもの人間環境を保護していく必要が再認識されたんじゃないかなというふうに、思っています。

そして、今日の限られた時間ではございましたけれども、本日のこのパネルディスカッションが、参加者の皆様の日々の取り組みあるいは活動に何らかのきっかけになることができれば、私たち参加者一同これ以上の幸福はないと思っています。

以上をもちまして、パネルディスカッションを終了したいと思います。長い時間、本当にありがとうございました。(拍手)



研修会開催地区報告 北信越地区（新潟県）

「子どものメンタルヘルス向上支援北信越地区シンポジウム」

- <日 時> 平成22年11月18日(木) 12:30~16:15
<会 場> ホテルイタリア軒 新潟市中央区西堀通七番町1574
<主 催> 社団法人全国高等学校PTA連合会
<主 管> 北信越地区高等学校PTA連合会
新潟県高等学校PTA連合会
<後 援> 新潟県教育委員会
新潟市教育委員会
新潟県高等学校長協会

<日 程>

開会行事

- | | | |
|----|-------------------|-------|
| 挨拶 | 全国高等学校PTA連合会会長 | 高間 専逸 |
| | 北信越地区高等学校PTA連合会会長 | 揚原 安磨 |
| 祝辞 | 新潟県教育委員会教育長 | 武藤 克己 |

基調講演

- | | | |
|----|---------------------------------------------------------------------|--------|
| 講師 | 京都大学大学院医学研究科准教授 | 木原 雅子氏 |
| 演題 | 「子どもたちの心を知っていますか？」
～高校生のメンタルヘルスの現状と私たち大人にできること～
～WYSH教育の視点から～ | |

パネルディスカッション

- テーマ 子どもたちのメンタルヘルスを考える
～高校生の生活・意識と保護者の支援のあり方～

コーディネータ

- | | |
|-----------------|--------|
| 京都大学大学院医学研究科准教授 | 木原 雅子氏 |
|-----------------|--------|

パネリスト

- | | |
|-----------------------------------|--------|
| 新潟県立柏崎高等学校PTA会長 | 青木 健氏 |
| 元新潟県養護教員研究協議会会長 現新潟県立新潟中央高等学校養護教諭 | 阿部 康子氏 |
| 日本学校教育相談学会全国理事 新潟明訓高等学校スクールカウンセラー | 岩野 宣哉氏 |
| 新潟県立新潟商業高等学校校長 | 北 進司氏 |

- <出席者> 北信越地区高等学校PTA連合会会員

パネルディスカッション

子どもたちのメンタルヘルスを考える ～高校生の生活・意識と保護者の支援のあり方～

コーディネータ **木原雅子氏** (京都大学大学院医学研究科准教授)
パネリスト **青木 健氏** (新潟県立柏崎高等学校PTA会長)
阿部康子氏 (新潟県立新潟中央高等学校養護教諭)
岩野宣哉氏 (新潟明訓高等学校スクールカウンセラー)
北 進司氏 (新潟県立新潟商業高等学校校長)

木原 今日は「子ども達のメンタルヘルスを考える」、「高校生の生活・意識と保護者の支援のあり方」というテーマで話を進めていきます。お一人何分というやり方ではなくて、わりと自由な感じで話していただき、最後に会場の方も交えて話に加わっていただきます。

まずは自己紹介とそのパネラーの方が考えられている高校生のメンタルヘルスの現状、そして今回のアンケート調査の結果を見た感想、驚きを最初にお話いただき、どうしたらいいかのお話はその後にしたいと思います。

それではまず最初に、青木会長からお話をいただきます。よろしく願いいたします。

青木 柏崎高等学校のPTA会長を務めております、青木と申します。一介の高校生の父親ということで、今日は普通の親父の立場から話ができたらいいなと思っています。素人代表ということでよろしく願いいたします。

私が高校生のころはメンタルヘルスという言葉すら聞いたことがなかったと思います。そういうことを真剣に話をしなくてはいけない世の中になってきたのかなと感じています。

子どもの頃はテレビゲームも携帯電話もなかったもので、時間も、やることもいっぱいあった。家族構成も大家族中心の構成で、お爺ちゃん、お婆ちゃんも一緒に住んでいる。地域の人とか子ども達も結構入り組んでいました。

小学生の頃喧嘩して帰ってきて、親に泣いて訴える。「何回叩かれた」「10回叩かれた」そしたら「行って10回叩き返して来い」という時代だったと思うんです。そうやって喧嘩しても、あとは握手してごめんねと謝って終わりという、子ども達の中でもまれて人間関係ができていた時代だったような気がします。最近見ていると、子ども達の喧嘩に親が出てきたりして、子ども達の中でもまれる経験がなかなかないのかなと感じています。

それがメンタルヘルスと関係しているかは、わかりませんが、昔は地域の人とか親が見守る体制があったものが、今は希薄になってきているということを感じました。

それから学校の先生に関しても、当時はすごく威厳があったような気がするんですね、親にとっても。先生の言うことはちゃんと聞かなければ駄目だと、子どもにも言い聞かせていたはずです。今は何かあるとすぐ学校に文句言ってみたりして、先生としても、どう子ども達に接していいか、親と接していいかわからないというのがあるんじゃないか。

私の親父は、拳骨を先生からもらって帰ると、先生に電話して、「よく拳骨をくれてくれた。もっとくってください」と、逆に先生を励ました親父でしたので、そういう関わりが変わってきているのかなと思っています。

世の中が変わり過ぎて、子ども達とどう接していいかわからない親が多くなってきている。親の

ぶれる気持ちが子ども達に何となく伝わり不安にさせている。それが何となく社会の不安定さと相俟って、子ども達の不安につながっているんじゃないかと、私自身感じています。

次にアンケート結果の中で気になったのが、人間関係です。「信じられる友人がいない」、「困った時には一緒にいてほしい友人がいない」が結構数出ていたのは、親が子どもの友達を制限してきたのではという気がします。

あの子と遊んじゃ駄目と子どもへの影響を親が考え過ぎてしまって、いろいろな子ども達と関わる機会を奪ってきてしまった。親が子どもの友人関係を制限してしまって、いい友人関係が作れなくなってきているのかなということ、アンケート結果を見ながら思いました。

それから「先生が信頼できない」についても、たとえば親とか地域の人たちが、子どもがいる前とか家庭の中で、先生の批判とか悪口を言っている場面を目にすることがあります。子どもは聞いていて、自然と先生ってそういう人なんだなと思ってしまうのでは。人の噂や悪口をいう人間は信用しなきゃならんと普段言っているくせに、学校の先生の悪口を言ってみたり、そういうところで本能的に感じ取ってしまうんじゃないかと思いました。

もう一つは、毎日起こっている事件とか事故を、本質的なものまで深く掘り下げて説明しないで、一部だけを切り取ったり、面白おかしく脚色をして伝えてしまっているメディアの責任、特にテレビの影響があるんじゃないか。特に最近は活字離れと言われますので、本や新聞を読む習慣のない人ほど、テレビの影響を受けているんじゃないかと感じました。

木原 青木会長、ありがとうございます。

私はもっと昔になりますけれど、地域の人とはものすごくつながっていたなと思います。

中学校の時に、ちょっとだけおしゃれして近所の商店街を歩いたんですね。そこのお兄ちゃん、おじちゃん、おばちゃんが、「雅子ちゃん、何しよっとね」と言われるわけですね。「誰かとデートね」みたいな感じで、からかわれるわけですよ。地域から見守られたというか、見張られてい



たというか、そっちの方もあるかもしれませんけれども、おっしゃるとおりだなと思って聞いておりました。

それでは今度は、養護の先生のお立場から、阿部先生にお話をいただきたいと思います。

阿部 阿部と申します。私は、小、中、高と保健室で30何年勤務をしているんですが、小学校勤務が一番長く、その後中学校は1校、そして現在、中央高校が初めての高校です。

その間、小学校で不登校、中学校で校内暴力の問題に直面し、この子ども達に対応していくにはどうしたらいいかと、隣におられる岩野先生、北先生に教えを受けに教育センターへ2年間ほど通いました。

いわゆる子どもの心の問題をずっと見てきたんですが、中学校では校舎の3階から飛び降りた女の子がおりました。幸い命は取り留めましたが、その後のケアとかでいろいろな関わりを持ちました。そういう子ども達が、何でそこまで自分を傷つけるんだろうと、非常に強く考えながら毎日勤務しております。

でも、誰かがこの子の支えにならなければと、時には叱り飛ばすようなこともしながら関わってきましたら、幸いに子ども達も今では結婚して電話をくれるような関係になりました。そういう中でやっぱり人は一人では生きていけないということが子ども達の心にしみていくような機会とか教育とか指導の場が必要なんだなとしみじみ感じています。

この3月で私は定年ですが、なかなか子ども達のメンタルヘルスの環境が良くならないのは何でだろう、自分ひとり空回りしているのかと、忸怩

たる思いを持ちながら日々勤務してきました。先生の最後のまとめにいわゆる人間環境破壊が広がっているんじゃないかという言葉聞いて、ああこういうことかと、ヒントをいただいたような感じがいたします。

人とのつながり方が子ども達自体が下手になっている。また親御さんたちも子ども達との関わり方が下手になっていると感じています。

この人間環境破壊が進んでいると思ったのは、携帯の問題です。女の子で4.5時間、男の子で3.3時間。うちの学校でも眠れなかったといって保健室へ来て、2時、3時まで起きていた。「何してたの」と言うと、何んでもないけど携帯をいじっていた、と言う。

生活リズム、生活習慣をきちんとしなさいと言われていたのに、そういう生活リズムが持てない環境に、今、子ども達がさらされている。

いろいろなメディア、機械機器、ゲーム。どこで止めていいかわからない、そういう新しい技術の進歩の中に子ども達が取り込まれている。浸かっているのではなく、取り込まれている状況を、何とかしないと人間環境破壊はますます進んでいくのかなと感じました。

24時間しか時間はありませんので、その中で携帯云々がこれくらいあれば、当然勉強できない状態が起きてくると思いますし、子ども達自身が勉強はさせられるけれど、本当に勉強の仕方がわからないのではないかという思いがします。

私が保健室で接する子ども達は、どちらかという意欲が持てない子、元気がない場面の子が多いです。勉強はしたいけれど、どうしていいかわからない、意欲が持てない。それは小、中の勉強のさせ方、親御さんが期待する勉強のさせ方と、子どもが持っている本当に意欲としての勉強の仕方がかみ合わないという感じをつくづく、この頃持っております。

木原 阿部先生、ありがとうございました。

以前は校内暴力とかありましたが、角を出し牙を出している子の方がそこをつかめるので、どうにか一緒に苦しんだり悩んだりはできますが、それを出していない子は本当につかみどころがない状況に入っているのです、今の子ども達の現状の方

が、以前の本当に目立った時より大変な状況にきていると思います。

先生の言われた言葉の中で、ああそうだったのは、勉強をさせられるけど仕方がわからない。させられる状況って、受け身ですよ。受け身はとてもきついですから、能動的に動いていない子ども達がほとんどなんじゃないかと思いつながら聞いていました。

それでは今度は、岩野先生にスクールカウンセラーのお立場からお話をいただきます。

岩野 岩野です。明訓高校でスクールカウンセラーをやっています。45～46年前ですが、新採用で行った学校で担任していた生徒が家出をして、連れ戻したけれどもなかなか話ができなくて、結局退学することになったんです。それがとても悲しくて、教育相談の勉強をしなくちゃということで始めました。それから45年、今はそれが仕事になっています。

私がいる所はカウンセリング室ですから、子ども達の言葉を皆さんに伝えるのが私の立場かなと思っています。

まず、子ども達は朝8時頃までには家を出て、約9時間学校にいます。家では、だいたい6～7時間寝るので、残りの5～6時間が自由時間です。そのうち携帯の時間が約3時間で、お風呂に入り、食事をし、テレビを見たりします。そうすると、親子の会話という時間はほとんどありません。

そうすると学校という所は重要な意味を持っていることになります。学校は子どもに責任を持たなければいけないと私は強く思っています。

現在、私が受けている相談の内容で多いものを3つ上げると、①一番多いのは対人関係。たとえば友達ができない、いざこざ、いじめ、失恋、恋人の取り合いとかの様々な人間関係。②は家庭の問題。親がうるさい、進路が一致しない、親が金がないと言っている、携帯をあまり長い時間やるな、ゲームをやるな、テレビを見るなとか、いろいろなことで家庭内のトラブルが発生します。③は精神的な疾患。いわゆるうつ状態、パニック障害、自律神経失調症、規律性調節障害、リストカット、摂食障害などさまざまな精神的な疾患。こ

の3つを合わせると90%近くになります。

そういう3つの問題を考えると、子ども達が自分で解決できる問題というのは非常に少ないと思うし、家庭と学校とが手を取り合って、今ここでやっているPTAのような場で、子ども達を守っていく必要を感じます。

ここにいる皆さんは子どもをやったことがあるわけですから、子どものことはわかるはずなんです。子どもは大人をやったことがないから大人の心はわからないんです。ですから大人の方からちょっと降りていって話をしなくてはいけないと感じています。

次にアンケートのことについて、私は2つのことを強く感じました。

一つ目は自宅学習の時間がゼロの生徒が59%なのはもっともだと思っています。

うちの学校は、甲子園の野球で今年はベスト8になりました。他のスポーツも一生懸命やっています。進学も120名以上は国公立大学に入ります。卒業生のほとんどが進学です。それでも全く勉強しない子がかなりいるんです。

僕はこう思います。自宅学習を小学校の時からずっとやったことがないのです。つまり学習習慣がないのです。小学校でも中学校でも、学校で一生懸命勉強して、その後、塾に行く。塾というのは学校の延長で人から勉強をさせてもらっているので、自分で何かを学ぼうという学習ではないのです。

高校生になると学校によって教科書や進度が違ったりしますので、塾へは行きません。進学塾だけです。そうすると自分一人で学習する方法がわからないから学習の仕方を教えないとできないというのが現実です。学習時間がゼロ、非常に短いとただ嘆いているだけでなく、学習することの楽しさを教える必要性を感じています。

一人で机に向かっている時間を作ることです。いつも家族がいる所とか、テレビの音がする所とかでないと勉強できないというのはおかしいと思います。

二つ目は意欲の問題です。先ほどアンケートで意欲の影響が非常に大きいとありました。

子どもに「あなたは意欲がないから駄目」「やる気がないから駄目」と私達は言いがちです。そ

れは昔の根性主義です。やる気がない、意欲がないということ、もうちょっと別な目で私は考えました。生徒はやる気がないと元気がでない、疲れたとよく言います。じゃあ意欲をなくさせたのは誰でしょう。小さい子ども達はみんな元気いっぱいです。

相談の中では、親と子の感じ方がとても違います。「この子は小さい時から何をやっても上手にやれた」とおっしゃるお母さんの子どもが「俺は何をやっても駄目だった」と言うんです。どうことだろうとさらに聞くと、小さい時からいろいろ習いごとをしていて、ほどほどのところで親が、「それはもういいから次をやろう」と別のものをやらせます。子どももある程度やると嫌になる。たとえばピアノを行くのを子どもが嫌がると、親は「じゃあ、行かなくていいよ。結構上手になったからいいじゃない」とやめさせてしまう。子どもはそこで挫折感を持ってしまう。それが続くと何をやっても駄目だったという印象が残ります。そうすると何かやる気を失ってしまいます。

次は小学校2年生の女子の例です。その子は水泳が好きで、スイミングスクールに行っていましたが、辞めました。その女の子と話をしたら、スイミングは習う順番があって、一番最初に習うのがクロール、その次はバック、バタフライ、平泳ぎです。クロールができるようになると、「あなたはクロールができたから、次はバックやろうね」と言って、次々とやらせる。その子は「私はクロールでしばらく水泳を楽しみたかった」と言うんです。なかなか意味がある言葉だと思うんです。で、その子は嫌になってやめました。

その次の例ですが、小学校3年生くらいの子が、100点の算数の答案を持って家に帰りました。そしたらお母さんは「算数100点取った。じゃあ、算数はもういいから、今度は国語を100点取ろうね」と言ったそうです。要するに親はいろいろな教科をみんな100点取らせたかったんですね。ただ本人はとりあえず算数の100点を褒めてほしかったのに。がっかりしていました。

もう1人は高校生です。高校入試の発表をお母さんと一緒に見に行きました。本人は合格したのでとても喜んでいました。そしたらお母さんがす

ぐ脇で「ランク下げたからね」とつぶやいたので、それを聞いたら、本人はもう何もやる気がしなくなった。そう言っていました。

私たちは子どもの意欲を育てることをしないで、逆に意欲をそぐようなことをしているんじゃないかと強く感じました。そして意欲のないことが、いろいろなところに影響してくることも今回のアンケートでわかったような気がします。

木原 岩野先生、ありがとうございます。それでは北校長先生にご意見をいただきます。

北 新潟商業高校校長の北です。教員生活36年で、阿部先生と同じ、間もなく終わりです。

もともと保健体育の教員ですが、縁あってというか、問題を抱えてというか、カウンセリングをしばらく勉強して、36歳から44歳まで8年間、県立教育センターで岩野先生と一緒に教育相談等をしてまいりました。

今、新潟商業高校で校長として勤めています。中に私の教え子の子どもがぼつぼついます。私の教え子はわりと元気のいい子が多かったんですが、その息子達、娘達はわりに品がいいというか、本当にいい子になっています。同じ遺伝子を持ちながら環境の違いも相当子ども達の姿を変えるのかなと思っています。

お手元のプリントを見て下さい。今時の子ども達はどうかといわれてもざっくりなかなか言えません。いろいろな生徒がいるとしか言えませんが、生徒をタイプ別に分けて眺めてみると、少し整理できるかなと思います。

横軸は精神的エネルギーで、これは快樂原則といい、やりたいことをやりたいとか、欲望とかです。そういうやる気、元気の力です。それから縦軸は社会性、規範意識といって、いわゆる耐性です。それが上にいけば高い、右にいけば精神エネルギーが強い。右上の意欲群は、元気もあるし社会性も育てている。本当にいい子で、何でも頑張っていて、少々のことであってもくじけない。自分や他者への信頼感もあるという生徒の群です。結構います。

右下の方はエネルギーはあるけど、ルーズ、わがまま、提出物などを出さないという子どもの群

です。左上の方は、息切れ群といって、耐性は高いけれどもエネルギーが枯渇している。結構生真面目で、完全癖で、真面目だけれどもやる気を失って、どこかでぶつんと切れてしまうという生徒の群です。それから左下が耐性もエネルギーも育てていない、孤立し、無気力。これは単独非行という形で、若干怖いような非行等もする。おとなしく見えるが、突然どでかい事件を起こしてしまう。そんな4つの群で見えていくと結構見えてくる。

だから遊び型の問題行動群については、耐性をいかに育てていくかという方向でなければいけないし、息切れ群については、意欲、やる気、元気をどういうふうにつけてあげたらいいかというふうに見ていくといいかなと。

内向的問題行動群については、まずは元気、それから耐性を育てていく。元気が出てきたらやっといういいことと悪いことを教える。それから人間としてどう生きていくかという順番でやるといいかなと考えています。

アンケートについては、勉強しないというのはやはり気になりました。させられているからしないということでしょうけれど、勉強を好きな子はうんと勉強をしているんです。

お茶の水女子大の耳塚先生が毎年調査をしています。勉強したらやはり得になるとか、勉強好きだという子はしているんです。しかも都市部の偏差値55以上の生徒は猛烈に自宅勉強をしています。ただそれ以下で目的意識がない子ども達がしていない。だからいかに動機付けをするかが必要なのだと私は思います。

動機付けでいえば、部活動の熱中率というのがあり40%ぐらいが一生懸命部活をする。だから好きなことはやる。自分が成長すると思えることは子どもはしっかりやると思います。

それから夢がないと困るということです。どんな生徒になりたいか、日米中韓の高校生の意識調査が2006年にありました。

勉強がよくできるようになりたいが、他は80%くらいで、日本の場合は40%。リーダーシップの強い人間になりたいが、日本人は16%。諸外国は80%。先生に好かれるが、日本の場合は14%で、他は50%以上。正義感が強いも、日本人は26%、他はうんと高い。

中国が1位で日本が2位になったのが、クラスのみんなに好かれる。みんなと同じであればいいという。これからの国際社会の中でこういう子ども達でやっていけるのか、そんな子ども達でいいのかという感じはします。

だからやっぱり積極的な意味のメンタルヘルスをうんと進めていきたいなと思います。

それから携帯への依存症については、携帯を通して自分のエネルギー保持をしている。そこを別なチャンネルにどう変えるか、どう工夫するかということなのかと思います。

木原 北先生、ありがとうございました。

これからは、このような状況の子ども達の成長にどう関わっていけばいいのかということでご発言をお願いします。

青木 親の立場として、たとえば体当たりで本当に泣いたり笑ったり怒ったりということを日常的にやる。世間体をあまり気にし過ぎずに、本音で子どもとぶつかるべきなのかなと思います。ただ、叱ったら褒める、褒めたら少し叱るというかたちで、バランスよくということは大事だと思います。

それから、子どもは親の鏡といいますが、親が寝転がってお前勉強しろと言っても言うことを聞くわけがないので、やはり自分でも行動をすることが大事ではないかと思います。

そういう中で、家族の中の役割というのが、すごく重要ではないかという気がします。

たとえばお年寄りが一緒に住んでいるお宅であれば、お婆ちゃんの役割が掃除とか洗濯とか、お母さんはご飯を作るのが役割とか。そうしたら子ども達もテレビ見たり、携帯いじったりではなく、食事が終わったら茶碗くらい洗うとか、一緒に拭くとか、そういう何か一つでもいいから、役割分担を家族の中でしっかり位置づけていったらどうかと思います。

そういう中で会話も生まれ、共有する時間もできてくる。親子の信頼関係もそういう小さいところから生まれてくると思います。

それから、家中の携帯電話の充電する場所を1箇所にまとめたらどうか。要するに夜中中持って

いる必要はないわけで、携帯の充電器置き場をみんな決めてよかなと思いました。そうすることで多少、不安があっても、少し携帯電話を離す時間帯ができるかな。反対されるかもしれませんが、今日家に帰ったらやってみようかなと思いました。

あとは、親も子ども達が勉強する時間帯に一緒に新聞を読んだり、自分で資格を取る勉強を試みたり、そういう努力もすべきなのかな。要するに親も一緒になって頑張っていることをアピールすることも大事なのかと。

理不尽なことは世の中にたくさんあるわけですので、そういうことを乗り越えていく姿、親も一生懸命やっているということを見せる。それから小さい困難に立ち向かって、それが成功した時に、お互いに喜んであげる。成功体験というものを少しずつ積み重ねることで、だんだん強いメンタルヘルスが育成されていくのではないかと思います。

それから、コミュニケーション能力というんでしょうか。自分の思っていることを言葉にして相手に正確に伝える能力。もう一つは相手の気持ちを推し量る能力を、親も含めて高めていくべきかなと思って、そういうものを体得すると、少しまた違った世の中が見えてくるのではないかと思います。

要するに、自分がしっかりしろと、今日は自分には結論づけたいです。親としての子どもを育てていく覚悟があるかどうかを、自分に問いただしてみたいと思いました。

木原 どうもありがとうございます。それでは他の方からご発言いただきたいのですが。

阿部 私はもう娘2人とも嫁いで孫がおりますので、まだ子育て真っ最中の皆様に少し苦言を呈させていただきます。ただ、思っています。

親と高校生の規範意識にかなり差があり保護者との交流がうまくいっていないのではということでした。本気で心配してくれる人がいるかでも、親子の間でかなり差がある。

高校生ですから、発達段階として親なんてという思いは当然あると思うんですが、「親は心配

してくれる」の割合がもう少し上がってもいいのではと思っています。現実には子ども達の答えはそうではない。これはどこから来てるのか。子ども達と親御さんの様子を見てみると、たとえば100点を取ったあなたが可愛い、どこどこの高校へ行けるあなたが可愛いと条件をつける可愛がり方をしていると思われる場面がたびたびあります。

「うちのお母さんはこれを持っていっても褒めてくれなかった。私はこれだけ頑張ったのに」という、その結果だけを見ている。その過程を見ないという気がします。

それから保健室ですから具合の悪い子どもがきます。今日も熱があると朝から1人来てショートホームルームにも出ずにすぐ帰ったんです。何でそんな子どもが学校に来るのか。お母さんに言っても休ませてもらえないと言うんです。でも熱が38度もある子に、わかっていてとりあえず学校へ行けというのはどういうことなのか。何か根本的に本当に大事にするものを間違っているのでは。命とか健康が一番大事なもののなのに、そこを何で大事にしてあげないのか。それが一番子どもの気持ちに伝わる。確かに1日学校に行かなかったら勉強が遅れるかもしれませんが。学校に行って熱が下がるかもしれないけれど、声の掛け方一つ何かが違うと、最近、しみじみ感じています。

つまり、学校に行けば、保健室で誰かがどうにかしてくれるだろうと思っている。同じ言葉でもとりあえず学校に行けじゃなくて、「連絡先はここだから、熱が出たらすぐ電話ちょうだいね」という対処の仕方でもいいんですけども、そこが欠けているんですね。

何か相手を思いやる、本当に大事にするというところが、ちょっと欠けつつあるのかなと。親は誰を守るべきかということを実際にしっかりと見てもらいたいと思います。

岩野 子どもの言葉をお伝えします。

「失敗することはあるけど、頑張るから待っていてほしい」「私の人生は私の人生なんだから好きなようにとは言わないけど、私の思うようにしたい」「あまり期待しないでほしい」「親には心から感謝している。今は言えないけど」泣かせますね。

メンタルヘルスについて私は次のように考えま

す。

①は、今自分が生きているのを幸せであると感じることができる。どんな境遇であっても感じることができることです。

②は、自分の今現在行っている生活や状態や仕事に、誇りが持てること。それには周囲からの評価も大事だと思います。

③は、共に生きている人達を信じて愛してあげること。それができれば、精神的にどんな逆境があっても健康で過ごせるんじゃないかと思っています。

悩み・葛藤がなければメンタルヘルスがあるのか。たとえばストレスがなければメンタルヘルスが得られるのか。私はそうは思いません。子ども達は成長するためには、そのような悩み・葛藤を自分で解決していくことが必要なんです。メンタルヘルスがしっかりしていると悩みや葛藤を解決していけるのだと思います。

子どもはいろいろなことを感じながら大人になっていくのですが、自分自身を受け入れることが大切です。自分自身を受け入れることで他人を受け入れ、受容することができるんです。他者受容は自己受容に比例するという言葉がありますが、自分自身の存在を受容できることが、他人を受容できる、非常に重要な要素だと思います。

それには先ほど木原先生のなさったWYSH教育というのはとても素晴らしい教育だと思います。自分で自分の問題を解決して、是非学校でやれたらいいなと思いますが、なかなかそういう時間がないんです。

北 簡単にいうと、高校生はプレーヤーだと思います。走り続け、戦い続け、そして競争をしています。成功への期待がある。全員が勝てるわけではない。敗れる者もいます。もう少し工夫すればやれることもある。優しい扱いはしてあげたいけれど、これからきちんとした社会人として生きていくためには強さも必要なわけです。そういう意味で、やったことに対して振り返る、事実に関してどんな思いを持っているかをきちんと聞く。そして自分としてはそのことはどうやったのかをしっかりと受け止める。それを繰り返すことが必要だと思うんです。

プレーヤーの気持ちをしっかりと汲んでやれば、子どもは子どもなりにしっかりと自分の歩んでいくべき道を進んでいくと思います。

1つのヒントとして、事実と感情といつも使い分けています。マラソン大会をやって負けた。悔しかったね。次どうするの。毎日練習する。続いたの。続かない。それじゃ駄目じゃんというふうに。焼き鳥にたとえると、事実をねぎ、感情を肉とします。事実から先に食べ、それから感情を食べるというふうにすると、一本のストーリーができる。頑張ろうと思っているけれどもできない私、人のせいにしてる私。そういうことが見えてくると、生き方が定まってくるように思います。

そんなことでプレーヤーである子ども達には、こちらは寄り添って聞く相手、コーチングみたいな感じで付き合っているとやっていけるかな、そんな感じでやっています。

木原 北先生ありがとうございます。

それでは会場の方からも、お話をお聞かせ願えたらと思います。

会場 最近、小学校とか中学校で自殺が多くなっています。いろいろな原因があると思いますし、個々の条件でまったく違うと思うんですが、パネラーの方はどういうご感想を持っているか、お聞かせいただきたい。

木原 今のに付け加えますと、自殺率は日本は他の先進諸国に比べて1位です。若い人の自殺は1位です。特に男性が女性の2倍です。ですから今の会場からの発言はとても貴重な発言だと思います。皆様方いかがでしょうか。

岩野 小・中学生、高校生、大学生、それぞれ違うので、一概に言えませんが、若い人全体の自殺率が高いというのはその通りです。

どうして自殺をしていくのかというと、私の考えは、最終的には衝動です。遺書があり、あいつにイジメられて、面当てに死んでやるんだ、という例はほとんどありません。千葉で自殺した例でも、遺書はありませんでした。結局、衝動的に自分が何が何だか訳がわからないうちに自殺してし

まうことが非常に多いと思います。

たとえばリストカットでもそうですが、もう自分が何をやっているのかわからなくなってしまいう解離状態が子どもの中に結構たくさん起きてるようです。

昔こっくりさんという遊びがありましたね。ああいった自分が自我を離れたような状態が子どもにはよくあるんです。そういうことを大人達がしっかりと捉え、側に居てやる必要があると思います。

理論的に自殺の因果関係を捉えるのは無理です。答えを求める気持ちは分かりますが、周囲の人達が気持ちを楽にしたいという面があるのではないのでしょうか。

思春期というのはホルモンのバランスが崩れ、何がなんだか分からない状態が体の中で起きている。どうしていいか自分自身でもわからない。壁を叩く子もいますし、物を壊す子もいますし、手を切る子もいるし、首を吊る子もいるというふうに捉えざるを得ないと、私は感じます。

木原 どうもありがとうございます。

私は自殺しようとする環境というのは、自分の子で経験しましたのでわかります。

ぎりぎりまで我慢して我慢して、そしてもう駄目という時に、その時に初めて「ママ、もう駄目みたい。このまま生きていけないから」と言われたことがあります。そしてそのぎりぎりのところになった崖っぷちの時にSOSを出されて、でも本当にもう苦しいのがわかっていましたので、そこで格好良く将来のことを考えなさいとか、そういうことは絶対言えなかったです。一緒に泣いて、そして一緒に死ぬ場所を見つけて、方法を見つけて、そして周りの人が羨ましくて、何で私たちは2人だけでこんなことをしているんだろうみたいな感じになって、一緒に苦しんで一緒に泣いて、そして結局は死ねなかったというところなので、さっき本気で体当たりでぶつかって、青木会長がおっしゃったんですけれども、その体当たりで一緒に死に場所を見つけたので、ですから今は一緒に生き場所を見つけているというところで、そんなふうな体当たりの接し方がもしかしたら必要なのかなと、それは子どものSOSをもしきたら救えるかもしれないと思います。

これは単なる一保護者の意見として、自分はそうしましたというところです。

他の方向かございますでしょうか。

阿部 中学3年生が3階から飛び降りた話です。彼女は前からサインを出していましたがそれにいろいろ対処もしていました。でも彼女が飛び降りた後に聞いた話ですと、窓の外から私を呼ぶ声があったからそこへ行っただけだという話をしました。

ですから本当に追い込まれる状態の中で、大人として、あるいは学校の者として、一番身近に接する者として、サインを見つけた時にどう対処してやるか。衝動的な部分もあったかもしれませんが、やはり見つけた時には必死にならざるを得ないと思っています。

その子は一命は取り留め、その後には高校も行きましましたので、高校に行って復帰するまで、本当に学校と子どもしんどい思いをしました。でもそういう中で人が支えていってくれるんだというのを彼女はわかっていたので、いい人に巡り合って結婚もされたと思います。サインを見逃さないで簡単に言いますけれども、見逃さないでそれに対処する時の本当に切なさ、難儀さ、周りの一人一人を巻き込んでいかなければ解決しない。その難儀さを、1人の命を守るためにはやらざるを得ない。

木原 阿部先生ありがとうございます。他の方、発言ございましたら、お願いいたします。

会場 自分の生き方を子どもに見せることによって、子どもが考えてくれているんじゃないかと親として思っていることがあります。私自身、足腰、骨に変形がきていますし、乳がん治療もしていますので、いろんな面でそういうことを考えています。そういう点で、親自体の生き様を子どもに見せることによって、子ども自体が変化するのでしょうか、先生方のご意見をお聞きしたいと思います。

木原 どうもありがとうございます。親が生き様を見せること、それは本当に子どもに伝える一番のものではないかなと私は思います。

たとえ子どもの気持ちになれなくても、その親の生き方、生きる姿勢を見せてもらえれば、私はそれで充分じゃないかなと思います。

時代が違いますので、わかりあえないことっていっぱいあります。私の父は小学校までしか出ていないのですが、その父が私が高校、大学と進んで苦勞していても、それは理解できるわけではないんです。でもずっとそういう学歴で苦しんで一生懸命働いている父を見ていたという経験が私の中で大きく残りますので、親の真剣に生きている生き方というのは、何も言われなくても、多分子どもに伝わるのではないかと私は思います。

北 親の生き様を見て、親の期待するようになればいいけど、ならないこともあります。

だけど親が生きなかつた部分の生き方をしてくれる子どもいます。たとえば若い頃に本当は音楽家になりたかつた。それが生活を考え、真面目に大学に行き、公務員ないしは銀行員になり、生活を維持してここまで来た。息子が遊び呆け、バンドに狂っている。落第する。そんな相談を受けたことがあります。お父さんに「あなたもそういうことなかつたの」と聞くと「実は俺もそんなことしたかつたんだ」と言う。そういう親の生きていない部分を生きてくれる子どもがいて、その意味では、親の姿をしっかり見ている子どもなりにやってくれる。だから親が期待するのがどのレベルの期待なのかなという感じがします。

木原 そろそろ時間ですので、僭越ではございますが、お話をまとめさせていただきます。

本日、限られた時間ではございましたけれども、子ども達のメンタルヘルスを考えるというテーマで、保護者の方、養護の先生、カウンセラーの先生、それから校長先生と、いろいろな立場の方々から貴重なお話を頂戴いたしました。そして会場の皆様のご発言もとても貴重なご発言だったと思っております。

子ども達のメンタルヘルスが危機に面していると思います。そういった現在ですけれども、あらゆる場面で本当の意味での人と人とのつながりを、意識的に強化して子どもの人間環境を守る必要性というのが、今日会場とそれから私どもパネ

ラーの立場でみんなで共有し再確認されたのではないかなと思います。

そして本日のお話が、今日ご参加いただいている皆様方のおうちに帰ってからの何らかの取り組み、あるいはこれからの組織としての活動の何らかのきっかけになることができれば、私ども

一同これ以上の喜びはないと思っております。

それでは長い時間、ありがとうございました。
以上でパネルディスカッションは終了いたします。
どうもありがとうございました。

研修会開催地区報告

関東地区（埼玉県）

『子どもたちのメンタルヘルスと学習意欲』

- <日 時> 平成22年12月1日(水) 午後1時00分～午後4時30分
- <会 場> 埼玉会館小ホール（さいたま市）
- <主 催> 社団法人全国高等学校PTA連合会
- <主 管> 関東地区高等学校PTA連合会
- <担 当> 埼玉県高等学校PTA連合会
- <後 援> 埼玉県教育委員会
埼玉県高等学校長協会
埼玉県高等学校安全互助会
日本教育公務員弘済会埼玉支部

<次 第>

開会のことば

- | | | |
|--------|---------------------|--------|
| あいさつ | 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 | 蒔田 孝 |
| | 社団法人全国高等学校PTA連合会副会長 | 荻莊 誠 |
| | 埼玉県高等学校PTA連合会会長 | 松本 裕史 |
| 来賓あいさつ | 埼玉県教育委員会県立学校部部長 | 藤井 春彦氏 |

基調講演

- | | | |
|-----|------------------|--------|
| テーマ | 子どもたちのメンタルヘルスと意欲 | |
| 講師 | 京都大学大学院医学研究科准教授 | 木原 雅子氏 |

シンポジウム

- | | | |
|----------|--------------------|--------|
| テーマ | 子どもたちのメンタルヘルスと意欲 | |
| コーディネーター | 京都大学大学院医学研究科准教授 | 木原 雅子氏 |
| シンポジスト | 埼玉県立総合教育センター指導相談担当 | 島田 正美氏 |
| | 埼玉県立浦和東高等学校後援会会長 | 加賀満喜子氏 |
| | 埼玉県立春日部高等学校養護教諭 | 足立 佳子氏 |

謝辞

閉会のことば

主催者・来賓等あいさつ

文部科学省生涯学習政策局社会教育課
子ども学習活動企画係長

蒔 田 孝

皆さん、こんにちは。御紹介をいただきました文部科学省生涯学習政策局社会教育課の蒔田孝と申します。御紹介にございましたように、本事業は文部科学省の委託事業ということで、事業をお願いしている立場から、御挨拶を申し上げたいと存じます。

本日は、関東地区PTAの多くの皆様にご参加をいただきありがとうございます。日ごろ、皆様には各地域で子どもたちの健全育成のために熱心に取り組まれていることに、この場をお借りしまして、御礼を申し上げたいと存じます。また本研修会を実施するに当たりまして、前々から御準備をいただきました関係者の皆様にお礼を申し上げます。また、本日は基調講演等をいただく木原先生、パネリストの皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、現在の日本は、長引く経済の低迷や国際的な競争の激化、情報化社会の急激な進展等、めまぐるしく変化をしている時代となっています。子どもたちを取り巻く環境についても大変複雑化し、経済的な支援やメンタル面での支援を必要とする子どもたちが大変増えております。社会全体で、子どもたちを支えていく保護者はもちろんですが、学校や地域が一丸となって子どもたちを支えていくことが大切となっています。文部科学省として、家庭の状況に関わらず全ての意思ある子どもたちが安心して教育を受けることができるよう社会教育、社会全体で子どもたちを支えていく高等学校授業料無償化制度を今年四月からはじめているところです。そのほかにも子どもたちや若者が、社会人、職業人として自立していくことができるよう義務教育から高等学校そして高等教育に至るまで、社会人、職業人としての必要な能力を身につけ、勤労観、職業観の形成を手伝うことができるようキャリア教育の取組を進めているところです。先行き不透明な現代社会において、子どもたちにとって将来の目標を設定することや社

会人、職業人としての自立が困難になっているこの時期、加えて身近な人間関係づくりも非常に難しくなっている等、さまざまな問題を解決するためにも、このメンタル面でのケアを大切にすることが必要だと思います。本日の研修会は、全国高等学校PTA連合会が、数年来、力を入れてこられている子どもたちのメンタルヘルスについて取り上げてくださっています。まさに時節を得た取組です。本研修会は、先程御紹介があったように、平成22年度文部科学省の委託事業「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」という事業の一環として実施をされています。この事業について、簡単に説明をさせていただきたいと存じます。この事業は、地域課題を社会教育関係団体や地域住民の皆様と一緒に共同して解決していく、そのための効果的な手法を実証的な共同研究として行っていただき、地域の教育力の向上に向けて取組モデルを構築することをねらいとしています。具体的には、環境の問題、人権の問題、あるいは高齢者支援、今回の事業はそれに当たりますが、人材育成など様々な課題の分野について、全国で24か所、24団体に委託をして事業を行っていただいております。全国高等学校PTA連合会の事業はそのひとつに当たるものです。高校生のメンタルヘルスについて焦点を当て、高校生や保護者の皆様からアンケートを実施し、それを基に今回の研修会をひらいていただく。その研修会をひとつの手掛かりとして各学校や地域における子どもたちのメンタルヘルスを実際に向上していくための手法を、具体的な方法・プログラムを開発していただくことが大きなねらいとなります。本日のような研修会は、全国4か所で実施されていると伺っています。子どもたちを支援していく体制を、全国で構築していただくとともに、子供たちの健全育成にぜひ生かしてほしいと思っています。本事業で一番大切にさせていただきたいことは、本日の研修会の内容を、あるいは学んだこと

を御参加の皆さんが、学校、地域に持ち帰っていただき、実際に子どもたちのメンタルヘルスケアについての取組を実践していただきたい。それが一番の大きなねらいになります。PTAの皆様には、これまでも家庭と学校そして地域を繋ぐ大切な「要」として活躍をしていただいているところであり、今後も子どもたちの健全育成をとお

して地域の教育力の向上に是非お力を貸していただきたいと思います。

最後に本日の研修会を、ぜひ皆様にとって有意義なものとしていただくとともに、全国の高校生のメンタルヘルスあるいは健全育成のために御活用いただきたいと思っています。本日はよろしくお願いたします。

研修会（シンポジウム）

木原 雅子氏（京都大学大学院医学研究科准教授）

島田 正美氏（埼玉県立総合教育センター指導相談担当）

加賀満喜子氏（埼玉県立浦和東高等学校後援会会長）

足立 佳子氏（埼玉県立春日部高等学校養護教諭）



島田 皆さん、こんにちは。まだ木原先生の講演の余韻が残っている会場です。もう木原先生のお話で尽きているとは思いますが、今日のテーマがあります「子どもたちのメンタルヘルスと意欲」について、保護者や養護教諭の立場から、これまでの取組や課題などの御報告をいただき、時間にもよりますが、木原先生への御質問や私たちに対する御質問などを受け付けていきたいと思っています。それでは最初に浦和東高等学校の後援会長である加賀様の方から口火をきっていただければと思います。よろしくお願いたします。

加賀 こんにちは。浦和東高校の加賀です。それでは、浦和東高校での保護者の取組についてお話を3点ほどいたします。

昨年度、埼玉県高P連専門委員会の「家庭教育とPTA」で発表の場をいただきました。子どもと保護者を対象にアンケートをとりまして、その結果を掻い摘んで報告をさせていただきます。

まず、木原先生のお話にもあったのですが、学習面です。学習面としてはやや低い状況にありますが、部活動が盛んで、勉強も前向きに頑張っています。それを顧問や先生方がサポートして、とても子どもたちが良い関係にあります。浦和東高校はサッカーでは全国にも名の知れた学校です。あるサッカー部員の話ですが、1時間ほどかけて学校に来て朝練をし、夜遅く帰宅しながらも彼は学習意欲を失うことなく、勉強面でも頑張っていました。

次に、お弁当の持参のことです。きちんと朝食をとってくる子、それから弁当持参をする子は8割から9割です。

次に、親から言われて嬉しかったこと、悲しかったこと。「お前を生んで良かった」「勉強やいろいろなことに頑張っているね」「あなたがいるだけでいい」。逆に保護者が子どもに言われて嬉しかったことですが、「お母さん、私のために仕事頑張ってくれて、ありがとう」「いつも弁当ありがとう」。それが励みとなってお弁当を持っ

てくる子が多いのかと思います。

親に言われて悲しかったことですが、「おまえなんか産まなければよかった」「何の役にも立たない」等。やはり子どもたちは親の言葉かけひとつで、いろいろな場面での意欲の向上が図れるのではないかということを感じました。そんな事があり、去年の秋、啓蒙の一環として親の方も学ぼうではないかということで、親業訓練で、インストラクターの先生を招き、コミュニケーションの取り方、コミュニケーション術を学ぶ機会がありました。今年も学校に協力をいただき、お招きしました。ロールプレーで体験的な学習をしました。先生のお話の中で、「白いボールが飛んできたなら、白いボールのまま子どもに返してほしい」そんなキャッチボールをしてほしいというお話が印象的でありました。あと一つ、私も試してみたのですが、普段、子どもに対して命令調で、上からものを言ってしまうがちです。「あなたが駄目だから、あなたがうまくやらないから」と。常に子どもに対して、あなたを主語にして会話をとっていました。それを、「私を主語にして子どもと会話をとってみたらどうでしょうか」という先生のお話の中で、「私は、あなたがこうしたかったら、私はこう思う」「私だったら、こうする」と。すると、話が子どもに円滑に、やさしく伝えられるような気がしました。来年も保護者が学ぶ場を作っていきたいと思っています。

次にケータイの話ですが、10月半ばごろに1年生のあるクラスを対象に3日間ケータイの禁止をしました。おそらく学校の方で預かったと思います。それはもちろん保護者と子どもの理解を得て行ったものです。それで、子どもたちの感想です。

- ・自分がケータイ依存症であることがよくわかった
- ・無意識でケータイを触っていたが、無駄な時間がどれくらいあるかわかった。
- ・メールが来ないから、家族団欒ができた等々。

結果的には、いい方向にいらっていると思いました。今後子どもたちがケータイにどのように関わっていくかが課題です。

島田 ありがとうございます。続きまして春日

部高校の養護教諭、足立先生の方からお願いします。

足立 春日部高校の養護教諭の足立です。どうぞよろしくお願いいたします。

私の方からは二つお話をさせていただきます。一つは、今現在、春日部高校での生徒に対しての取組と、もう一つは、いろいろな生徒と接してきて、最近、昔の生徒と比べ、変わってきたと思うことを取り上げたいと思います。

まず、春日部高校ですが、男子高校の進学校です。校訓が質実剛健、文武両道という精神で、子どもたちは日々勉強と運動に励んでいます。ですが、なんといっても高校生です。頑張りすぎて、心と体が疲れてしまったり、両立に悩んだり、今3年生はもう受験に向けて頑張っているのですが、その受験の選択が正しかったのかとかいろいろな迷いや悩みを抱えています。生徒たちの特徴、持ち味を見ているのですが、なにか生徒たちは自分で何とかしなくてはいけない、自分で解決しなくてはいけないという思いをとっても強く持っていて、なかなか私たち教員がアプローチをするのが難しい感じです。彼らの何とかしなくてはとか、頑張るといふ彼らのプライドとか思いを大事にしながら、私どもは、一人で行き詰ったりしたら、私たちはあなたたちと一緒に考える用意はある、準備はしてあるという思いを時あるごとに生徒に伝えていきます。校内の教育相談という組織で支援、バックアップをしています。細やかに生徒に働きかけをしています。

次に、いろいろな悩みをあるいは問題を抱えたたくさんの方の生徒と接してきて、以前と違うと思うことが二つあります。まず一つが、先程木原先生のアンケートにもあったのですが、まったく生徒が自分を自分で認めていない、居場所が全くない、自分の悲しみとか苦しみとか怒りとか不安とかいう感情すらもいわゆる反抗することすらも表現できない。どういうふうにかこの子どもたちに接していくべきかと悩んでしまう子どもがいます。以前ですと、授業や学校では意欲がなくて、どうしたのかな、元気がないな、と思う子が放課後になると目を輝かせてグラウンドに走っていく姿や、学校ではデレーとしているけれど放課後はアルバ

イトで妙に張り切っていて店長さんからも頼りにされている子。彼らにもう少し勉強をしようとか、校則を守ろうとか、遅刻はしないようにとか指導することはあるのですが、どこかに生きるエネルギーを感じ取れ、私は安心してその子を支援できました。ところが、そういったものが全く感じられない。どうしたらいいだろう。この子にどう接したらいいのだろうか。悩んでしまう子が見受けられました。春日部高校以前の学校で感じたことです。

それともう一つは、前はリストカットにしても、摂食障害にしても、問題を抱えた生徒と私との関係でどうにか対応できましたが、やはり最近はその子のお母様の悩みとか苦しみとかの相談を一緒にしていく機会が増えてきました。で、保護者の方の相談活動も増えました。こういったことを受けまして、日々、保健室で生徒と接する上で心がけていることをいくつかお話させていただきます。まず、言葉というものをとても大切にしています。言葉づかいをひとつとっても、言葉を選び、言葉できちんと伝える努力をしています。ちょっと気恥ずかしいところもありますが、「あなたのことをこんなに心配しているのよ」とか「あなたにこう言われるととても悲しいよ」とか「あなたのことをとっても大好きだよ」と言っています。今までは、言わなくてもわかりあえていたと思うのですが、今は、言葉できちんと伝えなければいけないのではないかという思いになっています。正しい日本語で、生徒と同じレベルの言葉ではなく、伝えることを意識して仕事をしています。それと、以前は養護教諭一人で対応できていたのですが、今はもう組織で対応すべきだと思います。学校内であれば先生方との信頼関係、学校以外の医療機関の方々とのネットワークづくり、そういうものを意識して取り組んでいくべきかと思っています。とにかく、毎日、毎日、子どもをしっかり見ていって、その子が保健室に来た時に、いつもと違うとか、変だなと思うことができるように日々研鑽をしていく必要があると感じています。

島田 ありがとうございます。組織対応や先生の心がけなどをお話してくださいました。

それでは、私の方ですが、今、総合教育センターというところで電話相談を担当しています。これは、小学生から高校生までを対象にしています。もちろん、お子さん自身でも結構ですし、保護者も対象にしています。中身はいじめ、不登校、学校生活のいろいろな悩み、進路の問題、性格の問題いろいろなものに対応しています。昨年度のデータですと、圧倒的に多いのが友達関係とか、先生との関係とかで学校生活に関わるもの、続いて性格とか情緒とかに関わるもの、3つ目がしつけとか、養育等家庭環境に関わるもの、それから進路の問題というような順番になっています。電話の対応をしています、メール相談もやっています、これが最近増える傾向にあると感じています。電話はしたくない、できない、何を話したらよいかわからないから、というものです。先程のケータイのこともありましたが、かなりの回数、いわゆる友だち同士のメール交換は行われているとは思いますが、すぐに返事を欲しがめるメールが来ます。そうはいかないのです。1日に1回といったルールもあります。

それで、保護者の電話の向こう側に見える姿のようなものをお話させていただきます。これからお話することが一般的な保護者の姿とは捉えてはいいのですが、それから見られる大方の保護者も同様に感じている部分があるだろうと捉えています。いくつか御紹介します。他の人との比較をして、他の家の子とか隣の家はどうかとものすごく気になり、負けるな、負けるなと比較しているケースが多いのです。うちの子が良ければ優越感を持つし、うちの子がちょっと悪ければ嫉妬心を持つ。比較はしない方がいいですよと言っているのですが、そういうものがある。一番大きいのは、自信がないということでしょうね。たとえば、小遣いをいくらにしたらよいでしょうかとか、接し方がとにかくわからないとか。答えがすぐほしいというパターンが圧倒的に多いです。それから反面、答えを持っていて電話をかけてくる方もいます。つまり根拠にしたいとか、センターでこのように言われたとかで、ある程度確認をしたい。いろいろ聞きますと、いわゆる反抗期とか、独立期だから、本人に任せて、見守ってやったらどうですか、とひとつ提案するでしょう。そ

うすると、「それはやりました。でも駄目でした。」「それでは、こんなふうによったらどうですか。」「それもやりました。」次から次へといろいろなことをやって、そして電話をかけてくるというパターンもあります。多々やったとしても子どもの変化はすぐには出ません。けれども、お父さんやお母さんはイライラして「あんなに言っているのに、なんでこの子は」という発想になっています。じっくりとやらなければいけませんよということを、匿名の電話の相手に伝えなければならないのはなかなか難しいことです。それから、自分で判断できない。子どもが何を考えているのかわからない。子どもが怖いとも言っています。子どもの一言がズキンとくる。「殺すぞ」とか、「死ぬ」とかというような言葉を吐かれたときに、どういうふうになってしまうだろうかと不安を感じています。

それからお父さん、お母さんの教育方針の不一致が目立ちます。お母さん任せになっているケースが多いようです。壁になってくれないお父さん。不仲がなんとなく見え隠れするのですが、断定するわけにはいきません。

さきほど加賀会長さんがお話したように、キャッチボールで、白いボールは白いボールで返そう。心のキャッチボールです。子どもが「ただいま」と帰ってくる。「お帰り」と言って、抱きしめてやらないと。高校生では抱きしめませんが。それを「ただいま」ときたら、「宿題は?」と言ってぶちのめす。こういうドッジボールだとなかなか子どもはやる気にならないし、ホッとできないのです。

それから保護者同士の人間関係もあります。子どものけんかに保護者の親同士がけんかになる。あるいは、教師や学校への不満、不信感、苦情もあります。それから子どもの場合は友だちですね。友だちがいない。グループに入れない。これが相当ショックで、孤立感にさいなまれている。メールでは、「死にたい。生きる意味がわからない。必要とされていない」と送ってくる。居場所という言葉がありました。どこかに所属したいという気持ちはだれにでもあります。家庭の中にあればいいし、学校にもあればいいし、多数あればいいのだろう。最低一つは「私はここで良

いのだ。ここで役に立っているのだ。そういう自分が好きだ。」自己肯定感といえますか。プラスの自己概念みたいのものを持っていれば、あまり急な突然ことを起こしていかないのではないかと考えています。そのあたりが気になるところで。相談をしてどんなことを言っているかを1～2例お話をします。たとえば自己肯定感。童謡に「ぞうさん」があります。この作詞家のお話を聞いたことがあります。動物村でいじめがあった。象の鼻が長いと悪口を言われた。でも子どもの象は、母親の象に「お前は良い子だ。うちの子だよ。」と言われて、かわいく育てられました。だから、私はこれで良いのだという肯定した気持ちを持っている。「そうよ、母さんも長いよ」と言っている。つまり、お母さんと同じようにこういう特徴があるのだと。小さいときからの関わり方にもよるのですが、これは高校生になってもある程度通じる部分があるような気がします。そういう意味では、親と子の対話だとか、私メッセージと言って、私としてはこう思う、こんなことが気になるんだという言い方をする。あるいは、子どもに教えてもらうことです。高校生ですといろいろな知識とか技術を持っています。ですから子どもに頼ることです。子どもが、それでは教えてあげようというような気持ちを持つようになると思います。雑駁ですが、感じていることやポイントのあたりのことをお話させていただきました。

最後に、人間関係が衰えてきていますね。これを何とか回復していくことを私たちは考えていかなくてはいけないと思います。教育とかしつけとかそうですが、人と人との間で必ず行われるものです。真中にある高校生をわが子と捉えればよいと思います。保護者とどのように繋がっているのか。保護者は、お父さん、お母さんです。お父さんとお母さんの協力をどうするのかを含めてのことだと思います。先生とありますが、先生は学校にたくさんいます。そのところの連携をどんなふうにとると子どもが意欲的になるのかという視点で、いろいろな学校で苦労されているとは思いますが、今日のデータを基に各学校、各PTAで、各家庭でデータを子どもさんに見せて話題にしてほしい。そのようなことで拡げていったらど

うでしょうか。

島田 それでは、三名から取組や課題や思っていることなどお話をさせていただきました。皆様方から、今日の本原先生の御講演についての御質問、三名への御質問、御意見、御感想をいただければと思います。あるいは各学校の事例紹介などしていただけるとありがたいと思います。時間の都合で一人～二人で。

質問者 本原先生にお尋ねしたいのですが、本日の講演資料の7ページを拝見しますと、高校生のこの表の中に、部活をやっている割合が多いと思います。ところが20ページを見させていただきますと、友人との人間関係で、男子生徒は、心から信じている友人がいない、と出ています。私は、高校時代、部活をさんざんやっていました。この年になるまで友だちが非常に多いのですが、そういう傾向は薄れてきているのでしょうか。

木原 今回、提示したのは数値だけですので、実際どうなっているのかはわかりませんが、インタビューをさせていただいた中で感じることを申し上げます。それが一般化できるかどうかはわかりませんが、部活は先輩、後輩の関係がきちんとしていて、部活の中のまとまりが昔はあったような気がします。今もそういうものを保っている学校もあるかと思いますが、それが徐々に減ってきている感じがする。実際に部活仲間でも私の所にインタビューに来る子は同じ部活の子が来ます。下級生、上級生との関係はどうかなどいろいろなことを聞きますが、そのときに、上下関係があいまい。昔みたいな関係ではなく、和気あいあいというのでしょうか、むしろ1年生が一番威張っていて、逆関係になっていたり、部長さんが普通一番上について、みんなをまとめていくことがあったのですが、今、部長が他の人に言えなくて全部仕事を自分がかぶっているようなことがあります。なにか本音の、踏み込んだ会話が同じ部活の中でもできていないような場面に出くわすことがあります。部活の中での人間関係も以前とは変化してきているのではないかという気がします。

質問者 加賀さんの親業の訓練で、「インストラクター」と話されたのですが、どのような方でしょうか。イメージが湧かなくて。

加賀 アメリカの臨床心理学者トマス・ゴードン博士です。親子関係を改善し、温かく健全な家庭を築くということです。女性の先生で、先生もいろいろお子さんの悩みがあったことから勉強され、トレーニングされて、カウンセリング等の資格を取られたというお話を聞いております。専門的に、臨床的なことを学ばれた方です。カウンセリングが専門で、著書も出していらっしゃる、学校だけでなく、小規模のところでもお話をしているようです。

島田 私の方で追加のお話をさせていただきます。これは、ずいぶん前の話で、ある担任の先生の実践報告です。この子は、1年生に入ってきて、当初特別指導を受けます。2学期も特別指導を受けます。つまり繰り返しをする生徒に担任がどんな取組をしたかの紹介です。特別指導をすると、反省日誌とか1日の日課表を書くのですが、最後に次からはこういうことがないようにと書くのです。担任の先生は、口には出さないですが、3回目を心配し、どうしたらよいだろうかと考えました。その生徒は字が非常にきれいで、まめに書いていたそうです。文章は長くはありませんが。そこに、担任は気付いて、生徒に、日記でも何でもいから、このきれいな字を生かしてみたらどうだ、と投げかけたそうです。そうしたら生徒がやってみると言いました。先生と生徒のうまい関係ができていたのでしょうかね。だからといってこの生徒は、家庭での勉強はほとんどやったこともないし、机に向かうことなども1度もなかったのです。そして出来の良い兄といつも比較されて育ってきました。ですが、担任との関係で、「やってみる」と自分で決めたのです。自分で選んだのです。大学ノートに、毎日1ページずつ、2ページは書かない、新聞の社説でもいいし、試験が近くなったら教科書のまる写しでもいいし、英単語でもいい。始めて1日も欠かさず進級が決まるまで4、5ヶ月、毎日続けたそうです。どういうやり方をするかということ、朝、ショートホー

ムルームの時に担任にノートを提出する。それを、担任が見てコメントをする。最後のショートホームルームで渡す。そして生徒は家に帰って行く。多分最低1時間は机に座っていたであろうと推測されていて、土日を含めて、字の乱れなど一切なかった。毎日きちっとやっていたであろうと推測できます。こういうふう到现在まで勉強もしていなかったことが、自分でやると決めて、担任から認められて、担任の先生は自分のことを見てくれているなということを実感していくと、4、5ヶ月毎日続くのです。こういうのも、ひとつのやる気という意味での事例になると考えまして、御紹介しました。それでは、最後に木原先生のまとめとコメントをお願いいたします。

木原 島田先生のお話を聞かせていただき、メモを取らせていただきました。最後には拍手をさせていただきました。まとめをすることに相応しいかわかりませんが、先程皆様方が言われたことを、本当に、私が日々考えていることと全く同じで、同じところを見ていくようになるのかなと思います。共通点をたくさん感じました。島田先生がおっしゃった子どもたち本人がやるというこ

と、それを認めてくれる人がいる。このことをまさしく同じく感じております。いいところを誰かが見つけて、それを継続して見守ってくれる人がいると、子どもたちはどうにかなると思います。島田先生のおっしゃるとおりだと思いました。そして加賀会長さんのお話、足立先生のお話が、それぞれ異なるお立場から、とても長いいろいろな経験に裏付けられた貴重な御意見だったと思います。確かに人間環境は壊れかけていますが、私たち大人がその現状を今もう一度再認識して、それぞれの大人たちが意識的につなげて、子どもたちのセーフティネットを作れたらと願っています。セーフティネットの目が粗いと、子供たちは粗い目の間から落ちてしまいます。子どもたちが落ちた時にも救えるようなセーフティネットを作っていけたらと思っています。本日の私の講演、それから今のシンポジウムが、今日お集まりの皆様方のなんらかの取組のきっかけにでもなりましたら、私たち一同これ以上の喜びはないと思っています。どうも本当にありがとうございました。

島田 皆様どうもありがとうございました。以上でシンポジウムを閉じさせていただきます。

研修会開催地区報告

近畿地区（京都府）

「子どもたちのメンタルヘルスと学習意欲」 ～近年の学力低下の背景にあるもの、教わる？学ぶ？～

<日 時> 平成22年12月3日（金）13：00～16：30

<会 場> 京都府総合教育センター

<主 催> (社) 全国高等学校PTA連合会

<主 管> 近畿地区高等学校PTA連合会
京都府立高等学校PTA連合会

<後 援> 京都府教育委員会
京都市教育委員会
京都府公立高等学校長会

<日 程>

開会式

開会の言葉	近畿地区高等学校PTA連合会会長	小川 治彦
主催者挨拶	(社)全国高等学校PTA連合会副会長	相川 順子
来賓挨拶	京都府教育庁教育次長	宮野 文穂氏
	京都府公立高等学校長会会長	高畑 哲氏

基調講演

演 題 「してもらう」「させられる」から自分で生きる毎日へ
—高校生の現状と私たち大人にできること—
～ WYSH 教育の視点から～

講 師 京都大学大学院医学研究科准教授 木原 雅子氏

パネルディスカッション

コーディネーター

京都府立山城高等学校校長 北澤 和夫氏

パネリスト

京都府立南陽高等学校教諭 小畑 順二氏

京都府立京都すばる高等学校養護教諭 高田 芳美氏

京都府立高等学校PTA連合会副会長 橋本 博文氏

佛教大学4回生 奥田 隆嗣氏

京都教育大学4回生 小嶋 花絵氏

助言者

京都大学大学院医学研究科准教授 木原 雅子氏

閉会式

閉会の言葉 京都府立高等学校PTA連合会会長 卯瀧 俊明

パネルディスカッション

コーディネーター	北澤 和夫氏	(京都府立山城高等学校校長)
パネリスト	小畑 順二氏	(京都府立南陽高等学校 教諭)
	高田 芳美氏	(京都府立京都すばる高等学校 養護教諭)
	橋本 博文氏	(京都府立高等学校PTA連合会 副会長)
	奥田 隆嗣氏	(佛教大学 4回生)
	小嶋 花絵氏	(京都教育大学 4回生)
助言者	木原 雅子氏	(京都大学大学院医学研究科准教授)

北澤 皆さん、こんにちは。ただ今からパネルディスカッションを始めます。ここでは研修会のテーマであります「子どもたちのメンタルヘルスと学習意欲」を踏まえて、私たちが大人としてどう子どもたちに向かい合っていくかということを考えていく機会になればと考えています。

先程の基調講演で、現代の高校生を取り巻く現状とその背景にあります「人間関係」についてお話がありました。まずパネリストの方からそれぞれの立場で、高校生をどういう感じで受け止めておられるのかご発言願いたいと思います。



小畑 本校では、ほぼ毎日、自宅学習調査を行っております。先ほど木原先生から高校生の平均学習時間が35分というお話がありましたが、本校はもう少しだけ良いんですけれども、それでも、特に1年生は厳しい状況で「何故か?」と日々悩んでおります。また「目標が見つからず勉強しない。」「勉強が分からないからしない。」という報告もありましたが、わからなければ我々はなんと

しても、分かりやすく教えてあげないといけません。しかし、「我々に生徒が期待してくれている」というデータもありましたので「頼られているのが男子」というのが、ちょっとショックだったんですけれども…。なんか凄いグラフだなと思って拝見しておりました。

高田 私は「保健室から見た生徒」と言うことでお話をさせていただきたいと思います。本校は部活の加入率が高く、生徒たちは朝から放課後まで忙しい生活を送っています。他にも通学にかなり時間を費やす生徒、課題提出、レポート等に時間を費やしている生徒もいて、端から見ている「いつも何かに追われている」「忙しい生活をしている」というふうに感じています。

他には、他人の目を気にしてその場その場に合った自分を演じて自分の素を出せない生徒が多いように思います。

また、その中で「しんどい」と言って来室する生徒も「どんなふうにしんどいか」、「そしたらどういうふうにしたいか」と問いかけても、長い間黙り込んで自分の状況を伝えられない生徒がたくさんいます。

さらに、他人との適切な距離が持てずに、常に過剰反応して「良い子でないといけない」ということで自分自身しんどくなっている上、家でも「勉強しなさい、早くしなさい」と追い立てられてしまうので「自分の部屋にいても落ち着かなくてしんどい」と訴える生徒もいます。

あと、保護者に経済面、精神面で余裕がなくて

親の役割を果たせず、子どもの方が親の心配をしているというケースや、子どもの方は一生懸命親離れしようとしているのに、親の方が子離れができなくて、子どもが不適応に陥るというケースもあります。

いじめられた経験から人を信じることができなくなって、本音の自分が出せなくていつもニコニコしている。そうしていれば、どうにか周りとの関係が保てるということで無理をしている生徒もいます。

本校ではスクールカウンセラーの先生に相談するケースもかなり増えています。保健室に来る生徒を見ると「自分の言葉で、自分の状況や辛さが表現できない生徒」がどんどんと増えているのが現状です。



橋本 木原先生のお話の中にも「やる気がない」「意欲がない」というような言葉が出てきていたんですけども、親から見ても本当にそういうところが見て取れるんです。ところがそれを言葉で言うと、向こうが不機嫌になって会話にならない…というのがよくあるんです。一方でやる気のある子を見ていますと、部活であっても勉強であっても、何か目的があったりする子はどっかスイッチが入っている訳ですね。部活で苦しい練習を経て優勝したり、また結果は出なくても何か自分の心に自信が持てた子は、やっぱりやる気をもってやっているんです。

親としては自分の子どもの「どこにスイッチがあるのかな」と背中や頭のとっぺんを探すのですが、なかなか見つかりません。高校生くらいの子もってというのは何かのきっかけでぐっと変わって、ぐっと伸びる「可能性」はいっぱい持ってい

るはずだというふうに思っています。そういうことで、親はこのスイッチを見つけるために日々子どもと接していくのかなと思っています。

奥田 私は京都府の城陽高等学校の出身で、現在同校のサッカー部のスタッフ・コーチをさせていただいています。今の自分は、顧問の先生よりもかなり近い場所で生徒と接することがあります。多分、顧問の先生は分かっていないことやリアルな高校生の話とか、先程もありました恋愛であったり、ケータイであったり…。ケータイのことなんですが、逆に私は子どもたちとケータイを利用して悩みであったり、子どもたちが辞めそうになっている時などに、「本当はどういうふうに思っているのか」を聞いたり…。そうやっているとな今の高校生は、意外に自分の高校時代とあまり変わらない思いをもってクラブに取り組んでいるんだなと思います。

でも逆に感じるのが、子どもたちがサッカーをやめることになった時に、その仲間を他の仲間が引き留めないということが、とても気になっています。一緒に厳しいこととか苦しいことをやっている仲間が「おまえ、やめんなよ」っていうふうに引き留める光景がなかなか見られなくて…。仲間が引き留めるっていう場面がもっとあればいいのになって思います。

逆に「友達がやめるから私もやめる」という生徒もいますが、友達がやめるからやめるっていうのは、本当に自分が一生懸命やりたくてやっているのではないと思います。

小嶋 私は大学の2回生の時から児童養護施設でアルバイトをしています。その中で高校生とも関わっているんですけども、自分が以前経験したことだけで接していたのでは、今の子どもたちには届かないなっていう感じがします。やっぱり子どもたちもすごく変化しているんだなって、ひしひしと感じました。で、私が木原先生の講演の中で一番興味を持ったところは、「褒められる」と「叱られる」を同じ程度のバランスで受けた子が意欲があると聞いて、施設でも感じるんですけども、子どもたちはやはりダメなことをした時に叱ったり、また良いことや頑張ったことで褒めら

れたりすると、すごくキラキラすると言うか、とても意欲が湧いているなど感じる事が多くあります。

木原先生もおっしゃってましたように、少しずつでも子どもたちと関わっていく中で、子どもたちの本音の部分が見えてくるんじゃないかなって感じています。自分が本気で関われば相手も本気で関わってくれるっていうのを感じる事が多いです。子どもたちはイライラして大人に当たってくることもよくあるのですが、それを受け入れてもらえるという安心感がその子の成長につながっていくんじゃないかなと感じました。また、小さい時から認められるという経験がどれだけあるかというのがすごく大切なんじゃないかなと日々感じています。

北澤 ありがとうございます。今、それぞれの立場からいろいろと方向づけてお話いただきましたが、それぞれのパネリストの皆さんに共感するようなことがありましたら、伺っていききたいと思います。

小畑 先程、学習時間が伸びないっていう話をさせていただいたんですけども、我々も見方を変えないといけないと思ったことが一つあります。かつて私は「自分の部屋で勉強できない子はだめだ。」と信じていました。ところが最近そうでもないと思うようになってきました。勉強が得意・不得意にかかわらず、最近はもう自分の部屋では勉強しないみたいなんですね。そこで最近考え方を換えまして、勉強する場所はどこでもいいと。自分のしたい所で、自習室なり図書館なり、自分のやりたいところで集中して、学力が上がるところがよい場所だというふうに考えるようになりました。

北澤 ありがとうございます。先ほど小嶋さんから「大人が与える安心感」が大事なのではというお話もありましたので、今、パネリストの方々から出していただいたお話の背景や子どもを取り巻く環境について、もうちょっと踏み込んでお話を聞かせていただきたいと思います。

奥田 高校生たちと話をしている中で、次の日が朝早かろうが試合だろうが、夜に遊びに行っていたとか、ファミレスで友達と話をしていたとか、長電話してたとかというのを聞いたりもします。試合の日なども調子が悪いので、「昨日遅くまで遊んでたんか？」と聞きますとやはりそうだったということで、生活が整っていないということも多々聞きます。学習意欲という面でも、夜遅かったら学校でも眠たい、眠たいから授業受けられないっていう状況があるんじゃないかなと少し思います。



橋本 私は高校時代に野球をやっていたので、今も母校の野球の練習などによく行くんですけど、そこですごく感じることは、一人一人が自分ですごく大事なんですけど、相手のことにあまり強く踏み込まない。ミスがあったり、何かがあったりした時にでも、私の時代には「ダメやないか！」って言うってんですね。言うっていうのは逆に、自分がダメだったときには言われるんですね。そのことによってお互い向上していくことがあったんですけど、今は自分のテリトリーは侵されたくない、自分のこの範囲には入って来て欲しくないっていう意識がやっぱりあるように思うんです。自分を守りたい、他人に責められたくない、他人を責めない代わりに責められたくないから、なかなか自分と他の人間との距離感っていうのが測れなくなってきていると思うんですよね。

だから、どこが悪くて負けたのかという分析にはなかなか結びついていけないので、せっかくやったゲームの貴重な経験を次の糧として活かしていけないようです。やはり勝つとやる気も出てくるので、向上心とか目的意識というのにつながるんですけど、そこにつながっていかないの、最

終的にはやっぱり自分を守り過ぎなのかなと思います。

北澤 学習のこともあるんですけど、人間関係の事に絞っていきましょうか。人と人の関係で、踏み込まない、また会話が絡まない、あるいは絡もうとしないというのがありましたけれども、その辺りどうですか？

高田 木原先生の調査の結果からもケータイの使用状況と意欲の無さの関係が出ていたのですが、ケータイの「書き込み」で誰が書いているかわからないけれども、知らない間に自分のことが書かれていて、それをまわりの誰かから「こんなこと書いてあったけど、もしかしてあなたのことじゃない？」って言われる。それで傷ついてしまって、持っていく場がなくて、すごく悩んでいる生徒がいます。それに関しては「ケータイを見ない」ということでしかなか解決できないですけど、やっぱり不安で見てしまって…その連鎖から抜け出られなくてしんどくなる生徒が多いなっていう感じがします。

また人間関係ということでは、常に他者の評価を気にしているっていうか、自分に自信がない子が多いので人にどう思われているか気にするあまり、がんばり過ぎてしんどくなって不安を訴える生徒がいることがすごく気になります。他には話をするのが怖い、何をしゃべっていいかわからないので、生身の人間じゃなくてパソコンやケータイで自分のことを知られていない人しか会話ができない状況まであります。ケータイの普及に関しては止めることはできないですが、それを上手に使いこなすことができないとしんどいなっていうふうに感じています。

北澤 どうなんでしょうね…。子どもたちは演じているっていうこと、うまく表現できないけれど認めてもらいたいということ、孤独だけれどそこから踏み出せないというお話になっていると思うのですが、その背景をどのように捉えておられるのでしょうか。

小畑 先程の調査結果によりますと、普段無愛想

な男の子が実はかまって欲しいということなんですけども、その辺りは私も非常に実感するところなんです。私の息子はもう大学生なんですけども、高校時代は進路について「どう考えてんねや？」と聞くと「別に…」っていう答えしか返ってこなかったんです。今思うと、自分としては踏み込めていなかったな…という反省をすごく持っていますので、さっきのグラフで「特に男子がかまってほしい」という点が衝撃的だったんですけども、我々はちょっと見落としがちになっていたのかもしれない。今後、今いる生徒に向かってはそういうことがないようにしたいなと思っているところです。



北澤 木原先生、先程のアンケートも含めて、高校生にもたくさん接しておられるようですが、高校生からはどんな言葉が返ってくるのでしょうか？

木原 高校生の言葉の中で一番印象に残っているとか違和感のある言葉が一つあるんですけども、高校生で好きな人ができたといいますよね。そうすると、好きな人ができて交際をはじめると、本当は信頼できる親密な関係になる訳じゃないですか。その時に一番高校生たちが困っていたのが「間が持たないこと」っていうんです。私はそれがものすごく不思議で。好きな人と一緒にいるのに何で間が持たないんだろうって。

北澤 そうですか。若い世代の方ですとリアルに感じられるのかもしれませんが、その辺りどのように感じてらっしゃいますか？

小嶋 高校時代にお付き合いをした時には、自分の友達に相談したり、相手の男の子も男友達に相談したりして、その二人の関係というのは親密になってはいないんじゃないかなとすごく感じました。

高校生ってすごく周りに影響されやすいので、少しでも周りから何か噂がたったら嫌だし、すごく周りの目を気にして毎日毎日生活しているように感じます。それは大人になっていくうちに改善されていくのかなと思うんですけど、でもそれもやっぱり、いろんな人との関わりの中で変わっていくと思うので、高校生のうちはたくさんの人と関わるのが大事なのかなと思います。自分を認めてくれないとか、自分と合わない人とも関わることで学べることもあると思うし、誰かとぶつかってそこから自分が成長できる場面もあると思うのですが、そういった関わりがすごく少なくなっていて、無難に無難に生きて行こうっていう風潮にあるんじゃないかなと私は感じました。

奥田 私も高校の時はいろんな人とお付き合いさせてもらったし。今はお付き合いしている人は…

私は恋人と二人でいて間が持たないということはずまずないんです。それは私がかかなりおしゃべりだからですが、逆にまったくしゃべらない状況でもいいと思うんです。部屋で二人でいて、黙っている状況というか黙っていてもいいんじゃないかな、そういう友達や彼女がいてもいいと思うんです。

でも今の高校生は、なにかしゃべらなあかんとか、なんかあいつのこと気にしてなあかんとか思い過ぎてるとちがうかなと思います。本当に、相手が何を考えていようがいかなくなって思うくらいいい人間関係を作ればいいと思いますし、小嶋さんも先程おっしゃっていたように、相手がどう思っているか自分のことを気にしすぎていうのもありますし、人と多く関わることでいっぱいいろんな道っていうのが見えてくると思います。私も実際いろんな友達ともぶつかったし、昔の友達で今は話さなくなった人もいますし、そういった経験からいろいろと学ぶこともいっぱいありました。大学生になってからでも友達をなくしたこともありますし、そういった経験というのは失敗で

あっても大事だと思うので、高校生のうちは人と関わることにチャレンジすることが大切じゃないかなと思います。

北澤 ちょっと私から質問を投げかけたいと思うんですが、一つは今の「人と人の関係」で、子どもたちの一番ストレスになっていることって何だろうか、もう一つは、ストレスでメンタルヘルスが損なわれるのは、例えば受験勉強とかでは、チャレンジしていく時の心の負担みたいなものがありますが、それを乗り越えた先に達成感とか喜びみたいな何かがあるような気がして頑張れるかな…と。でも今の子どものストレスというのはそれと同じなんだろうかな…と。先程の木原先生の講演を聴いていて違うような気がするのです。不安とか進路が見えない、目標がない、何も勉強する気が起きないという言葉になったんですけども。そこにあるストレスというのをもうちょっと考えてみたいと思います。

小畑 やはり受験のストレスは今も昔もあまり変わっていないと思います。特に3年生の今頃は精神的に非常に不安定な時だと思いますし、ついはいやく決めたいということで、推薦入試の割合が非常に高くなってきているのもそういった辺りかなと思います。

北澤 やはりそうすると、人と人の関係におけるストレスということですか…？

小畑 そっちは昔より大きいんじゃないかと思います。今は、どうしても個人に走ってしまう生徒の割合が多い気がしますので、教育次長のお話にあったように「包み込まれている感覚」を何とか味わわせてあげたいと思っています。

高田 小さいときからの人間関係というかコミュニケーションの不足というか、そういう訓練ができていなくて、何かにチャレンジして乗り越えられた達成感が味わえていない生徒が多いのかなと思います。自分が大事でかわいくて傷つきたくないの、チャレンジしないのかもしれない。私も中1と高1の男の子の母なんですけれども、つ

いつい「転ばぬ先の杖」みたいな形で口を出してしまうことがあるので、他の家庭でもそういうことが多いのかなという気がします。

橋本 本人が自分をさらけ出さずにいると思うんですね、今。批判されてもなんであっても、「自分はこうなんだ」とありのままの自分を周りに出してしまえば、周りに合わせなくても済むと思うんです。でも、Aさんとの付き合いでは自分のこの部分を見せてお付き合いをする、Bさんとはこっちの部分でお付き合いするってやっていると、すごく疲れると思うんですね。今の子は自分が傷付きたくないから本当の自分をさらけ出すことができなく、それが逆にいろんなことで結局自分が傷つくようなことになって、それがストレスにつながっているように私は思うんです。

北澤 ありがとうございます。人間は傷付かなあきませんね。私も自分の子どもたちと落ち着いて話す場合「まあそこ座れや」って言うんですけど、なんかこっちが遠慮してしまっただけ、絡みにくいんですよね。学校でもそうなんですけど、問い詰めると「意味不明…」なんて言われますよね。もうそこでシャットアウトされる感がある。

では、子どもたちには「自分で生きていく」「意欲を持って自分の力で生きていって欲しい」という私たちの願いがありますが、子どもたちのことを考えるとこれからどういった環境を設けていくのが望ましいのか、どのように関わっていけば良いのかということで、最後にご発言いただきたい締めたいと思います。

小嶋 自分が高校生の時に、親と真剣な話をする時はすごく話しにくかったり、本当のことが言えなかったりする場面もあったと思うんですけど、やはり日頃から他愛のない会話をする中でサインが見つかったりということもあるんじゃないかなと私は思います。自分が本気で関わることをしないと、相手も本気で関わることはしないと思いますし、自分が相手に「自分は本気だ」とか「本音だよ」とか伝えていくことを地道に積み重ねることがすごく大事なんじゃないかなって思い

ます。高校生も忙しくなっているから、少しでも意識的に時間を取って関わっていくことが大切なんじゃないかと思います。聞くだけでも良いと思うので、叱ったり褒めたりじゃなくても、受け入れるってことがすごく大事なことだなと感じました。



奥田 私は両親から「勉強しろ」と言われたことがなくて、本当に自分でも小学校の時から勉強した記憶がありません。確かに学校では普通に勉強してましたが、家に帰ってからは本当にしてませんでした。で、親に「勉強しろ」と言われたことがない反面、私はサッカーが好きなんですけど、好きなことに関しては両親から「自分の気が済むまで取り組み」「自分の好きなことに関しては誰にも負けるな」というふうに育てられてきました。

本当に自分が好きなこと、興味あることが見つけられているのは本当に幸せだと思いますし、それを両親が応援してくれて、それが今の自分になっているんじゃないかなと思います。人はやっぱり好きなことで、目標が立てられると思うんです。目標に向かうためには勉強せざるをえないし、そういったことが学習意欲につながるんじゃないかなと思います。目標が無ければ「なんで勉強する意味があるんや」って、さっき先生の話にもあったと思いますが、ほんとその通りだと思います。

私は「学校の先生」という夢ができた時点で「明日何せなあかんのやろ」「じゃあどこの大学にいかなあかんのやろ」というふうに進路への意欲が湧いてきたので、そういった面ですら好きなこととか、熱中できることとかを見つけてあげら

れるサポートをやっていけたらなって思います。私もサッカーを通じてなんですが、いろんな人と関わって、良いところも悪いところも見て、自分自身を見つめて、自分はどんな人間なのか、どういうところが良くて、どういうところが悪いのかというのを見つめることで、自分を考える時間を作るようになりました。そして、子どもたちと関わっていく中で「褒めること」が大切だと感じました。褒められて悪い気がする人はいないと思いますし、逆に本当に相手のことを思えば嫌われても「ダメなことはダメだ!」と言ってあげることとても大切なんじゃないかと思います。

そして、私は「礼儀」と「出会い」と「経験」を大事にしています。「礼儀」というのは「ありがとう」「ごめんなさい」そして「挨拶」、そういったことが人間関係、コミュニケーションにつながってくると思いますし、そこでの「出会い」も大切にしたいと思います。あと、いろんな場所で、私がこういったパネラーをしているのも一つの経験だと思いますし、そういったことも自分の成長につながるのかなと思います。



北澤 ありがとうございます。たいへん前向きなお話で嬉しくなってきましたね。若いお二人から真摯なご意見をいただきましたけれど、親としての立場で橋本さん、お願いします。

橋本 学年懇談会でよくお母様方から「ぜんぜん勉強せえへんのですけれど、先生、どうしたらいいんでしょうか…?」という声が出ると、先生は「子どもさん分かってはるから、勉強せえっていうたらあきませんで…」と言われるんですけども、今の奥田さんの話を聞いていますと、「勉強



せえっ!」って言わなくても、これだけ立派になってくれるんやなって。もうこれで今日から絶対言わんとこって心に決めました。

ただ我々の世代で止めてしまっただけはいけないこともたくさんあるはずですので、上の世代から引き継いできたものを耳障りな言葉であっても子どもに伝えていく、これは本当に大切なことやと思っています。ただ、耳障りなことを面と向かって言うとプイと横向いてしまうので、言うタイミングとかを考えながら「なんでこんなに子どもに気を遣わなあかんねんやろ…」って思うこともあるんですが。でもやっぱり大事なことを伝えていこうとするからには、いわゆる楽な方法はないというか、親も工夫して大切なことを伝えてやっていかないなあかんのやな、ということも思っています。

高田 いつも保健室では、まずは「聞く」ということを大切にしています。これからも生徒の目を見て、寄り添って、見守って、やはり自己肯定感がかなり低い生徒が多いので、それを高められるような支援をしていきたいということと、生きるためには目標設定をする力であったりとか、自己管理をする力であったりとか、問題解決をする力が必要ですので、そういう面についても高められるようにしていきたいと思います。

小畑 私は進路指導部長という立場で生徒との接点が少ないので、最近では掃除の時間にいろんな生徒とコンタクトをとるようにしています。それから社会のノートを集める時に、必ず何かコメントを書いてもらって、それをきっかけにもう少し深い話ができるようになりたいということで、あ

の手この手で生徒と関わっていきたいなと思ってます。今日、木原先生のお話の中で一番印象に残ったのが、「手間がかかって当たり前」という言葉です。どうもありがとうございました。

北澤 ありがとうございました。

学校では特に生徒指導でせめぎ合いの場面があります。まさにその揉まれる、揉む場面で私も校長として譲れないところがあり「せめぎ合いの場面一つ一つを大切にしていく」ということで、また明日から学校で生徒と向き合っていきたいなと思います。

ということで終わりに近づいてきました。皆さんには今日のお話を持ち帰っていただいて、子どもたちに温かい眼差しを向けて向かい合っていたいただきたいと思います。

では最後に木原先生から御助言をいただいて、この会を締めさせていただきます。

木原 最後の助言とかとっても苦手なんですけれども、私も保護者の一人として思うことを話させていただきます。

何故かわからないんですけども、子どもが話かけてくる時っていうのは、こちらが一番忙しい時なんです。でもこちらが家事も全部終わらせて聞く気満々の時は「どう？」って聞くと「別に…」

だけで消えられるんですよ。だから向こうが話したいタイミングの時に、我慢してでも一生懸命聞くっていうのがすごく大切だなって思いました。

もう一つは、「どうしたら良いと思う？」って聞かれると、こちらは忙しいのでその問いに答えてしまうことです。本当なら「あなたはどうしたいの？」って聞き返さないといけない、向こうの考えていることを聞かなきゃいけないのに、答を言うってしまうので会話は3、4分で終わってしまいます。ひたすら聞くっていうのが、もしかしたら親の仕事かな…と思いました。それを踏み台にして子どもは成長するんじゃないかなって思います。技術とかは何も要らないです。ひたすら忍耐力だけです。ですからきっと誰にでもできることです。多分それを子どもたちは一番求めているんじゃないかなって思います。

北澤 ありがとうございました。

皆さま、いかがだったでしょうか？ 本日は本当に熱心に聞いていただいてありがとうございました。短い時間ではございましたけど、また今後も子どもたちを励まして、見守って、叱って、しっかり育てて行ってほしいと願っています。

木原先生、パネリストの皆様、ありがとうございました。



平成22年度 研修会（シンポジウム） 参加者アンケート

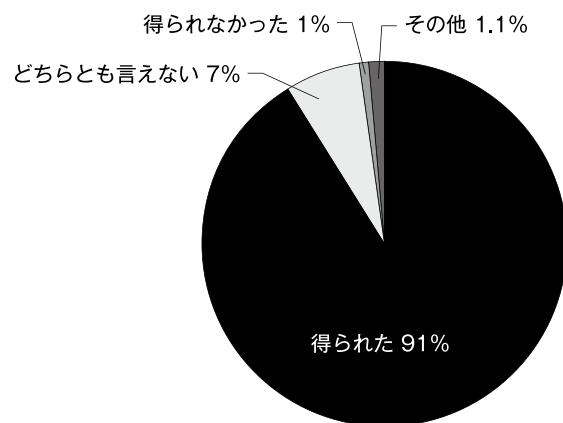
*開催地区…埼玉県・新潟県・京都府・鹿児島県

*アンケート回収数…784

*参加者数…1456

1 子どもたちのメンタルヘルスについてのヒントが得られたか

1 得られた	702	91%
2 どちらとも言えない	51	7%
3 得られなかった	7	1%
4 その他	10	1.1%



1 「得られた」の記述内容

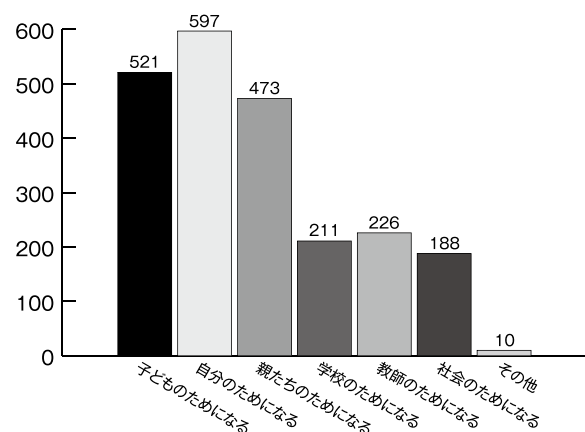
- ・子ども一人一人のことを考え、一緒に喜びを分かち合って生きたい。
- ・親に見せない子どもの顔をみた思い。今を一所懸命に考え、答えを出そうとしているのだと思う。
- ・子ども達はやっぱり純粋であると改めて思った。また、学習したいという意識を持っていると思った。

- ・これからの子ども達の接し方を大切にしたい。
- ・命を守ることにについて再認識させられました。
- ・親の意識で子どもも変わってくるのだと思った。
- ・自分の子どもが今どのような気持ちでいるのか考える機会になった。
- ・私たち大人にできること、本気がかかわりやる気をもつこと！頑張っていきたい。

他

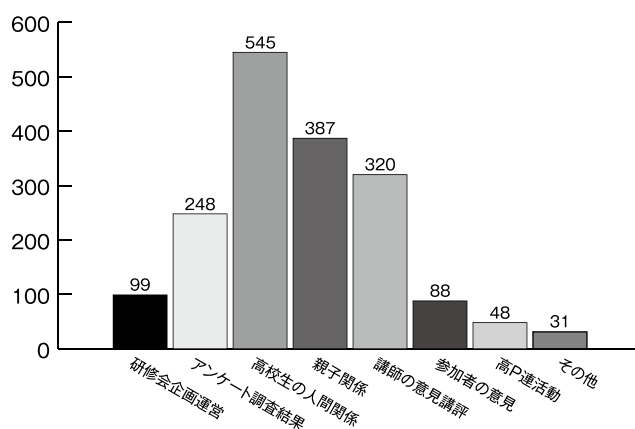
2 役立つことがあったか（複数回答）

1 子どものためになる	521
2 自分のためになる	597
3 親たちのためになる	473
4 学校のためになる	211
5 教師のためになる	226
6 社会のためになる	188
7 その他	10



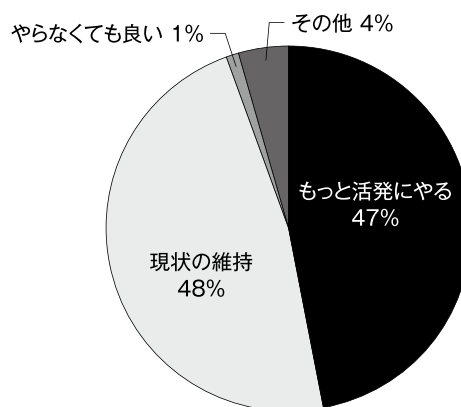
3 参加して良かったことは何か（複数回答）

1	研修会企画運営	99
2	アンケート調査結果	248
3	高校生の人間関係	545
4	親子関係	387
5	講師の意見講評	320
6	参加者の意見	88
7	高P連活動	48
8	その他	31



4 今後の活動について

項目	回答数	%	
1	もっと活発にやる	347	47%
2	現状の継続	349	48%
3	やらなくても良い	9	1%
4	その他	31	4%



5 講師等への意見

- ・木原先生良いお話しをしていただきありがとうございます。今子ども達がどのように考え悩んでいるのか、真剣に考えていることがわかりました。見張るのではなく見守りたいと思います。
- ・木原先生の講演は、小学生をもつ私にとって気付かされる問題が多々あり、子どもの係わりを考え直す良い機会になった。
- ・木原先生のお話で涙が出ました。大学生になった子ども達にも、もう1度頭を下げ、やり直したい気持ちになりました。これからも忍耐強い見守りを忘れないように親として頑張りたい。
- ・木原先生のデータ収集からの一連の取り組みは

素晴らしいですね。感心することばかりですが、先生の枠にとらわれない、決めつけない、子ども達に対しての器の大きさに感動しました。ビデオの2本目に出て来た生徒さん達は衝撃的でしたが、先生の授業を受けていくうち、自分の考えを発表できることができるようになっていきました。私も先生と同じように子ども達に笑顔があふれるようにしていきたいです。

- ・木原先生の講演はとても感銘を受けました。持ち帰り伝えたいと思います。いろいろの立場のパネリストの方々の経験を通してのお話しは説得力があり、共感するところ、気付かされるこ

とが多く大満足です。

- ・木原講師の講演は、とても感動しました。子ども達の心の内をみられた気がします。思春期の大切な時期を親自らが意識し、子どもとかかわっていくこと。親が変われば子どもも変わる。親のすべてを子どもを受け入れているのだと、子ども達が待っていることを知りました。パネリストの方々も、楽しい話、自らの体験等リアルでとても、参考になりました。親であることに、親になれたことにあらためて感動しました。子どもに感謝です。
- ・木原先生の講演はとても胸にせまるものがあり、ふと立ち止まって考えさせられました。親とは何か、今の子どもを真剣に考えているのか？よいきっかけになりました。
- ・木原先生の講演は全国大会でも聴かせていただきましたがとても良かったです。「守る」のVTRは涙が出ます。何回見ても心に響くものがあり、もっとたくさんの方に見ていただきたいと思わずにはられません。
- ・木原先生の本気を大切に子育てをしていきたいと思えます。高校よりも中学生・小学生及びその先生達にビデオを見せてあげたいと思いました。
- ・講師の“子ども達に伝えたい”という一生懸命な気持ちが伝わって涙がでました。我が子にこのような出会いがあることを願っています。
- ・高校生の「意欲のなさ」「将来の目標・夢のなさ」を実感しています。是非本校でも講演してください。(複数あり)
- ・久しぶりに感動した講演でした。このような講演を全ての学校でしてもらい、全ての親子に聞かせていただけたらと思っています。
- ・高校生の実態が数値に表れわかりやすい話でよかったです。
- ・皆様のお話、自分自身の考えと同じであったり、「あっ」と思えることだったり新たな発見をしました。ありがとうございました。私は「自分自身を見失うな！」これをいつも心にいろいろな方と接し、いいことを見つけるようにしていきます。
- ・素晴らしい話しを聞く事ができ感謝しています。子どもに接する態度など、考えさせられる

ことが多々ありました。今日のことを少しでも子育てに生かしていきたいです。

- ・改めて、自分の子育てについて考えさせられました。共感できる話しに少し涙が出たり、人との繋がりが大事であることを、これからの自分自身の子育てにおいて役に立てていきたいと思えます。
- ・生きる力は学校や地域はもとより、いろいろな場面で繋がっていると思いました。
- ・皆さん本音でお話しくださり、どこの家庭もいろいろな生き方があるのだなと、改めて感じた。良い時間を過ごすことができました。
- ・人との繋がりの大切さを改めて感じました。PTA活動を通じて繋がろうとして、面倒だからなくていいという言葉にめげそうになりますが、この会を通じて人は人と繋がりたいのだということを確認しました。
- ・目標を親子で持てるよう、子どもと話しをし、励まし合いながら生きていきたいと感じました。
- ・感動しました。いろいろ考えさせられました。私にとってもいい転機のきっかけになりそうです。ありがとうございました。
- ・子どもの本音・考えが見えた気がします。
- ・いろいろな立場の話しが聞けて、興味深くときを過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・「わかるわかる」と思ったり、「できていないなー」と反省したり「うちの子も…」と共感したり…ありがとうございました。
- ・皆様のプライベートのことなどを話されて、自分もがんばれるかなと思いました。
- ・身近な話題で共感でき、とても勉強になりました。自分自身の子育て、そして学童保育で接する子ども達とのかかわりの中で活かしていきたいと思えます。
- ・大変良い話しを聞くことができました。大きな力はありませんが、まずは家庭から。悩みはいろいろありますが、今日の話しを参考にやっついこうと思えました。他と比べず、見守る。大切ですね。
- ・とても役立つお話しを聞いて、今とっても悩んでいらっしゃる方々が聞いていらっしゃる、何よりも力・パワーをもらって元気になら

れる方が救われると思います。

- ・私は子どもの頃、学校に行きたくないなどなかったし、親も熱があっても学校は休むなという人だったので休んだことはありませんが、今日の話で、学校に行きたくない、じゃ休めばと

いうやりとりを聞き、反対にそれでいいのと反感を持ちました。子どもの頃は突き放すようなやり方ではなく、何故なのかを早いうちから聞き出し解決してあげる方がいいのではないのでしょうか。

6 高等学校のPTA活動に対する意見

- ・これからもこのような研修を多く開催してもらいたいと思います。(複数) また、毎年続けてほしいです。(複数)
- ・もっとたくさんの方に参加していただきたいので、もっと回数が増えたらありがたいです
- ・各学校をまわって、このような研修会などを広めてほしいです。親が学校に出向いて、子どもの頑張っている姿を見てほしいと思います。
- ・子ども達に「生きる力」を育てることにPTAとして積極的にかかわっていきたい。
- ・「子育て」というテーマで親は繋がっているし、親は学びあうことができる。高校生に対しても「親育て」というテーマで協議する機会があればおもしろいと思います。
- ・キャリア教育について、校種をこえたプログラムをお願いしたいと思います。
- ・「組織が人を守る」そんなセリフを大きな声で叫べるPTAでありたいですね。
- ・役員をしないと、このような研修会があること

を知らないと思います。役員だけでなく他の方にもこのような会があることを知っていただきたいし、もっとたくさんの方に、このような素晴らしいお話を聞かせてあげたいと思いました。(複数) → (単位PTAには広報していますが、旅費予算の関係で役員どまりになっているところが多いようです。(事務局))

- ・生徒達に、親も研修会に参加したりして、子を理解しようとしていること、またいろいろ頑張っていることを知ってほしいと思いました。
- ・中学生の親です。高校にはPTA活動はないのではと思っていましたが、こんなに中身の濃い研修会があり嬉しく思いました。
- ・今後も小・中学校のPTAにも参加させていただければ、とてもよい勉強になります。経験した人の話しは大変参考になります。→ (小・中学校の保護者約50名程度も参加しています。(事務局))

モデルケースとしてのリーダー報告

本事業では全国で実施したアンケート調査を基に、子どもたちの現在をとらえ、大人たちがどのように支援していけるかを考えるために、地区事の研修会を開催し、得られた情報を県レベルのリーダー、単位PTAレベルでのリーダーを仕立てて、各学校のPTAまで情報を伝達するという提案を行った。その様子を平成22年12月までに県レベル、単位PTAレベルで実施した例の中で、本報告書の入稿時点でのモデルケースを紹介する。

例を挙げると、埼玉県では、PTA役員が講師となって学校の教員研修会において教員に伝達講習したケースである。また、県内PTA会員ひとり一人に対する周知の手法として、福井県高等学校PTA連合会報「福井県高P連会報」の抜粋を紹介した。

単位PTAレベルの研修会は多くが2月に実施するために、本報告書に掲載できないことは残念である。



岐阜県高等学校PTA連合会 第26回「PTフォーラム大会」

「子どもたちの人間力を向上させるためのPTA活動の在り方」

<日 時> 平成22年11月5日（金）13：00～

<会 場> 県民文化ホール未来会館 長良川ホール 岐阜市学園町3-42

<主 催> 岐阜県高等学校PTA連合会

<次 第>

開会式

- | | | | |
|---|-------------------|--------|----------------|
| 1 | 開会の言葉 | 片桐 史朗 | 副会長 |
| 2 | 岐阜県高等学校PTA連合会会長挨拶 | 日比野 淳治 | 会長 |
| 3 | 感謝状贈呈 岐阜県教育委員会 | 林 俊彦 | 教育次長 |
| 4 | 来賓祝辞 岐阜県教育委員会 | 林 俊彦 | 教育次長 |
| | 岐阜県高等学校長協会 | 田村 弘司 | 会長 |
| 5 | 来賓紹介 岐阜県教育委員会 | 林 俊彦 | 教育次長 |
| | 岐阜県高等学校長協会 | 田村 弘司 | 会長 |
| | 岐阜県高等学校安全振興会 | 嶋崎 吉弘 | 理事長 |
| | 岐阜県教育委員会 | 鍋島 寿 | 社会教育文化課課長 |
| | 岐阜県教育委員会 | 加納 博明 | 社会教育文化課社会教育対策監 |

安全振興会25周年記念品の贈呈

- | | | | |
|---|--------------------|-------|-----|
| 1 | 理事長挨拶 岐阜県高等学校安全振興会 | 嶋崎 吉弘 | 理事長 |
| 2 | 記念品贈呈 岐阜県高等学校安全振興会 | 嶋崎 吉弘 | 理事長 |
| 3 | 謝辞 岐阜県高等学校長協会 | 田村 弘司 | 会長 |

実践発表

- | | | | |
|---|------------|-------|----|
| 1 | 羽島北高等学校PTA | 青木 義昌 | 会長 |
| 2 | 大垣南高等学校育友会 | 森 照雄 | 会長 |
| 3 | 加茂高等学校PTA | 伊佐治 貢 | 会長 |

質疑及び全体討議

パネルディスカッション

コーディネーター 日比野 淳治 会長

- | | | | |
|-------|------------|-------|----------------|
| パネリスト | 羽島北高等学校PTA | 青木 義昌 | 会長 |
| | 大垣南高等学校育友会 | 森 照雄 | 会長 |
| | 加茂高等学校PTA | 伊佐治 貢 | 会長 |
| | 岐阜県教育委員会 | 加納 博明 | 社会教育文化課社会教育対策監 |

閉会の言葉

奥村 晴二 副会長

子供とのコミュニケーションと 学習意欲—まとめ—

岐阜県高等学校
PTA連合会会長

日比野 淳 治

さて、この場をお借りしまして、今年の全国高P連の健全育成事業の一つをご報告させていただきたいと思えます。先頃、文科省の委託事業でもある「子どもたちのメンタルヘルスと学習意欲」について、岐阜県内5校を含む全国9地区各5校の都合45校の2年生3439人の生徒さんと、2492人の保護者の方を対象にアンケートが実施されました。

その中で、家庭での学習を全くしない生徒の割合が昨年度の調査では50%と聞いて驚いていたのですが、今年は60%に増えておりました。

学習時間に現れる子どもたちの学習意欲の低下の背景を探るべく、学習意欲と自己肯定感や規範意識、信頼関係、問題解決力の関係を見ると、明らかに比例関係があり、学習意欲の高い生徒は自己肯定感や規範意識、共感性も高いことが分かりました。

本日はまさに規範社会意識、学習意欲、メンタルヘルスの3つの要素を関連付けて考える良い機会ではないかと思えます。

また、今年は先ほどのアンケートで保護者にも回答いただいております、学習意欲と親子のコミュニケーションの関係もみることができました。

まず、自己肯定感があると答えた保護者は90%に対し生徒が6%で、規範意識や社会性があると答えた保護者は80%に対し生徒が20~30%と、親の意識は高いのですが、子供にはあまり反映されていないというギャップがありました。

一方で親子関係のコミュニケーションで見ると「親から同じ程度に褒められたり、叱られたりした」、「褒められることが多かった」と答える子ほど学習意欲が高く、学習意欲が低くなるにつれ「叱られることが多かった」、そして一番意欲が低いゾーンは「褒められることも、叱られることもない」という結果でした。

この自己肯定感や規範意識の親子のギャップや学習意欲と親子の関わり方の関連性を見ると、も

しかしたら子供の耳障りなことを親は避けていないだろうか？或いは、親として「本気の関わり」がどれほどできているだろうか？と、親子のコミュニケーションと学習意欲への影響についても考えさせられる結果でした。

最後に、子供たちに聞いたアンケートの中で、「辛いことは何か？」の質問に1位は勉強が分からないこと。2位は将来の進路が決められないこととありました。先ほどの60%の子供の家庭学習時間がゼロという学習意欲の低下傾向と密接な関係があると思えますが、やはり、学習意欲のモチベーションというのは「知る」・「分かる」・「できる」という学ぶことそのものにある喜びや、何のために勉強するか目的意識とは切っても切り離せないものであることを物語っていると思えます。子供たちは親から愛情たっぷりに本気で関わられれば、表面的には一時的に「うざい」といわれるかもしれませんが、内面的には自分は大事にされている、自分には存在価値があると感じ、自分の将来や自分の役割に対して責任と自立心が芽生えてくるのではないのでしょうか？そして、何のために勉強するのか目的意識も明確になっていくのではないかと思えます。

本日の研修会が皆様の今後のPTA活動にとりまして実りあるものになることを祈念しまして、結びの挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。



京都府立高等学校PTA連合会 理事研修会

平成22年度文部科学省委託事業 (社) 全国高等学校PTA連合会 「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」

<テーマ>

「子どもたちのメンタルヘルスと学習意欲」

～近年の学力低下の背景にあるもの、教わる？学ぶ？～

<趣 旨>

現在、学校関係者、保護者の最も大きな関心事のひとつに生徒の学力低下がある。そこで、子どもたちのメンタルヘルスが、学習意欲をはじめとする各種活動意欲の低下とどのように関連しているのか、及びその背景に保護者との関係を含む家庭や地域社会がどのように影響を及ぼしているかについてアンケート調査を実施した。

このアンケート調査結果を踏まえて、平成22年12月3日（金）に京都府総合教育センターにおいて開催された近畿地区研修会は、(社) 全国高等学校PTA連合会相川副会長、健全育成委員会の孫竹副委員長・日比野委員を迎え、近畿各府県市のPTA会員多数が参加して成功裏に終了した。

そこで、近畿地区研修会の記憶が新しい内に、その成果を単位PTAでの学習につなげることを目的とし理事研修会を開催する。

理事研修会では、近畿地区研修会の取組状況を総括するとともに、基調講演とパネルディスカッションの内容を確認し、今後、学校・家庭・地域での取組にいかにかを協議する。

<日 時>

平成22年12月9日（木） 午後3時から4時30分まで

<会 場>

ホテル ルビノ京都堀川

<主 催>

京都府立高等学校PTA連合会

<参加者>

京都府立高等学校PTA連合会 理事・事務局長

<内 容>

挨拶 卯瀧会長

協議 理事全員

まとめ 卯瀧会長

京都府立高等学校PTA連合会研修会

■挨拶

京都府立高等学校PTA連合会会長 卯瀧俊明



本日は、近畿地区研修会から1週間経たない大変御多用な時期にお集まりいただき有難うございます。

まずもって、近畿地区研修会の開催に当たっての取組にお礼申し上げます。理事の皆さん・理事校PTAの皆さん・さらに先生方の御協力をいただき、成功裏に終えることができました。

木原先生の基調講演はもちろんとして、パネルディスカッションにも高い評価をいただいたと考えております。

今日は、近畿地区研修会の中心となってお取組いただいた理事の皆さんに、取組についての反省、研修会で学んだこと、そして、単Pでの学習会にいかにつなげるかを、率直に意見を出し合って協議したいと存じますので、よろしくお願いたします。

近畿地区研修会、参加者は433人。参加者アンケートの回答状況、「子どもたちのメンタルヘルスについてのヒントが得られたか」に圧倒的多数

■報告

事務局長

が「得られた」と答えられるなど、積極的な評価。今後の活動についても前向きな回答がほとんどであった。

■協議

□研修会の取組について

- ・開催日の決定・開催の形式（京都市内ブロック指導者研修会と同日・同会場で開催）決定が5月下旬。以後、半年の時間をかけて取り組んだ成果が出た。
- ・県の大きな行事と重なって、代表参加となったところもあった。条件を整えば、もっと多くの参加者が得られた可能性もあった。
- ・木原先生の講演には、熱烈な感謝の声があった。
- ・パネリストの人選も当を得ていた。連合会役員と校長先生方でずいぶん検討し、府教育委員会にもお世話になった。
- ・当日の要員の皆さんには、受付時間帯の突然の

風雨にもかかわらず経路の案内に立つなど、熱心に協力いただいた。

- ・講演やパネルディスカッションの途中で帰る人はなかった。
- ・会場のロビーや廊下にモニターがあれば、受付をしながら研修会の様子がわかったのだが。要員としての業務に就いていて、切れ切れにしか聞けなかった。
- ・細部では、いくつかミスもあったが、大きな流れとしては、支障なく開催できたのではないかと。

□基調講演について

- ・武道館での印象と同じ。すばらしかった。

- ・綿密なデータと研究者としての真摯な姿勢が伝わってきた。
- ・心に響くお話しであった。
- ・子どもの教育に苦労された自らの体験を含めて、語りかけられ、子ども中心の目線・参加者と同じ目線を感じた。
- ・成長の途中、失敗してもおかしくないというお話しに安心感を覚えた。
- ・ありのままのお話しと受け入れることができた。
- ・自分の悩みと重なるお話しで良かったという感想を聞いている。
- ・ビデオで、生徒の顔が変わる瞬間に感動した。
- ・定時制には、つまづいた生徒が多い。大変参考になるお話しだった。
- ・「のっぺり」という現象は、社会問題だと感じながら聞いた。

□パネルディスカッションについて

- ・コーディネーター・パネリストの人選が良かった。

- ・それぞれの立場からの発言だったが、参加者と同じ目線を感じた。
- ・大学生の発言には、みんなが聞き耳を立てている感じだった。
- ・4年間であれだけ成長するのかという驚きと、我が子の状況との隔たりを感じた。
- ・これで普通、これからがんばればよいという安心感が得られた。
- ・(パネリスト)当日は、自分の発言で精一杯。木原先生交えた打合せの時から、メンバーの雰囲気よかった。

□単Pでの学習会について

- ・メモ取りながら聞いていた。単Pで報告したい。
- ・会場まで遠く、大勢参加できずに残念。
- ・木原先生の講演やパネルディスカッションでこんな発言があったということなどを、広めていただければ、研修会を開催した甲斐がある。
- ・各理事共、年内は日程設定、もはや困難。新年に報告会・研修会などを開催したい。

■ま と め

会長

熱心な御協議有難うございました。

会場が一体となった研修会だったなと改めて感じております。

この研修会が、今後、参加者の子育ての一助になればと思っております。

協議でもありましたが、折角研修会で学んだこ

とを参加者だけのものにしていただけではもったいないことでもあります。是非単Pにお持ち帰りくださり、可能な形で学習会を持っていただいて、今回の成果を広げ、また、今後につながるものにしていただければ幸いです。



埼玉県熊谷女子高等学校PTA研修会

PTA役員伝達講習会報告

埼玉県高等学校PTA連合会 会長
埼玉県立熊谷女子高等学校PTA会長

松本裕史

開催日時 平成22年12月21日（火）

参加人数 熊谷女子高等学校PTA役員および
教職員 23名

平成22年12月1日に開催された全国高等学校PTA連合会主催のシンポジウムに参加した役員さんから、その内容を伝達するための講習会を開催しました。当日の資料をコピーして参加者に配布し、内容について説明した後、質疑応答の時間をとりました。

講師役の役員さんから、シンポジウムの状況報告と、資料の補足解説をいただきました。特にアンケート調査の結果で、高校生と保護者の意識の実態が参加者の興味を引いたようでした。前年との比較では、学習状況が、まったく勉強をしていない生徒の割合が50から60%に増え、それとともに一日の平均学習時間が男子45分から35分、女子が56分から36分と減少していたことには、参加者

からため息が漏れていました。また、一日の携帯電話の使用時間が男子2.8時間から3.3時間、女子4.2時間から4.5時間と長くなっているとのデータも、関心を呼んでいました。例年のアンケート調査の結果の比較は、高校生の意識の経時変化を見る上で貴重なものだと意見も、報告後の質疑応答の時間にでました。

また、アンケート結果をふまえて、現在の高校生の意識を理解したうえで保護者としてできることは何か？ということについて意見交換の場を設けました。その中では、子どもたちとうまくコミュニケーションをとり、子どもたちが思っていることを聞き、また、保護者の考えを伝え、理解してもらうという当たり前の人間関係を作る努力が必要という結論に達しました。また、この場で紹介しきれないほどの意見がだされ、非常に有意義な伝達講習会になりました。



石川県金沢伏見高等学校PTA研修会

子どもの心を知っていますか？ ～高校生のメンタルヘルスの現状と私たち大人にできること～

<日 時> 平成22年12月24日（金）15：00～16：00
<会 場> 金沢伏見高校
<参加者> P T A役員及び実行委員及び先生 17名

挨拶

木村 今年の夏休み前に全国で高校2年生とその保護者対象に「全国高校生生活・意識調査」というアンケートを実施しました。うちの高校でもアンケートをしました。アンケート結果が出ましたので、その結果をもとにみなさんと話し合いたいと思います。

*問3ですが、去年に比べてまったく勉強しない子が増えているそうです。

*問4ですが、4人に1人がまったくついていけなく、去年よりもわからなくなっているそうです。

委員 わからないという選択の次に、それをどうするのかのアンケートがあればよかったのでは？

委員 伏見高校では、職員室の前に机があってそこで先生に聞ける。

委員 子どもが部活の遠征等で授業を受けなくても先生に聞いてわかるまで習ってきている。

*問5ですが、高校生と比べると意欲のない人の割合は、保護者は半分以下だそうです。

*携帯について

委員 携帯で弓道の連絡とかあるのでいつでも見てチェックする。

委員 携帯依存症だった子どもが、盗難にあって、2週間くらい情緒不安定になっておかしかった。その後、ないことを受け入れたのか、穏やか

になり、家族との会話も増えて1カ月して落ち着いたので携帯を買ったら、また依存症に…。

委員 親も子もまったく携帯は気にならない。

役員 うち、自営で主人と携帯を使って仕事のことをすることもあるので、携帯がないと仕事に支障が出ることもあり、持ち忘れるとドキドキすることがある。子どもたちには、食事中は禁止にしてるので、自分にきたメールが食事中だと、子どもの手前もあり急いで食べ終わって見たりする。子どもたちがいないと、食事中でもメールは見ってしまう。

*問14ですが、睡眠薬、精神安定剤、大麻などの使用は少なからず使用者が存在している。いじめ被害、自傷行為は、女子が高い傾向は変わらない。これらの割合は学校により大きな差がある。

委員 大麻などの薬物は絶対使ってほしくない。インターネットで種を簡単に購入できるから心配。

*問15では、10人に1人の生徒が不健康なメンタルヘルスの様子をあらわしているそうです。

*問17では、大人のほうが作り笑いをすることが多いと思ってましたが、子どものほうが多く、周囲に気をつけているみたいです。

*親子関係について

委員 子どもが小さい時から母と一緒に行動し、

話していたけど、中学生くらいからだんだん母親ではなく、父親ともかかわるようになって、時と場合で話をする人を臨機応変にしているみたい。(お父さんに話すこと、お母さんに話すこと、携帯でたわいもないことを友達と)

委員 子どもに嫌われるがいやで怒れない親がいることに驚いた。

委員 小さい子どもを連れてくる親で、騒いでいても注意しない親がいる。

委員 子どもに注意する時、なぜだめなのかを言わず、他の人に怒られるからなどを理由に子どもに言う。

委員 ゲーム機を買い与えたことが会話が少なくなった。

役員 親が親に接する態度を子どもは見ている。自分が仕事で忙しいので、祖父、祖母が子どもの面倒をみてくれて感謝しているし、色々な事を子どもは教えてもらっている。

委員 なんでも言葉を短く使うことが多くなって、会話が、うまくできなくなってる。

木村 本日は、たくさんのご意見ありがとうございました。このアンケート結果を子どもとの会話や何かの時に参考になればと思っています。



福井県高P連会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会

(福井県生活学習館「ユウ・アイふくい」内) 揚原安磨



赤兎山から白山・別山を望む

「研究大会」開催される

去る十一月二十七日(土)、県内の高等学校PTAの関係者が集まり「研究大会」が開催されました。これは今年の福井県高P連が提唱した「県高Pデー」と位置付けられた事業で、ここまでの約半年務められた各校の本年度PTA会長の皆さんと、次年度を担う皆さんが一堂に会し、来年に向けた勉強会を行いました。各校からPTA担当の先生方、および校長先生にもご参加をいただきました。

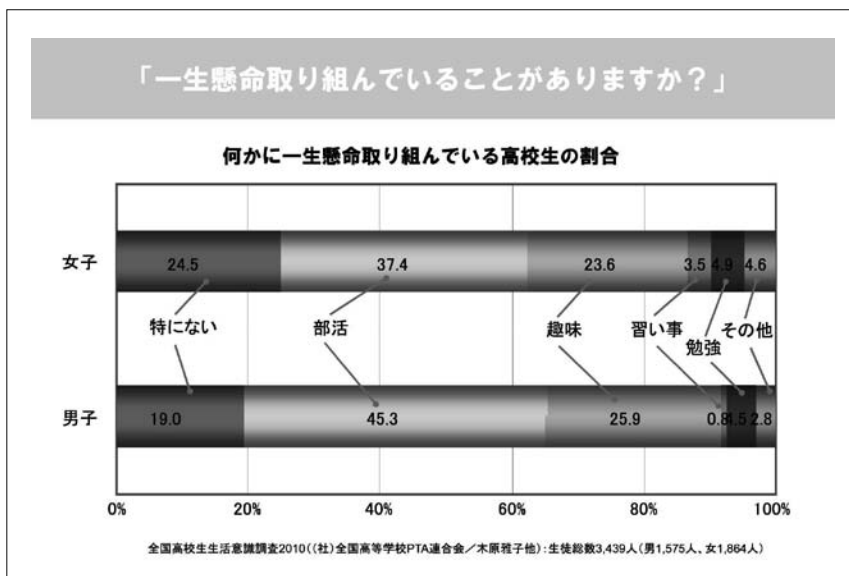
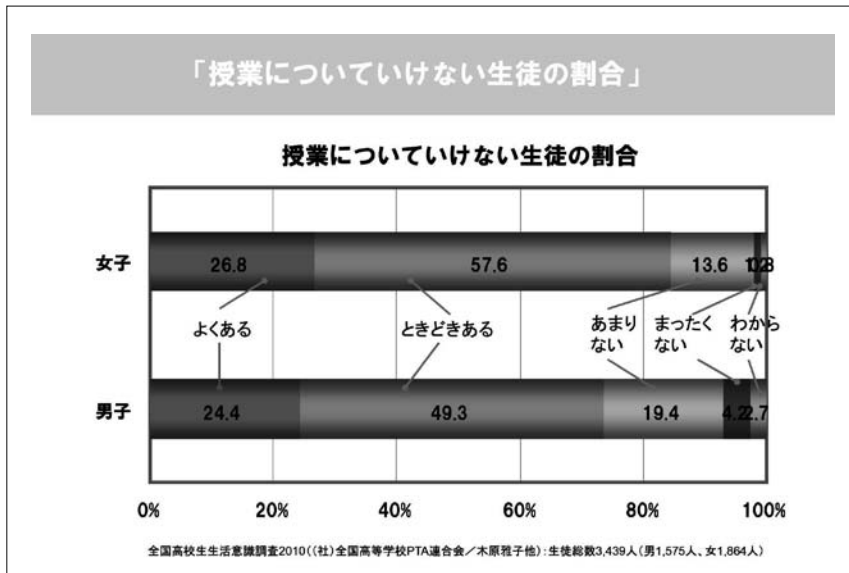
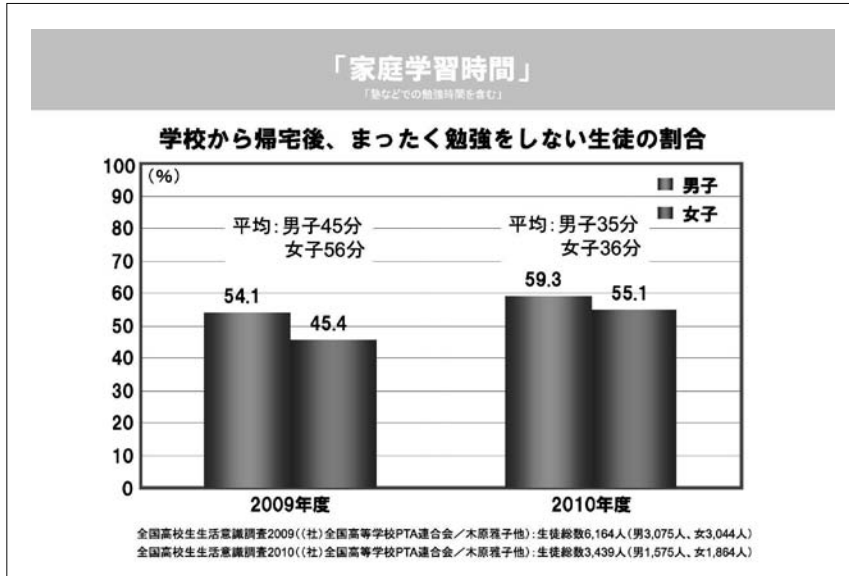
研究大会の副題は、「PTA会長は、たいへん(大事)な仕事なんです。」でした。

PTA会長職は保護者の皆さんからの負託を一手に受け、いろいろな面で大変な仕事であります。同時にたいへん大きな役割と意義を担っており、各校の将来のためにいろいろなことにチャレンジしていただく可能性を持つたお役目です。そのことを各校の会長という同じ立場、また本学年度間で共有していただき、他校との情報交換や知恵・経験の相互支援を目指したものです。同期のPTA会長どうしの横のネットワークづくりにもお役に立ったかと思えます。

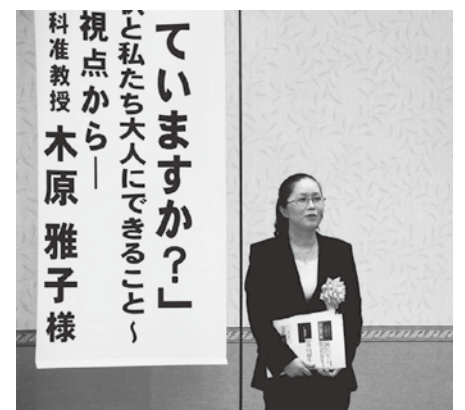
何事もゼロから考えるのでは大変です。現在行われているいろいろな物事には、先達の経験や知恵の結果が引き継がれていることが沢山あります。また一方で、習わしで継続していることをどこかで見直しをした方がよい場合もあります。まず、自校の現状を知り、併せて他校の状況を聞き、違いや新しい発想から課題を見つけていくことが一つの近道でもあります。先日、ご協力いただいたPTA活動の実態調査の集計報告を基に、テーマをいくつかに分け、情報共有を図りました。十一月という時期に、次年度の皆さんに心の準備と課題意識をお持ちいただくことにも大きな意義があったと考えています。

PTAに関わっていると、よく耳にする言葉に「共育」という言葉があります。完成された親などおらず、子どもを育てているつもりで、子育てを通して親自身が成長する機会ともなっているという意味だと思えます。各校のPTA活動の中でも、会長や役員としてご尽力いただく中で、ご苦労や経験の数だけ、喜びがあったり何かしらご自身の成長に繋がるものもあったりするのでないでしょうか。今後とも、各校の保護者の皆さん全員のご理解ご協力、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

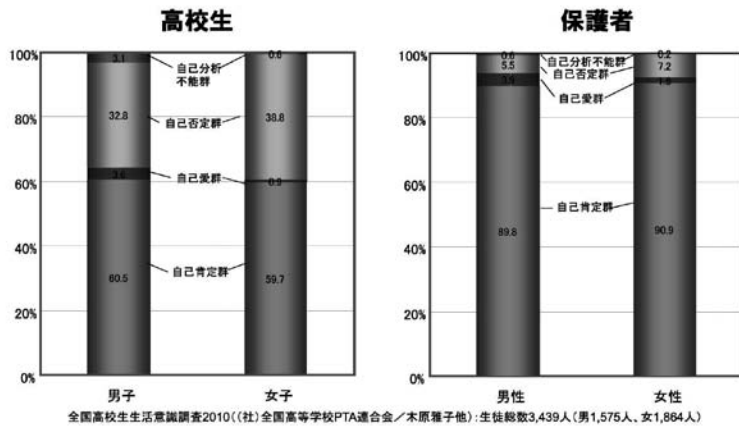
(福井県高等学校PTA連合会会長 揚原安磨)



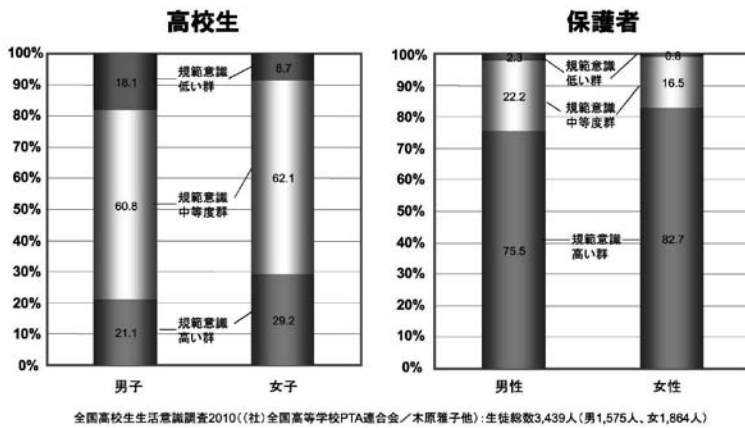
セミナー第一部
高校生実態調査報告会
 「子どもの心を知っていますか？」
 ～高校生のメンタルヘルスの現状と私たち大人にできること～



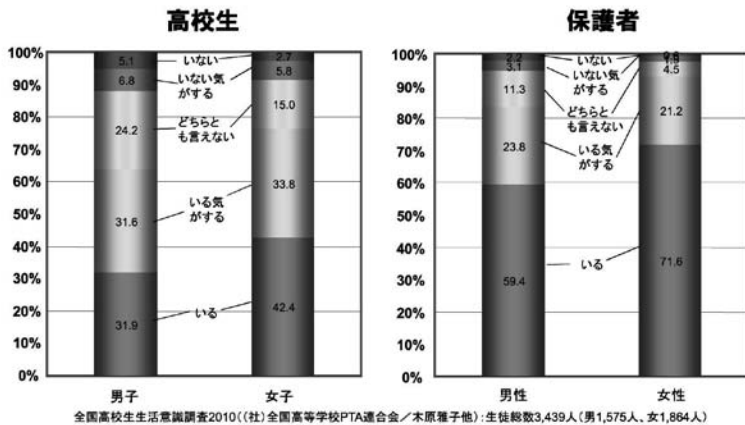
「自己肯定感」(高校生と保護者の比較)



「規範意識」(高校生と保護者の比較)



「本気で心配してくれる人の存在」(高校生と保護者の比較)



最初に、去る十一月十八日に新潟市にて開催された全高P連主催「子どもメンタルヘルス向上支援 北信越地区シンポジウム」での、京都大学大学院医学研究科社会疫学分野准教授 木原雅子氏による基調講演のVTRが放映されました。

氏は、青少年に対する膨大な調査結果を基に、子どもの現状に応じた効果的な教育の開発を行っておられます。調査結果により、現在の子どもの抱えるさまざまな問題の背後に共通して見られる現象として「人間関係の希薄さ」が浮上してきました。そこで、失われ

た「人間関係の回復」を教育の根本にすえて、各種予防教育の開発普及に努力し、全国で活躍されています。講演は、全国の高校生約三千五百名・保護者約二千五百名を対象に実施した「高校生の現状」「意欲のなさの背景」についてのアンケート結果および考察

から始まりました。「高校生の現状」では、授業についていけないと答えた生徒が八割で、自宅学習をまったくしない生徒の割合とともに、年々増加しています。「一生懸命取り組んでいること」は、部活が

四割前後と最も多く、次いで趣味が二割強ですが、特にないと答えている生徒が二割程度いるのが気になります。

「自己肯定感」について保護者と比較してみると、保護者は九割と高いのに、高校生は六割程度に留まっています。

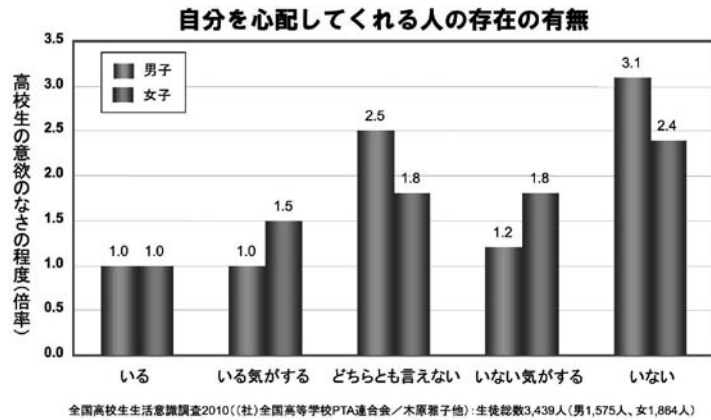
す。同じように「規範意識」も保護者八割前後に対し、高校生は二〜三割と少なくなっています。なぜ、親の「規範意識」が高いのに、子どもは低いのでしょうか？家庭生活の中で、親子へうまく伝わっていないのかもしれない。「社会性」「本気で心配して

れる人の存在」でも同じような傾向にあります。これは、年令とともに築かれていくものだからでしょうか？

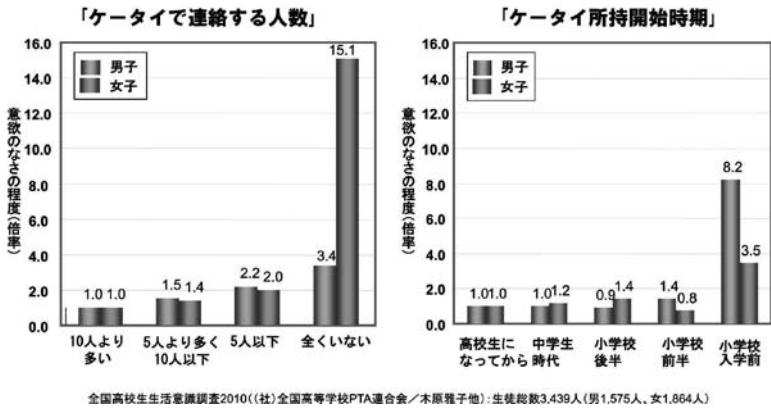
次に、高校生の「意欲のなさ」についての調査結果ですが、携帯電話の使用時間が年々増加しており、特に女子

の依存度が高くなっています。さらに、携帯電話を持ち始める時期が若年化してきており、早く持ち始める子どもほど「意欲のなさ」の程度が大きくなる傾向が見られます。友達、先生、母親、父親との人間関係についてたずねてみると、男子生徒はそれぞれの設問で、

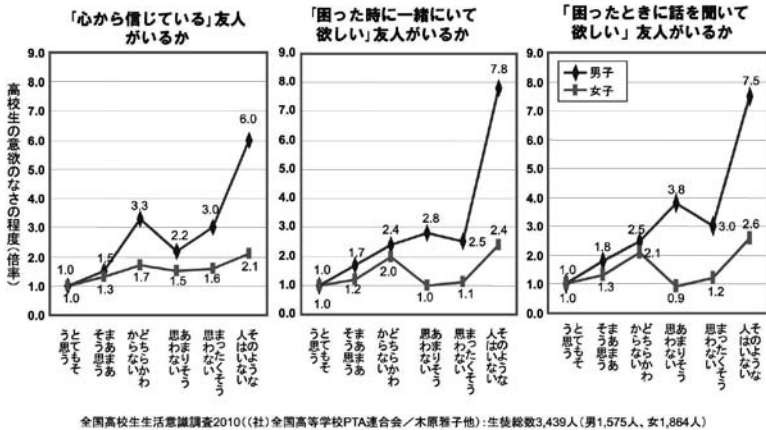
「自分を心配してくれる人の存在の有無」と「意欲のなさ」の関係



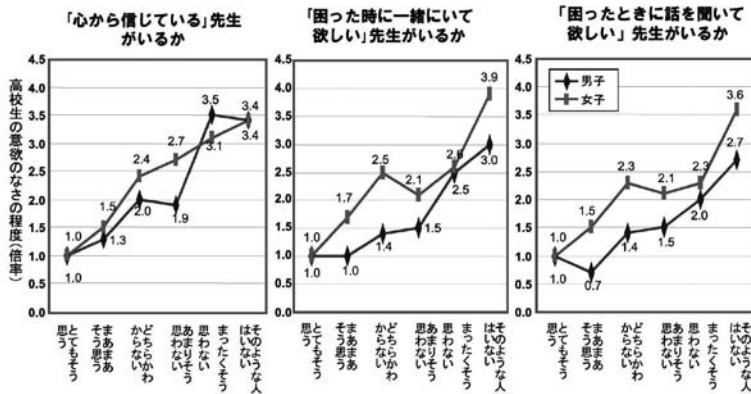
「ケータイ使用状況」と「意欲のなさ」の関係



「友人との人間関係」と「高校生の意欲のなさ」の関係



「先生との人間関係」と「高校生の意欲のなさ」の関係

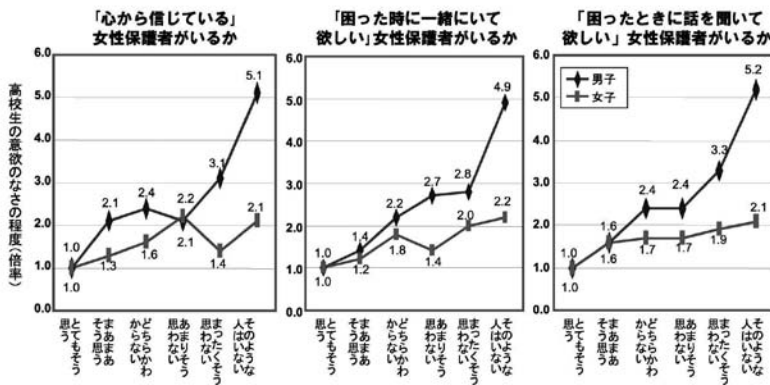


全国高校生生活意識調査2010((社)全国高等学校PTA連合会/木原雅子他):生徒総数3,439人(男1,575人、女1,864人)

信用できる人がいないと、高い数値を示しています。女子生徒は、信用できる先生が少ないと感じているようです。氏は「今の高校生は、高校生としての自分を受け入れることができないまま、自分の居場所を探し、嬉しいと感じることもなく、自分を心配してくれ

ている人たちの存在を感じないまま、携帯電話を握り締め、うわべだけの友達と付き合い、先生や親は流れていく風景と感じながら人間的つながりが衰えていく社会の中で、高校生活を送っている」と締めくくられた。一見、社会は便利で暮らしやすくなっ

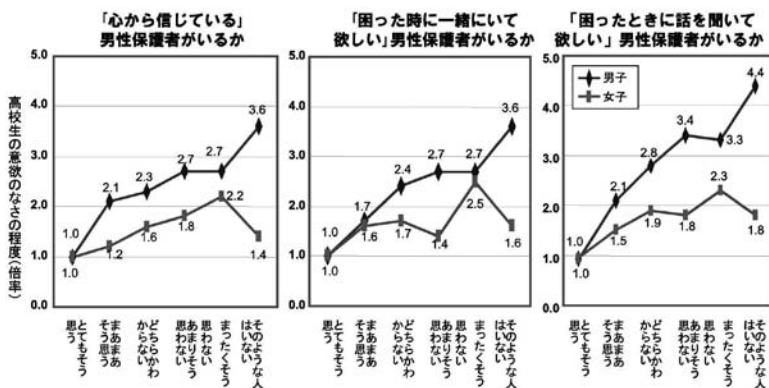
「女性保護者との人間関係」と「高校生の意欲のなさ」の関係



全国高校生生活意識調査2010((社)全国高等学校PTA連合会/木原雅子他):生徒総数3,439人(男1,575人、女1,864人)

たように見えますが、その反面、子どもでもあった頃があるように、大人のエゴだけで物事を進めてはいけな

「男性保護者との人間関係」と「高校生の意欲のなさ」の関係



全国高校生生活意識調査2010((社)全国高等学校PTA連合会/木原雅子他):生徒総数3,439人(男1,575人、女1,864人)

大人の本気の関わりは、子どもに必ず伝わります。子どもの未来は、わたしたち大人のやる気にかかっています。なお、この調査の詳細な結果は、報告書にまとめられ、来年三月に各校へ配布されます。

あとがき

本年度事業についての所感

理事・健全育成委員長
揚原安磨

全国高等学校PTA連合会が実施している事業として、当調査およびその後の展開という事業は極めて特徴的であり、また、意義深いものである。変化の激しい高校生の動向やそれを取り巻く環境を的確に把握するための調査は、調査の内容、調査の方法、分析の手法など決して容易なものではない。特にメンタルな課題やいわゆる問題行動を取り上げようとする、費用や人数を掛ければ調査できるというのではなく、誰が・何のために・どのような方法で調査するかによって、結果の信頼性が大きく左右されることになる。また、変化を捉えるためには、定点観測的な継続性とタイムリーな切り口との両面での工夫も必要である。取るべき対策にどう反映するかは、保護者・学校・行政等のそれぞれに委ねられるが、この調査が興味本位でなく真に子どものためになることを念頭に行われていることも関係各位の深いご理解のお蔭である。このような意味で、5年間継続している当調査は、PTAの全国組織だからできる有意義な調査だと自負している。

さらに、本年度は「地域の教育力強化」を通し、リーダーの育成と調査結果の伝達・展開を行うことがもう一つのポイントであった。調査の結果を、木原先生の分析・解説付きで各地開催の研修会（シンポジウム）によって地域のリーダーが共有し、そのリーダーが各PTAでの事業に繋げ伝達を行うという形である。全国4か所の開催地では、地域のパネラーを交えたパネルディスカッションで議論を深め、生きた事例研究等も行われた。一方的な伝達ではなく、様々な議論や事例による理解と実感が、伝達役としてのリーダー育成に有効に機能したと考えられる。

しかしながら、率直に省みれば課題も多い。当

委託事業が7月の実施決定から1月末の報告書作成までの期間で、調査の内容検討・作成・実施・集計・分析、シンポジウムの準備・開催、その先の現場での実施・フォローアップを行うことは、かなりの困難があると言わざるを得ない。特に、最終目的である単位PTAや都道府県連合会等の現場での実施が12月以降になることは、効果的とは言えない時期であることは間違いない。

将来的には、一つの考え方として年度を越えて当活動を継続することも考えていくべきではないかと思う。例えば、本年度調査した内容をより多くの会員に伝えるために、次年度当初の各単位PTAで研修会や総会行事としてセミナーを開催できるような仕組みができれば、より大きな効果を期待できる。昨今、ネット環境の充実やメディアの多様化により動画による配信や映像のライブラリー化のコストや利便性は画期的に改善されてきた。新技術も活用し、できるだけダイレクトに伝えることなどを、是非、次年度事業として検討をしたいところである。こうした手法についても委託元には前向きなご理解をいただきたい。

最後に、当調査にあたり、迅速にご協力いただいた調査協力校の皆様、京都大学をはじめとする研究者の皆様、全国の調査対象高等学校へ協力をお願いして下さった全国高等学校長協会様、加えて、各都道府縣市単位PTAにおけるリーダーとして本事業のために活動された大勢の役員及び地域の社会教育団体の皆様、教育委員会および社会教育団体との調整にあたられた（社）全国高等学校PTA連合会健全育成委員会のメンバーに改めて感謝を申し上げ、委員長からの御礼のあとがきとさせていただきます。ありがとうございました。

文部科学省委託事業

平成22年度

「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究報告書

社団法人 全国高等学校PTA連合会

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル)

TEL: 03-5835-5711 FAX: 03-5835-5757

URL: <http://www.zenkoupren.org/>

e-mail: info@zenkoupren.org

印刷／製本 明和印刷株式会社

